

(3) 北樺太利権および漁業權益に対するソ連の圧迫

193 昭和12年5月17日 佐藤外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

北樺太利権事業に対するソ連官憲の圧迫的措置
置に關し穩便解決のため外務部に交渉方訓令

本省 5月17日後1時0分發

第一九四號(至急)

最近我石油石炭利権事業ニ對スル「ソ」官憲ノ態度ハ目立チテ壓迫的トナリ、小杉事件ニ、谷川事件ニ、露人従業員等七名檢舉事件四、島内旅行許可手續問題(以上石油) 五、管原、相見事件六、船舶ノ亞港寄港問題七、積込夫勞働時間延長問題(以上鑛業)等ハ何レモ之ヲ證スルモノト認メラルル處檢舉事件裁判事件殊ニ体刑言渡ノ如キハ日「ソ」従業員ヲ脅怖狀態ニ陥レ事業ノ遂行ニモ支障ヲ來ス虞大ナル趣ニ付他ノ件ト共ニ「ソ」中央當局ニ嚴談シ其反省ヲ促スコトト致度ク、關係電報參照ノ上外務部ニ對シ
一、及ニ、ニ付テハ事件ノ内容ニ比シ被告ノ責任過大ニ問ハレ居ルコトヲ指摘シ再審ノ場合罰金程度ニテ落着ク様斡旋ヲ

求メラレ、

三、ニ付テハ檢舉ノ原因ノ説明ヲ求メラレタル上、利権事業ニ眞面目ニ勤務スル「ソ」聯人従業員ニ對シ組合及「ソ」官憲ガ壓迫ヲ加フル傾向アルヲ指摘シ反省ヲ促ガサレ

四、ニ付テハ公判廷ニ於テ判事ガ被告ニ有利ナル證人ノ陳述ヲ抑ヘ付クル如キ態度アリタル趣ニ付此點深甚ノ注意ヲ促シ過去ニ於ケル同種ノ事件ニ比シ判決重ク殊ニ体刑ノ如キハ前例無キ事ヲ説明セラレ今般モ再審ノ場合体刑言渡ノ無キ様斡旋ヲ求メラレ、若シ「ソ」側ガ鑛業會社ノ態度ヲ云々スル場合ハ現地「ソ」官憲ガ我在亞港總領事ト協力シテ各種問題ノ穩便解決ヲ計ルコト望マシキ旨應酬セラレ度ク、

四、六、及ニ、ニ付テハ多年ノ慣行ヲ今ニ至リテ俄ニ變更スルノ理由ヲ了解シ難ク一方之ニ依リ會社側ノ受クル不利不便ハ甚大ナル所以ヲ説明セラレ當該官憲ノ再考方斡旋ヲ求メラレ度シ

尙「ソ」外務部當局ハ司法部其他ノ官廳ノ權限ニ屬スル事項ニ關與スル能ハズ或ハ「ソ」聯人ノ檢舉ニ付日本側ニ説明スル必要無シ等ノ逃口上ヲ述ブルヲ常トシ居レルガ他官

廳ノ權限ヲ侵サズシテ外務部ガ斡旋ヲ行フコト可能ナル可ク又「ソ」聯人ト雖其逮捕ガ我利權事業ヲ妨害スル以上「ソ」側トシテ逮捕理由ヲ説明スルノ要アルモノト認ムル次第ナリ爲念

194

昭和12年6月4日 佐藤外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

利權事業に関わる諸問題解決のため必要に
応じ外務部と直接交渉方訓令

本省 6月4日後4時50分發

第二三〇號

往電第一九四號ニ關シ

右往電記載ノ諸問題解決ニ付「ソ」側ハ其ノ後何等ノ誠意ヲ示サザルノミナラズ石油利權ニ於ケル労働者傭入、酒保品輸入、潛水夫傭入、不開港場入港許可、試掘計畫ノ變更及追加、神澤社員査證、及「カタングリ」海底鐵管敷設等ニ關スル問題及石炭利權ニ於ケル貴地團契交渉、馬場、川瀬拘禁事件等ニ現ハレタル我利權企業ニ對スル壓迫の態度ハ益々露骨トナリツツアリ之ニ依リ利權企業ノ被害ハ甚大

ニシテ經營ノ根本ヲモ脅カサルル次第ナル處是等問題ニ付在京「ソ」大使館ト交渉スルモ實效ヲ期シ難キニ付貴地ニ於テ竹原、坂口、兩名ヨリ夫々事情御聽取ノ上會社側ノ對「ソ」交渉ヲ此際一段ト積極的ニ御支持相成リ必要ニ應ジ外務部當局ニ對シ直接御交渉相成様致度シ
亞港及「オハ」へ轉電セリ

195

昭和12年6月10日 在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

利權事業に関わる諸問題解決のため影響力行
使方重光大使よりリトビノフ外務人民委員へ
要請について

モスクワ 6月10日後發

本省 6月11日前着

第四五一號

十日「リ」ト會見ノ機會ニ於テ樺太ニ於ケル石油、石炭利權會社ノコト等ニ付會社側ヨリ本年ハ例年ノ如ク圓滿ニ事業遂行出來サル旨屢々訴へ來レリ詳細ノコトニ付テハ會社側ヨリ直接貴方當該官憲ニ申出ヲ爲シ或ハ大使館員ヲシテ

貴方係官へ其ノ都度交渉セシメ居ルカ例へハ會社ニ於テ例年使用スル技術者、勞務者ノ入國及蘇聯ノ勞働者雇入又ハ物資ノ輸入ニ付障礙アリ又彼等ヲ運フ船舶ノ寄港其ノ他ニ付便宜ヲ受ケス是等ノコトニ關スル蘇側ノ取扱ハ或ハ許可ヲ與ヘストカ又ハ許可ノ非常ニ遲延スルトカニテ甚タシキ損害ヲ蒙リ居ル狀態ナリ會社側ニテハ斯様ニシテ條約ニ所謂收益の採算ヲモ取レス斯テ條約又ハ契約ニ依ル便益ヲモ受ケ居ラスト申立テ居レリトテ右ニ付會社側ニ満足ヲ與ヘラルル様何卒貴下ノ「インフルエンス」ヲ用ヒラレ度キ旨申入レタルニ「リ」ハ實ハ本問題ハ能ク承知セサルモ「ストモニヤコフ」以下ニ於テ出來得ル丈ケノコトハ爲シ居ル筈ナリト答ヘタルニ依リ本使ハ事情右ノ如クナルヲ以テ茲ニ更ニ貴下ノ注意ヲ喚起セル次第ナリト述ヘ置ケリ

~~~~~

196

昭和12年6月22日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

石油船の寄港地問題等早期解決を要する利権

諸問題につき外務人民委員代理へ詳細説明の

上尽力方要請について

第五〇六號

往電第四九七號ニ關シ

モスクワ 6月22日前発  
本省 6月22日後着

廿一日午後西及宮川同伴「ストモニヤコフ」ヲ往訪本使ヨリ一昨日モ申述ヘタル通り最近各種交渉案件進捗セサルハ遺憾ニシテ殊ニ石油及石炭兩企業關係ノ諸問題ニ付テハ當地兩會社代表ニ於テ當局トノ交渉ニ努メ居ルモ容易ニ埒明カサルニ依リ篤ト貴下ノ考慮ヲ煩度シトテ差當リ急速解決ヲ要スル問題トシテ石油ニ付テハ(イ)邦人勞働者ノ傭入問題(ロ)「オハ」以外ノ利権地ヘノ寄港問題(ハ)露人勞働者輸送船提供問題(ニ)物資輸入問題(ホ)「カタングリ」海底送油管敷設問題(ヘ)邦人潛水夫使用問題(ト)神澤社員ノ査證問題、又石炭ニ付テハ(イ)物資輸入問題(ロ)石炭積込夫ノ時間外作業問題(ハ)邦人勞働者ノ傭入問題(ニ)邦人勞働者ニ對スル六箇月ノ期限附査證問題(ホ)當地團體契約交渉ニ於テ蘇側力從來ヨリモ過重ナル提議ヲ爲シタル件ニ付夫々從來ノ經緯ヲ記載セル書物ヲ提示シ之ヲ讀ミ聽カセタル上右ノ中最モ急ヲ要スルハ石油ノ前記(ロ)ノ問題ナルニ付之カ速急解決方御盡力ヲ希望

スト述ヘタルニ「ス」ハ利權企業ノ個々ノ問題ハ外交々渉トシテ取上ケ難キ次第ナルモ貴使ニ於テ本問題ヲ重要視セラレ又今回ノ御申入ハ利權企業ト蘇側當局トノ間ノ全般的問題ヲ取扱ハレ居ラルルニ依リ自分モ前記諸問題ヲ篤ト研究シタル上回答致スヘシ尤モ職業組合關係ノ問題ニ付テハ蘇政府トシテ干涉出來サルニ付御諒承アリ度シト答ヘタルニ依リ本使ヨリ問題ノ急速處理ヲ要スル旨重ネテ強調シ職業組合ニ付テモ然ルヘク考慮ヲ拂ハレ度キ旨希望シタル上尙石炭船ノ亞港寄港命令撤廢ニ關聯シ港灣稅ヲモ課スヘカラサル旨ノ指令地方當局ニ傳達セラレサル模様ニテ會社代表ハ十七日以來當局ニ面會ヲ求メ居ルモ今日迄面接出來サル狀態ナルニ付右指令ノ徹底方ニ付テモ盡力アリ度キ旨申入レ置ケリ

亞港、「オハ」へ轉電セリ

197

昭和12年6月30日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛（電報）

石油・石炭船寄港地問題や邦人の裁判問題に  
関し円満かつ迅速な解決方ソ連側へ申入れに

ついて

別電

昭和十二年六月三十日発在ソ連邦重光大使より  
り広田外務大臣宛第五三三三号

利權關係諸懸案についてのソ連側説明

モスクワ 6月30日前発

本省 6月30日後着

第五三三號

往電第五二五號ニ關シ

二十八日西「カズロフスキー」（約一週間前歸莫執務）ヲ往訪貴下ノ不在中ニ各種問題ノ交渉停頓シ利權問題ニ付テハ大使ヨリ「ストモニヤコフ」ニ全般的ノ申入ヲ爲サレタル程ナルカ右申入ノ諸問題ニ付テハ關係官廳ト良好ナル聯絡ヲ有スル貴下ニ於テ至急圓滿解決方配慮アリ度シ殊ニ石油船ノ寄港地問題ハ石炭船ノ土威寄港問題ト同様ノ趣旨ニテ迅速解決ヲ期待スル旨述ヘタルニ「カ」ハ寄港地問題ニ付テハ數日中ニ確答致スヘシトテ其ノ他ノ諸問題ニ付テ詳細別電第五三三號ノ通り説明セリ右ニ對シ西ヨリ本件ハ夙ニ當方ヨリ「ポリソフ」其ノ他ニ申入濟ノモノナリシニモ拘ラス進展セス會社代表モ當局ト面會スラ澁ラレ居タルモノ

ナルカ今日全般的ノ説明ヲ與ヘラレタル丈ケニテモ進歩ト  
言フヘク右ニ對スル當方意見ハ會社代表トモ打合ノ上次回  
ニ開陳スヘキカ唯々石炭會社カ組織のニ蘇側法規ヲ蹂躪シ  
居ル旨ノ貴説ハ豫テ會社側ニ法規ノ遵守方注意シ居ル當方  
トシテ納得シ難シ殊ニ最近ノ相見、菅原事件ニ付見ルモ蘇  
側裁判所ハ事實ノ認定ヲ誤リタルノミナラス刑罰法規ノ適  
用ニ苛酷ナルモノアリ尙相見等ノ第二審出廷ニ付亞港ヨリ  
ノ飛行機ノ便宜モ與ヘス公判ノ延期モ許サスシテ缺席裁判  
ヲ爲セルカ如キ取扱振ニ鑑ミ蘇側ノ所謂會社側ノ組織的法  
規違反ノ如キモ我方トシテ信用出來サル次第ナリト述ヘ兩  
被告ハ亞港ニ於テ「ナツゾール」手續方申請手配中ニ付本  
事件ノ穩便取扱方切望スル旨申入レ置ケリ  
亞港、「オハ」ヘ轉電セリ

## (別電)

モスクワ 6月30日後発  
本省 6月30日夜着

第五三三號  
<sup>(1)</sup>一、石油關係

(一)日本勞働者ノ入國許可遲延ニ付テハ會社側ノ責任ナリ  
會社ハ日本人傭入勞働者ノ職業別通報方ニ關スル蘇側  
ノ要求ヲ拒否シ且日蘇人比率ヲ有利ナラシムル爲生産  
の考量トハ別ニ尨大ナル要求ヲ爲シ居レリ右比率關係  
ハ蘇側ノ夙ニ改訂ヲ希望スル所ナルカ蘇側ハ會社ノ申  
請ニ對シ蘇側ニ缺如シ居ル種類ノ勞働者ハ日本人ヲ以  
テ代ユルコトヲ許可シ又歸國勞働者ノ交代者及幹部六  
十五名ノ入國ヲモ許可シタリ

昨今會社ハ蘇聯勞働者傭入申請ニ於テ蘇側ニ缺如セル  
種類ノ勞働者ヲ多ク加ヘ且日本人勞働者ノ職業別ヲ明  
カニシ居ラス若シ職業別明カトナレハ中ニハ蘇人ヲ使  
用シ得ル者モアルヘシ故ニ蘇側ハ之カ通報ヲ待チテ申  
請ヲ審議スヘシ

(二)物資輸入ニ付會社ハ本年尨大ナル申請ヲ爲セルカ蘇官  
憲トシテハ殘存在庫品ヲ考量セントスルモノナリ曩ニ  
二百七十萬留ヲ許可セルカ在庫品ヲ考量セハ右ハ充分  
ナリト認メ居レリ尤モ冬期勞働者ヲモ加ヘタル勞働者  
數判明ノ上ハ追加輸入ヲ必要トスル場合ニハ今後審議  
シ得ヘシ

二、石炭關係<sup>(2)</sup>

(三) 日本潜水夫使用ハ昨年ハ例外ニシテ蘇法規上該作業ニハ蘇聯人ノミヲ使用シ得ルモノナリ本作業ハ利權ノ普通作業ニアラサルヲ以テ日本側カ右ニ關シ利權契約第七條及第三十一條ヲ引用セルハ妥當ナラス本年ハ右法規ノ除外ヲ取計ヒ得ス尙又會社ハ「エプロン」ト請負作業ニ付契約濟ノ趣ナレハ右苦情アルハ不可解ナリ

(四) 調印濟團體契約ノ修正ニ付テハ右ハ蘇聯法規違反ノ誤謬及不明ノ箇所アリタルコト判明セル爲登錄ノ場合右法規ニ矛盾スル條項ヲ存置シ得サル次第ナリ然シ之ハ小問題ニシテ登錄ノ場合大ナル困難ヲ見ルカ如キコトナキ筈ナリ

(一) 物資輸入ニ付テハ蘇側ハ會社側ノ必要及在庫品ヲ考量シテ其ノ許可數量ヲ定ム本年會社側ハ尨大ナル申請ヲ爲セルニ對シ蘇側慎重審議ノ結果食料品ニ付百萬留ヲ許可セリ而シテ日用品ニ付テハ會社側ニ於テ蘇側當然ノ權利ニ屬スル在庫品ノ検査ヲ拒否シ居ルニ付蘇側當局ハ右検査後ニ實際必要量ヲ許可シ得ヘキコトヲ會社側ニ通告シタルモノナリ尙蘇側トシテ客年中販賣セラ

レサリシ在庫品ノ逆輸送ヲモ要求シ得ルモノナリ而シテ蘇側ハ右主張ニモ拘ラス特ニ會社ノ申請ニ鑑ミ各種作業服及事業用品ニ付最近之カ追加輸入ヲ許可セリ

(二) 時間外労働ノ許可ハ地方職業組合ノ權限ニ屬ス同組合トシテ恐ラク會社ノ度重ナル労働法違反ニ鑑ミ右許可ヲ差控フルノ態度ニ出テタルモノナルヘシ

(三) 日本人労働者ノ入國ニ付テハ蘇側ハ最後二百六十名ノ追加許可ヲ與ヘ居リ右ニテ會社側ノ必要ヲ充分考量セルモノト考ヘ居レリ

(四) 日本労働者ノ滞在許可期間ニ付テハ彼等カ季節労働者團體トシテ入國スルモノナレハ五月ニ入國シ十一月ノ最終船ニテ歸國スト見テ六箇月ニテ充分ナルヘシ

(五) 團體契約ハ目下當地ニテ交渉開始セラレタル許リニシテ企業ニ於ケル労働條件ノ困難ナルニ鑑ミ組合側ヨリ個々ノ要求ヲ提出スルコトアルヘキモ會社側カ自方要求ニ妥當ノ注意ヲ拂フニ於テハ双方満足ナル結果ニ達シ得ヘシ

(六) 尙會社ハ組織のニ技術の危險防止及労働保護規則ニ違反シ客年末及本年中鑛山署カ「アクト」ニ依リ右違反

ヲ認メタルモノ多キニモ拘ラス會社力は正セサル爲多數ノ不祥事件ヲ惹起シ中ニハ死亡者スラ出セル事情ナリ爲ニ勞働者組合及鑛山署側ノ不滿ヲ買ヒ鑛山署トシテハ危險坑道ノ閉鎖等實際ニ效果アル措置ヲ執ラサルヲ得サルヘシト認メ居レリ

「オハ」、亞港へ轉電セリ

198

昭和12年10月6日  
在ソ連邦重光大使他宛(電報)

利權事業に対するソ連側圧迫に関する外務省  
公表振りについて

本省 10月6日後8時10分發

合第一九五五號

北樺太利權企業關係對蘇係爭問題ニ關シ五日午后係官ヨリ左ノ如ク公表セリ

「今春來北樺太ニ於ケル我カ石油石炭兩利權ノ現地企業ニ對スル蘇聯ノ壓迫ハ日ヲ逐フテ熾烈ヲ極メ日蘇基本條約ノ精神ヲ蹂躪シ經濟的ニハ作業ノ妨害ヲ計リ對人的ニハ殊更重刑ヲ課シテ現地邦人ノ動搖ヲ策シツツアル狀態テ目下懸

案中ノ問題ハ數十ヲ算ヘ之カ爲メ石油石炭兩企業ノ蒙レル有形無形ノ損害ハ甚大ノ額ニ上リ事業ノ遂行ニ鈔カラサル支障ヲ與ヘラレルニ至ツタ斯クノ如キ蘇聯ノ態度ハ今ニ始マツタコトテナイカ本問題ニ關シテハ特ニ關係各省ニ於テ重視シ之カ對策協議ノ爲メ外務、商工、陸海軍各省ノ關係官參集ノ上利權企業側ノ現地ニ於ケル實情ヲ聽取シタ後慎重協議ヲ重ネタ結果我兩利權ノ沿革ニ鑑ミ日本トシテハ何處迄モ之ヲ維持スル方針ヲ決シ蘇聯邦ノ猛省ヲ促スコトトナツタ」

六日各紙ハ右趣旨ト共ニ蘇側ノ契約蹂躪ノ事例ヲ詳細ニ報道セリ

編注 本電宛先は、在ソ連邦大使のほか、ウラジオストク、

アレクサンドロフスク、オハの各在外公館長。

199

昭和12年10月8日  
在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連は日中時局の紛糾を利用し北樺太利權の  
廢棄および漁業条約消滅を企図しているとの

## 觀測について

モスクワ 10月8日後発  
本省 10月9日後着  
第九八四號(極祕)

往電第九七五號ニ關聯シ特ニ蘇側ノ樺太ニ於ケル我利權ニ對スル態度ヲ見ルニ屢報ノ如ク日獨協定以來好意的取扱ヲ全廢スルコトニ方針ヲ決定シ更ニ進ンテ壓迫の態度ヲモ辭セス即チ條約、契約、法律ヲ最モ嚴格ニ解釋適用シテ假借スル所ナク爲ニ會社力蘇勞働者ノ引受ヲ濫リ又事業ヲ縮少セントスルヤ最後通牒、重大警告等ヲ發シ契約違反ノ事實アラハ利權ノ回收ヲモ斷行シ兼ニ間敷キ氣勢ヲ示スニ至レリ今後ノ交渉ニ於テ事業縮小力眞ニ一時的ニシテ其ノ間契約違反ノ點ナキコト判明セハ先方ノ態度或ハ緩和スルヤモ知レサルモ既報ノ通り兩利權共種々困難ナル問題ヲ有スル外蘇側ハ日支時局ノ紛糾ニ依リ對日國際關係ハ頓ニ有利ニ展開セリト爲シ國際聯盟ノ決議ニ依ル都合良キ立場ヲ利用シ北樺太利權ノ廢棄更ニ進ンテ漁業條約ノ消滅ヲモ企圖シ居ルモノト觀察セラル而シテ日本側ノ態度如何ニ依リテハ國際聯盟ニ於テ日本ニ對シ諸種條約違反ノ決議ヲ爲セル勢

ニ乘シテ北京條約ノ前提タル兩國ノ親善關係ノ破壞(日獨協定等)ノ責任ヲ日本ニ歸シ又滿洲ノ駐兵權ノ問題ヨリ「ポーツマス」條約違反ノ理論ヲ蒸返シ世界ノ反日空氣ニ乘シテ滿洲問題ニ遡リテ問題トスルノ策戰ト認メラル從テ問題ハ啻ニ北樺太利權ノ運命ノミナラス北洋漁業權ノ將來ニモ至大ノ關係ヲ有スル次第ナリ累報ノ通り今日日露ノ關係ハ日支時局ヨリ延テ全面的ニ押迫ラレ居ル有様ナルカ利權關係ヨリ見タル情勢御參考迄尙利權問題對策ニ付テハ別ニ意見具申ス

在歐米各大使へ轉電セリ

~~~~~

200 昭和12年10月9日 在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

利權問題の交渉において解決の原動力とすべ
き実力行使の具体例等につき意見具申

モスクワ 10月9日後発
本省 10月10日夜着

第九九〇號(極祕)

往電第九八四號末尾ニ關シ

利權問題對策愚見左ノ通り

一、今日ノ情勢ニ於テ蘇側ニ對シ兩國々交關係ヲ云々シテ政治的ニ先方ノ好意ニ訴フルモ無益ナルニ依リ第一步トシテ利權會社ノ措置力契約違反ニアラサルコトヲ強ク主張シ當方ニ於テ目下會社代表ト協力シテ此ノ點ニ全力ヲ盡シ居レリ)出來得ル範圍ニ於テ妥協的態度ヲ以テ利權ノ維持ヲ爲スコトニ努ムルコトトシ先方ニ於テ飽迄利權否認ノ態度ニ出ツルニ於テハ進ンテ政府間ノ正式交渉トシテ條約論ヲ持出スノ段取トナル譯ナルカ此ノ場合ニ於テハ蘇側ハ恐ラクハ自己ノ法律論ヲ持出シ結局局面ノ政治化スルコトハ前電ノ通りナルヘシ

二、利權問題ノ交渉ニ於テハ結局實力ノ背景ノ外解決ノ原動力ナキニ依リ我立場ヲ一步一步固メツ、我決心ノ容易ナラサルヲ仄メカシツ、進ムノ外ナカラン例ヘハ

(イ)「ナギ」追放問題カ眞劍ニ考慮セラレ居ルコトハ蘇側ニモ傳ハリ居ルカ如ク(尙往電第九六六號參照)此ノ氣勢ハ益々強化セラレ度シ

(ロ)萬一利權解消セハ通商代表部ニ關スル取極ヲ直ニ廢棄ノ上之カ閉鎖要求ヲ斷行スルノ用意ヲ今日ヨリ示シ置

クコト

(ハ)從テ通商代表ノ取扱ヒ來レル北鐵物資購入ニ支障ヲ生セシメ又北鐵代金支拂ニ付テモ同様ノ取扱ヲ爲スコト(本項ノ現狀等御回電請フ)

(ニ)在日蘇聯人ノ取締ヲ一層勵行スルコト

(ホ)漁業ニ於テハ大規模ノ沖取強行乃至自由出漁ノ用意ヲ示スコト等ナルカ

(ヘ)更ニ朝鮮漁船拿捕事件ノ例ニモ鑑ミ交渉ノ模様ヲ見タル上適當ノ時期ニ我驅逐艦二、三隻ヲ北樺太沖公海ニ遊戈セシメ無言ノ威壓ヲ加フルノ要起ルヤモ知レサルニ付御研究置相成度シ

三、然シ乍ラ外部ニ對シテ實力行使ヲ餘リ吹聽シテ其ノ實何等其ノ決意ナキニ於テハ徒ニ先方ニ乘セラレ實效ナキノミナラス拔差ナラヌ不名譽ノ事態ニ逢着スルニ至ルヘシ從テ苟モ高壓的態度ハ之ヲ避ケ常ニ決意ヲ持スル確固タル防禦ノ態度ヲ執リ交渉ノ成否ニ拘ラス世界ヲシテ日露ノ關係ヲ正解セシメ其ノ同情ヲ我ニ轉換スルノ方策ニ出ツルコト何ヨリモ肝要ト思考セラル

201 昭和12年12月30日

日ソ漁業条約第三次暫定取極め締結に関する
外務当局談

日「ソ」漁業條約暫定取極締結ニ關スル外務當局談

(十二月三十日)

日「ソ」漁業條約ノ修正協定ニ付テハ昨年十一月案文確定ヲ見我方ハ國內手續ヲ了シタルニモ拘ラス「ソヴィエト」政府カ間際ニナツテ調印ヲ肯シナカツタ爲已ムヲ得ス條約ノ效力ヲ本年一杯延長シ漁區ノ安定モ同様取計フコトトシ暫定取極ヲ結ヒ新協定調印方ノ交渉ヲ本年ニ持越スコトトナツタ經緯ハ周知ノ通テアル。

我政府ハ本年春以來機會アル毎ニ「ソ」政府ノ反省ヲ促シ速ニ昨秋合意ニ達シタ所ニ依リ新協定ノ締結ヲ實現シ長期ニ亘リ漁業ニ關スル紛議ヲ一掃セムコトヲ迫ツタノテアルカ「ソ」政府當局ハ一向話合ノ再開ニ應スルノ氣配ヲ示サス終ニ本年初秋ニ及ンタノテ我政府ハ爾來幾回トナク強ク「ソ」政府ノ注意ヲ喚起シタ處先方ハ依然遷延的態度ヲ採リ結局本年モ亦年内ニ新協定締結ノ望ミナキニ至リ交渉ヲ

更ニ來春ニ持越ササルヲ得サルコトナツタコトハ甚タ遺憾トスル所テアル依テ我政府ハ不取敢來年度ノ我漁業權行使ニ支障ナカラシムル爲昨年未ト同様ノ暫定取極ヲ結フコトトシ現行漁業條約及附屬文書ノ效力ヲ引續キ來年一杯延長スルト共ニ所謂安定漁區約二百八十ヶ所ノ契約モ同様延長シ總テ從來通りノ條件ニテ來年度モ我當業者カ漁業經營ニ當リ得ルコトニ取計ヒ斯テ二十九日「モスコ」ニ於テ議定書ノ調印ヲ見タノテアル。

右ハ「ソ」側ノ態度ノ爲本年内ニ新漁業協定成立ノ見込カナイノテ已ムヲ得ス執ツタ措置テアツテ我政府トシテハ引續キ新協定締結ヲ速ニ實現スヘク努力スルコトハ勿論テアル。

編注 本文書は、昭和十三年一月、外務省作成「外務省公表

集」第十六輯より抜粋。

202 昭和13年1月4日

在ソ連邦西臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

漁業条約交渉継続の建前を維持しソ連側の前向きな態度を変化させぬよう配慮方要請について

モスクワ 1月4日後発
本省 1月5日前着

第七號(極秘)

往電第三號二關シ

一昨年未蘇側ハ妥結濟ノ議定書調印ヲ拒絶シ爲ニ已ムナク暫定ヲ締結セルカ爾後蘇側ハ我方ノ所謂「ポーツマス」條約違反ヲ理由トシテ將來我漁業權ノ廢棄ヲ目論ムカ如キ態度ヲ示シ(客年往電第三〇一號其ノ他參照)更ニ日支事變ノ勃發ヲ機トシアハヨクハ聯盟等ノ力ヲ借りテ之ヲ實行ニ移サントスル意圖モ諸般ノ情勢ヨリ推察セラレタル處我對支軍事行動ノ進展ト相俟チ昭和三年ノ漁業條約ヲ論據トスル長期條約締結義務ノ主張ハ日獨伊協定ノ成立直後ニモ拘ラス遂ニ蘇側ヲシテ本條約締結交渉ノ意思表明ヲ爲サシムルニ至リ(此ノ點蘇側ハ未タ發表シ居ラス)更ニ既報ノ如キ經緯ヲ經テ再度暫定締結ノ運トナレルコト御承知ノ通りナリ從テ今回ハ日獨協定以來グラツキカケタル漁業條約交渉繼續ノ建前ヲ再ヒ確立シタル譯ニテ暫定ノ如キハ交渉繼續中ノ當然ノ手續トシテ締結セラレタル次第ニ付我方トシテハ今後共此ノ建前ヲ堅持シ先方ノ態度ニ變化ヲ生セシメサル

様留意スルコト肝要ト存ス

右ハ本省ニ於テモ御承知ノコトニ付今日迄別ニ電報セサリシカ客年貴電合第二四二九號ニ於テハ單ニ蘇側ハ本協定ノ成立ニ付種々遷延の態度ヲ執リ暫定ニハ直ニ應シタリトセラレ又年末發表ノ外務當局談モ要スルニ蘇側交渉遷延ノ結果已ムナク暫定ヲ締結セリトノ印象シカ與ヘラレス殊ニ右發表ニ關スル蘇側報道ハ冒頭往電ノ通りニテ恰モ前回ト同一事情ノ下ニ暫定カ成立シタルカノ如キ宣傳ニ利用セラレタルハ遺憾ナリ蘇側ノ非ヲ責ムルニ何等遠慮ハ要ラサルモ之カ爲折角我方ノ有利ニ展開シ來レル先方態度ヲ逆轉セシムルカ如ク我方ヨリ仕向ルノ要ハ毫モ無之儀ト存セラル右氣附ノ儘



203

昭和13年3月27日

在オハ多賀谷分館主任より
広田外務大臣宛(電報)

利權事業に対し穩当理解ある取扱いを行うよう
うソ連政府へ注意喚起ありたき旨意見具申

オハ 3月27日後発
本省 3月27日夜着

第三九號

本官發蘇宛電報

第二三號

本官發大臣宛電報第一號及第四號ニ關シ

其ノ後當地官憲ノ態度ハ益々誠意ヲ缺クニ至リ懸案ノ現地解決ハ殆ト不可能トナレル一方權力濫用ニ依ル壓迫重加シ今次ノ如ク些細ナル監督上ノ責任ニ依リ監理部員ヲ續々訴追セラルルニ至リテハ遠カラス事業經營ハ全ク行詰ラサルヲ得サルヘシ團契上苛酷ノ義務ヲ負ヒ乍ラ雇傭スル露人勞働者ハ一般ノ反日思潮ニ左右セラレテ益々怠業ニ傾キ邦人從業員トノ折合惡化スルニ從ヒ彼等ノ使用ハ困難ヲ加フルニ至リ今ヤ主ナル作業ハ日本人ニ依リ辛フシテ行ハレ居ル有様ナリ又露人從業員トシテモ檢束ヲ惧ルル一方斯ル雰圍氣ニ於テ働クヲ潔シトセサルモノノ如ク既ニ退職希望者ニ百名ニ達シ尙増加ノ模様ナリ

⁽²⁾ 他方當館ニ對スル鐵條網ノ設置通告、當館附近ニ民警派出所増設ノ爲會社宿舍ノ明渡要求、露語關係者及兵役關係者ノ名簿要求、期間ノ定ナキ空襲警戒、軍用機ノ頻繁ナル往來(往々示威的ニ當館附近ヲ低空飛行ス)等ノ現象ニ依ルモ

明カナル如ク我方ニ對スル警戒露骨ヲ極メ之ヲ見ル者ヲシテ戒嚴令下ニアルカ如キ感ヲ抱カシム

利權契約上蘇側ニ死活ノ鍵ヲ握ラレ居ルカ如キ地位ニアル會社ニアリテ蘇側ノ援助ヲ期待シ得ストセハ不安之ヨリ甚タシキハナシ斯ル事態ニ鑑ミ此ノ上無理ヲ爲シ事業ヲ進ムルトシテモ徒ニ蘇側ニ乗セシムル機會ヲ多カラシメ人的竝ニ財的犠牲ノ増大ヲ來シ收拾スヘカラサル事態ニ立至ルコトナキヲ保シ難キニ依リ會社現地幹部ノ間ニ此ノ際早目ニ事業ノ大縮少乃至閉鎖引揚ヲ斷行スルヲ得策トスルノ說擡頭シツツアルハ無理カラヌコトナリ

⁽³⁾ 政府當局ニ於カレテハ既ニ此ノ事アルヲ豫期セラレ對策ヲ研究中ノコトト存セララルモ現地關係者トシテハ此ノ國家的重大權益カ蘇側ノ不當壓迫ニ依リ有名無實化セントスルヲ見ルニ忍ヒス出來得ル限り之ヲ防止シ度キ考ナル處現狀ノ儘ニテハ手モ足モ出サルニ付右事態ニ付蘇側ノ眞意ヲ探ラレ我方ニ對スル無用ノ警戒ヲ緩和シ今少シ企業ニ對シ穩當理解アル取扱ヲ爲ス様蘇聯邦政府ノ注意喚起方御配慮相煩度シ

大臣、亞港へ轉電セリ

昭和13年3月29日

在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

ソ連側圧迫により利権企業経営が困難となつ

た場合の日本政府方針につき回答方針訓

モスクワ 3月29日前発

本省 3月29日後着

第三六九號(至急、極秘)

貴電第一六八號ニ關シ(北樺太石油利権事業管理部員起訴ニ關スル件)

「オハ」發本使宛電報第二二三號及「オハ」發貴大臣宛第三六號等ニ依レハ現地情勢ハ相當逼迫シ居ル模様ナルヲ以テ當方ニ於テモ利権擁護ノ根本問題ニ付蘇側ノ反省ヲ促スノ要アリト存スル處蘇側今次ノ石油社員起訴ハ「ウイムペル」號事件トノ關係モアルヤモ知レサルモ既ニ我權益保護上缺クヘカラルサレ領事館ノ閉鎖サヘ要求シ居ルコトニモアリ先方ハ所謂合法手段ノ名ノ下ニ今後壓迫ヲ強行シ利権事業ノ休止ヲモ意ニ介セサルノミナラス寧ロ之ヲ企圖シ居ルモノト見テカカルノ要アリト思考ス就テハ如何ニ交渉スルモ企業ノ經營出來サル如キ事態ニ立至ル場合政府トシテハ進シ

テ現地保護等ノ手段ヲモ辭セサル御決心ナリヤ將又此ノ際ハ我方立場ヲ明カニスルニ止メ當分隱忍セラルル御意嚮ナリヤ今次申入ニ際シ心得置キ度キニ付何分ノ儀折返し御回電請フ

~~~~~

205

昭和13年3月30日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

石油資源絶対確保のため採油が脅かされた場合には現地保護手段を講じる方針であること  
を含みの上折衝方回訓

本省 3月30日後6時30分発

第一七一號(極秘)

貴電第三六九號ニ關シ

「海軍、商工兩方面ニ於テ北樺太石油資源ヲ絶対ニ確保シ度キ意向ヲ有シ居ルニモ鑑ミ石油會社現地幹部従業員ノ起訴其他ノ壓迫ニ依リ採油自体カ脅カサルルニ立到ル場合ハ政府トシテ或適當程度ノ現地保護手段ヲ講セサルヲ得サルモノト考ヘ居レリ就テハ右御含ミノ上然ル可ク御接衝相成度シ

ニ領事館問題ニ付テハ出來得ル限り陰忍自重解決ヲ期シ度  
キ所存ニテ往電合第九九七號ノ通り話合中ナルモ領事館  
閉鎖等ノ結果現實ニ北樺太重要權益カ脅カサルルニ到ル  
場合ハ此ノ限りニ非サルコト一ノ通

~~~~~

206

昭和13年4月22日 在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

利權問題に關し他の諸案件と併せ東京交渉で の解決を望むソ連側意図について

モスクワ 4月22日前發
本省 4月22日後着

第四七四號(極秘)

貴電第一九九號ニ關シ(石油利權關係諸問題ニ關スル件)

目前ニ迫リ居ル利權企業保護ニ付テハ當方ニ於テモ常時心
ヲ碎キ居ル所ナルカ貴電合第一〇七一號「スラヴツキ」
申入ニカカル懸案相互解決交渉ノ話合成立以來利權問題モ
其ノ一部トシテ東京ニテ交渉進メラレ居リ(貴電第一九六
號等)而シテ蘇側ハ初ヨリ交渉ヲ一途ニ東京ニ於テ行フハ
キ意嚮ヲ表明シ(往電第三八九號「リトヴィノフ」ノ言)當

方ノ利權問題申入ニ對シテハ氣持良ク受付ケス單獨ニ本問
題ノミニ付外交交渉ヲ行フヲ欲セサルカ如キ態度ヲ示シ居
ルコト御承知ノ通りナリ(往電第四三八號「カズロフスキ
ー」ノ言)按スルニ蘇側ノ懸案相互解決ノ申入ハ恐ラク往
電第三九四號ノ如キ駭引モアリタルヘク然ルニ對支援助抗
議ニ對スル日本側ノ輿論及支那ニ於ケル軍事ノ狀況等ニ照
ラシ又「クズネツストロイ」號ノ釋放モアリ日本側ノ底意
モ大體測リ得タリト爲シ右懸案解決ノ申入ハ更ニ進シテ之
ヲ自己ニ有利ニ展開セシメント企テ居ルモノト見ラル

即チ利權問題等日本側ノ要求ハ相互的ノ建前ヲ以テ蘇側要
求貫徹ヲ條件ト爲サントスルモノノ如シ此ノ點ニ付テ我方
ノ最モ困難ヲ感スルハ北鐵支拂問題ト思ハルル處蘇側ハ滿
側ト一應直接交渉ヲ行ヒタル建前ヲ整ヘ日本側ニ更ニ斡旋
ヲ迫ルニアラスヤト觀測セラル右ハ兎ニ角利權問題ハ元來
交換的交渉ノ題目ニアサルモ蘇側ハ或ハ右様ノ意圖ヲ有
スルヤモ知レス他方蘇側トシテモ折角乘出シタル交渉ナレ
ハ若干ノ讓歩ヲ爲シテ何等カノ成果ヲ擧ケントスル意嚮ナ
ルハ明カナルヲ以テ何レニスルモ貴方ニ於ケル利權交渉ハ
成ルヘク促進セラルル方可ナルヘシ當方ニ於テモ精々督促

スヘキモ交渉ノ全般ニ關スル事情御參考迄ニ申上ク

207 昭和13年4月22日 広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

利権問題解決促進のため混合委員会設置案の
提示につき意見回答方訓令

本省 4月22日午後5時30分發

第二〇七號(極秘)

先般「ソ」聯ヨリ諸懸案一括解決方ニ付提案アリタル際北樺太石油、石炭利権ニ關スル諸問題ニ付好意的審議ヲ爲スヘキ旨申出アリ之ニ對シ我方ヨリ重ナル懸案問題ヲ指摘シ先方ノ具體的意向回答ヲ迫リ居ル次第ハ累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通ナル處「ソ」側ヨリハ右ニ對シ今日迄何等具體的の回答ナキノミナラス現地ノ狀態一向ニ改善ノ跡ナク依然種々ノ問題續出シ事實上保存行爲ヲ行ヒ居ルニ過キササル石炭利権ハ言フニ及ハス兎ニ角事業ヲ續行シ居ル石油利権モ更ニ縮少ヲ余儀ナクセラレントスル情勢ニ在リ依テ此際石油、石炭利権關係諸懸案解決促進ニ資スル建前ヨリ日「ソ」双方官邊適當ノ者及當業代表者ヲ以テ組織スル非公式混合

委員會ヲ東京又ハ莫斯科ニ設置シ双方ノ主張ヲ事務的ニ檢討シ成ルヘク意見ノ一致ヲ計リ以テ各種問題ノ解決ニ資スルコトヲ得ハ一ノ妙案タルヲ失ハサルヘシト思量セラレ現ニ左近司北樺太石油社長モスル考案ノ實現ヲ希望シ居ル次第ナリ尤モ果シテ「ソ」側力之ニ應スルヤ否ヤ疑問ナキ能ハス就テハ先方ニ右考案ヲ持出スコトニ付テノ御意見至急電報アリタシ

208 昭和13年4月23日 在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

利権問題においては日本政府の確固たる態度
および決心をソ連側に会得させぬ限り交渉困難との見通しについて

モスクワ 4月23日前發
本省 4月24日後着

第四九七號(至急、極秘)
貴電第二〇七號ニ關シ(北樺太利権關係懸案解決促進方ノ件)
往電第四七四號申進ノ通り蘇側ハ東京交渉ニ於テ諸懸案ノ

相互解決ヲ策シ先方ヨリハ既ニ若干ノ事項ニ付讓歩の意嚮ヲ表明シタル積リナルニ拘ラス日本側ヨリハ未タ何等右種意思表示ナシトテ利權問題ニ對スル回答ヲモ遷延セシメ居ルヤモ知レス今日ノ交渉ノ程度ニ於テハ我ヨリ何等提案スル前々方ノ具體的意嚮ヲ突止ムル必要アルヤニモ見受ケタル處蘇側ハ從來利權問題ヲ以テ會社及利權當局間ノ交渉事項ナリトシ日本政府(大使館)ノ干與ヲ極力回避シ來レルコト夙ニ御承知ノ通りナリ旁御來示ノ如キ提案ヲ爲スモ先方カ其ノ儘受諾スヘキヤ受諾スルモ果シテ問題ノ解決ノ促進ニ資スルヤ等種々疑問ヲ存ス然シ事態ノ押詰ル前ニ總ユル努力ヲ爲スコト我交渉上ノ立場ヲ有利ナラシムヘシトノ御考慮モ之アルヘク從テ貴方ニ於テ右御提案相成リ先方ニ交渉促進方督促セラルルコト一策カト思考ス尤モ其ノ場合蘇側ハ所謂相互解決ノ趣旨ニ基キ混合委員會ヲ廣メ北鐵問題等包含方申出テ問題ヲ複雑化スルヤモ知レサルヲ以テ之ニ對シテハ充分用心セラルル要アルヘシ何レニスルモ利權問題ハ日蘇全般國交ノ一反映ニシテ結局我方ニ於テ確乎タル態度及決心ノ先方ニ感得スルモノナキ限り困難ハ續行スルモノト認メラルルニ付申ス迄モナク此ノ點ハ常ニ御考究然

ルヘク存ス

209

昭和13年7月9日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

利權および漁業未解決問題に關し日本側より
具體的希望申入れとそれに対するソ連側反駁
について

モスクワ 7月9日後発

本省 7月10日前着

第八七三號

八日⁽¹⁾「ストモニヤコフ」ニ會見交渉案件促進ノ目的ヲ以テ

要領左ノ通り談話ヲ交換セリ

「先ツ本使ヨリ一般のニ日本側ニ於テハ宇垣新外相ニ於テ日蘇各種懸案ノ解決ニ努力セラレツツアルコトハ御承知ノ通りナリ兩國ノ圓滿ナル關係ヲ熱望スル本使トシテハ右東京交渉力満足ニ進捗シ更ニ進ンテハ當方ニ於テ懸案トナリ居ル諸問題殊ニ漁業條約ノ調印ノ如キモ速ニ行ハレンコトヲ期待スル次第ナリ尙當地ニ於ケル西「ミローノフ」交渉案件中未タ解決ヲ見サルモノアルニ付之ニ關

スル交渉モ速ニ進捗スル様御配慮ヲ得度シト申入レタリ
「ス」ハ東京交渉ハ四月四日ノ蘇側提議ニ基キ繼續セラ
レ居ルモ日本側ノ態度ノ爲進捗セス尤モ最近ハ多少好轉
セル模様ナリ併シ右交渉ハ東京ニ於テ行ハルルニ付之ニ
讓ルヲ可トスヘシ漁業條約ニ付テハ本日新ニ申上クヘキ
コトナシ本件ハ從來ト同様ノ狀態ニアリ當地ニ於ケル交
渉諸案件ハ主トシテ蘇側ノ讓歩ニ依リ進捗シツツアリ之
モ從來通り極東部及日本大使館間ノ交渉ニ委ネ置クコト
然ルヘシト思考ス自分トシテハ常ニ日蘇間ノ交渉ニ多大
ノ考量ヲ拂ヒ居リ出來得ル範圍ニ於テ努力シ居レリ併シ
日本側カ今日少シク讓歩の合理的態度ヲ取ラルコト必
要ナリ双方ニ誠意サヘアレハ今後顯著ナル成功ヲ收メ得
ヘシト述ヘタリ

三⁽²⁾次テ本日ハ個々ノ具體的問題ニ付貴下ト交渉スル考ヘナ
キモ一、二ノ案件ニ付日本側ノ希望ヲ御耳ニ入レ御考慮
ヲ煩度シトテ魚粕工場問題及石油利權諸問題（蘇聯労働
者傭入問題、邦人輸送許可問題、掘鑿作業許可問題、森
林伐採問題、海底鐵管敷設問題、「エハビ」探掘鑛區編入
問題）ニ關シ宮川ヲシテ我方主張ヲ詳述セル書物ニ付篤

ト説明セシメタリ（右書物ハ先方ノ求メニ依リ殘シ置ケ
リ）「ミ」ハ之ニ對シ魚粕工場ニ付テハ當方トシテ申上ケ
得ルコトハ全部御話セリ蘇側トシテハ日本側ノ意見ニ同
意スル能ハス日本側ニハ魚粕工場建設經營ノ權利ナシ本
日貴使ノ述ヘラレタル所ハ蘇側ニ於テ五箇ノ工場ヲ許可
シタル以上他ノ工場モ許可スヘキナリトノ點以外今日迄
承知セル日本側意見トシテ何等新ナルコトナシ外務部ト
シテハ種々關係官廳ト交渉ノ結果漸ク五箇ノ工場ヲ許可
スルコトトナシタル次第ニテ右ハ兩國關係ノ上ヨリモ正
鵠ト考ヘ居レリ或ハ右五箇ノ工場ヲ許可セサル方貴使ヲ
シテ八工場モ許可セヨトノ主張ヲ爲サシメサル結果トナ
リ却テ好都合ナリシヤモ知レス本件ニ付テハ

「ミローノフ」ヨリ與ヘタル回答ヲ以テ満足サレ之以上
提起セラレサランコトヲ希望ス次ニ利權問題ニ付テハ利
契ノ實施及適用問題ハ利權業者ト之カ主管官廳タル重工
業委員部トノ間ニ直接行ハルヘキモノナリ然ルニ最近貴
大使館ヨリ利權代表者カ關係官廳ニ於テ面會モ出來スト
ノコトニテ當方ノ斡旋ヲ求メラレタル爲御話ニモ應シタ
ルカ現在ニ於テハ重工業部ノ外國課長ニ於テ利權者ニ應

接シ夫々回答ヲ與ヘ居レリ從テ面會出來ストノ理由モナクナレリ御互ハ唯サエ無事ナラサル兩國關係ヲ兩國ノ外交關係ニ緣遠キ斯カル小問題ノ爲更ニ面倒ナラシムルコトハ避ケサルヘカラス利契ノ適用及解釋問題等ハ外交交渉ノ目的物ト爲スヘキモノニアラス利契ニハ明瞭ニ斯カル問題ニ付テハ當該官廳ニ申入レ或ハ仲裁裁判ニ移スヘキコトヲ規定シ居レリ就テハ利權者ニ對シ重工業部ニ問題ヲ提起シ交渉スル様勸告セラレ度シ又實際問題トシテモ勞働者ノ數、鐵管ノ直徑等餘リニ技術的ニ亘ル問題多ク御互ニ解ラヌコト多シト執拗ニ述ヘタリ

之ニ對シ本使ハ本日申上ケタル趣旨ハ最初ニ御斷リシタル通り未解決ノ交渉案件進捗スル様希望ヲ述ヘタルモノニシテ今日茲ニ是等ノ問題ヲ取上ケ細目ニ亘リ貴下ト議論ヲ上下スル考ナシ魚粕工場ニ付テハ我方トシテ條約ノ解釋上當然ノ權利トシテ主張ヲ續クルモノナルカ貴方ノ主張モアルニ依リ茲ニ讓歩的妥協案ヲ示シタル次第ナリ然ルニ右妥協案ニ付御考量ヲ得サレハ我方トシテハ當然條約上ノ當然ノ權利ニ立返リ主張スルノ外ナシ次ニ利權問題ニ付テハ利權者ト當該官廳トノ間ニ交渉スヘキ點ニ

付テハ異存ナキモ從來利契上極メテ明白ナル事項カ往々ニシテ蘇側ノ故障ノ爲ニ行ハレス又實行遲延ヲ見ルコト度々ナル爲利權者モ非常ナ困難ナル立場ニ置カレ大使館ニ斡旋ヲ依頼セル實情ナリ就テハ此ノ上共關係官廳ニ於テ利權者トノ間ニ交渉ノ進捗方努力スル様希望セサルヲ得サル次第ナリ茲ニ貴方ノ注意ヲ喚起シ度キハ漁業問題ト言ヒ利權問題ト言ヒ我國ニ於テハ極メテ重要ナル問題ニシテ此ノ條約上ノ權利ノ實行如何ノ問題ハ大ナル問題ナリ從テ兩國ノ國交上モ是等ノ問題カ圓滿ニ解決セララルコト重要ナリ是レ本使カ本日は是等ノ問題ニ付言及セル理由ノ一ナリト述ヘタルニ「ス」ハ本日縷々申上ケタルハ貴使ニ對シ蘇側ノ主義上ノ建前ヲ明確ニスル爲ナリトテ曩ニ述ヘタルコトヲ執拗ニ繰返シ本使ハ先方ノ言フ如ク問題ヲ出來ル丈ケ當事者ノ間ニ事務的ニ處理スルコトハ異議ナキモ唯從來問題ナカリシ漁業及利權關係ノ事項カ何故カ故障多ク屢問題トナル爲大使館トシテモ座視スルニ忍ビサル次第ナリト述ヘ置ケリ

~~~~~

210 昭和13年7月26日

### ソ連官憲による北樺太利權事業圧迫に関する 情報部長談話

蘇聯官憲ノ北樺太利權事業壓迫ニ關スル情報部長談

(七月二十六日)

茲二年來蘇聯官憲ノ我北樺太石油、石炭利權ニ對スル彈壓ハ酷烈ヲ極メ其結果石炭利權ノ如キハ遂ニ其事業ヲ一時中止スルノ余儀ナキニ至リ石油利權亦事業計畫ヲ一變シテ大縮少ヲ行ハサルヲ得ナクナツタコトハ既ニ周知ノコトテアルカ本年モ亦最近夏季作業季節ニ入ツテ其惡質ナ壓迫振リカ目立ツテ來タ

先ツ石油利權事業ニ就テハ蘇聯政府ハ利權事業經營上ノ諸問題ニ關スル交渉ハ重工業人民委員部ト利權事業會社間ニ行ハルヘキタト主張スルカ當ノ相手タル重工業部外國課長ハ病氣トカ旅行中タトカ言ツテ會社代表トノ面談ヲ避ケルコトカ多イ又「ソ」側ト接衝ノ爲哈府ニ駐在スル北樺太石油會社ノ出張員ハ本年六月初メ同地着以來今日迄未タ一回モ蘇聯當局ト面會シ得ナイ有様テアル

更ニ石油利權事業遂行ニ最モ必要ナ勞働者傭入ニ付テハ蘇聯邦ハ利權契約ニ依ツテ露人勞働者ヲ提供スル義務ヲ負ツテ居ルノテアルカ會社申込數ヲ勝手ニ削減シタ許リテナク夫レサヘモ提供ヲ澁リ僅カ四ヶ月ノ季節作業中既ニ二ヶ月ヲ經過シタ今日未タ一名ノ蘇人勞働者モ現地ニ送り込ミ得ナイ狀態テアル其他「カタンگری」ニ於テ採油搬出ニ必要ナ海底送油鐵管設備ヲ許可セス又「エハビ」「カタンگری」ニ於テ特ニ油量豐富ナ油井掘鑿ヲ禁止シ又「エハビ」ニ於テ會社カ試掘ニ巨費ヲ投シタル後ニ其鑛區ノ採油ヲ許可セサルカ如キ仕打ニ出テ居ル

次ニ北樺太鑛業(石炭利權)ハ前記ノ通り「ソ」側壓迫ノ爲事業中止ノ已ムナキニ至ツテ居ル狀態タカ最近ハ又「ドウエー」炭坑内軌道ヲ當事者ト交渉ノ結果ヲ待タス勝手ニ取ハツスカ如キ處置ニ出テ來タノテ外務當局ハ現地帝國官憲ヲシテ蘇聯當局ニ嚴重抗議ヲ申入レ其猛省ヲ促シテ居ル要スルニ蘇聯官憲ノ我方利權事業ニ對スル態度ハ事業經營ニ左程關係ナキ問題ニ就テ一應好意的態度ヲ見セ乍ラ苟モ事業經營ニ密接ナ關係ヲ有スル問題ニナルト何トカ口述ヲ設ケテ正常ナ取扱ヲシナイ點外務當局ハ目下「モスコ」

及亞港ニ於テ右蘇聯ノ態度カ明ニ日蘇基本條約及利權契約ノ違反テアルコトヲ指摘シテ交渉中テアル

編注 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

~~~~~

211 昭和13年10月11日 近衛外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

北樺太利権確保のための各種対策に関する閣

議決定について

付記 昭和十三年九月二十六日付、池田(成彬)商工

大臣、宇垣外務大臣他より近衛内閣総理大臣

宛公信一三閣商第一一八号

北樺太における石油および石炭利権の確保に

関する閣議請議

本省 10月11日後3時10分発

第六三五號(極秘)

北樺太石油、石炭兩利権企業力近來「ソ」聯ノ不法壓迫ノ結果財政上甚シク苦窮ニ陥リ居ルハ御承知ノ通ナル處我國

燃料政策遂行上ノ必要ニ鑑ミ右利権ノ強化ヲ圖リ以テ其確保ヲ期センカ爲外務、商工、大藏、陸、海軍五省合議ノ下ニ左記對策ヲ講スルコトナリ客月二十七日閣議決定ヲ經タルニ付御含迄

一、北樺太石油會社

(イ)試掘助成金ノ増額(ロ)採掘助成金ノ交付(ハ)政府元利支拂

保障社債ノ發行認可

二、北樺太鑛業會社

(イ)事業復活資金トシテ政府元利支拂保障社債ノ發行ヲ認

メ且夫迄ノ必要ナル應急資金ヲ政府ニ於テ調達方斡旋

ス

(ロ)採掘助成金ノ交付

(付記)

一三閣商第一一八號

北樺太ニ於ケル石油及石炭利権ノ確保ニ關スル件

北樺太ニ於ケル我石油及石炭ニ關スル利権ハ實ニ大正九年ノ尼港事件ノ代償トシテ同十四年ノ北京條約ニ依リ蘇聯ヲシテ承認セシメタル重要ナル權益ナリ而シテ本利権ニ基ク

事業ヲ營ムコトヲ目的トシテ設立セラレタル北樺太石油株式會社竝ニ北樺太鑛業株式會社ノ兩社ハ孰レモ漸次相當ノ業績ヲ擧グルニ至リ本邦燃料國策ノ遂行上期待スルトコロ大ナルモノアリタリ然ルニ日獨防共協定ノ成立乃至ハ支那事變ノ勃發ヲ契機トシテ蘇聯ノ我方ニ對スル態度ハ頓ニ惡化シ爾來本利權事業ニ對シテモ不法ナル壓迫ヲ加フルニ至リ之ガ爲兩利權會社ハ事業遂行上多大ノ支障ヲ來シ其ノ財政モ亦甚シク苦境ニ瀕スルニ至リ本件利權ハ重大ナル難局ニ遭遇スルニ至レリ

惟フニ本件利權ハ帝國ノ海外權益トシテノ重要性ニ加フルニ資源トシテモ石油及石炭共ニ其ノ埋藏量極メテ豊富ニシテ且ツ其ノ石炭ハ強度粘結性ヲ有スル特殊炭ニシテ製鐵用コークス配合炭ニ好適シ孰レモ軍事上、産業上極メテ重要ナリ從テ本件利權ヲ確保スルコトハ本邦燃料國策遂行上緊要ナリト認ム

仍テ政府ハ現下ノ對蘇關係其ノ他ノ國際情勢ニ鑑ミ暫定的ニ之等利權企業ノ強化ヲ圖ル爲石油ノ試掘ニ付テハ試掘期間内ニ於ケル豫定計畫ノ完了ヲ期シ石油及石炭ノ採掘ニ付テハ蘇側ノ不法壓迫ニ拘ラズ積極的ニ事業ヲ遂行セシムル

爲助成金等ニ依リ一層ノ援助ヲ加フルト共ニ當該事業ニ要スル資金ノ調達ニ就テモ社債元利保證等ニ依リ格別ノ配慮ヲナシ以テ利權會社ヲシテ資源ノ開發ヲ容易ナラシメ本件利權ノ確保ヲ圖ルコトト致度尙本件利權ノ重要性ニ鑑ミ利權企業ノ基礎ヲ確立セシムルト共ニ利權企業ヲシテ本邦燃料國策ニ即應シ其ノ圓滑ナル運營ヲ期セシメンガ爲ニハ其ノ組織ヲ強化スルノ要アリト認メラルルモ之ガ實現ニ付テハ適當ナル時機ニ於テ考慮スルコトト致度
右閣議ヲ請フ

昭和十三年九月二十六日

商工大臣	池田	成彬〔印〕
外務大臣	宇垣	一成〔印〕
大藏大臣	池田	成彬〔印〕
陸軍大臣	板垣	征四郎〔印〕
海軍大臣	米内	光政〔印〕
內閣總理大臣	公爵 近衛	文麿殿

編注 本文書は国立公文書館所蔵「公文別録」より採録。

212

昭和13年12月10日

北樺太石油利権労働者の強制追出し問題に関する情報部発表

北樺太石油利権労働者ノ強制追出問題ニ關スル
情報部発表

(十二月十日)

我北樺太石油利権企業ハ本年「ソ」側ノ不法壓迫ニ依リ労働者ノ傭入レヲ極端ニ制限サレタ爲全般的ニ勞力ノ大不足ヲ來タシ殊ニ「カタングリー」鑛場テハ本年ヨリ原油ノ日本搬出ヲ開始シタコトトテ一層手不足ヲ痛感シテ居ツタ矢先十一月中旬即チ終航間近ニナツテ同地「ソ」官憲ハ利権契約ヲ無視シテ亂暴ニモ同鑛場ノ邦人労働者七十二名ノ即時退去ヲ強要シテ來タ、依テ利権會社ハ勿論我在「ソ」大使館ニ於テモ再三莫斯科中央當局ト嚴重折衝シタ結果六十名ノ滯留差支ナシトノ解決ヲ見タニ拘ラス現地官憲ハ右中央交渉ヲ無視シ種々ノ威嚇ヲ加ヘテ執拗ニ退去ヲ強制シタ爲會社側ハ已ムナク十一月二十日五十五名ノ邦人ヲ終航船テ一先ツ引揚ケシムル一方斯ル地方官憲ノ不法措置ニ付二

十三日在「ソ」大使館ヨリ「ソ」中央當局ニ對シ嚴重抗議シ且終航船ノ「オハ」寄航ヲ幸ヒ便宜ノ措置トシテ之等邦人ノ「オハ」上陸滯在許可方強ク要求セル處「ソ」側モ之ニ同意シ現地官憲ニ電訓方正式ニ約束シタ

然ルニ「オハ」官憲ハ又モ中央ヨリノ命令及在「オハ」領事ノ申入レヲ全然無視シ種々ノ難癖ヲ付ケテ上陸ヲ許サス遂二十一月三十日無理矢理ニ前記邦人ヲ全部日本ニ送還セシメテシマツタ

斯ノ如キ中央及地方官憲間ノ無統制振及外交機關ヲ通シテ正式ニ確約シタコトヲ棄テテ顧ミサル「ソ」官憲ノ不信行爲ニ對シテハ十二月一日在「ソ」大使館ヨリ「ソ」外務部ニ對シ嚴重抗議スルト共ニ斯ル無暴極マル壓迫態度ノ是正方強ク申入レタカ右邦人引揚ケノ結果「オハ」鑛場ニ次ク重要鑛場タル「カタングリー」ノ今後ノ採油ハ殆ト不可能トナリ會社ニ莫大ノ損害ヲ與ヘルコトナツタ而モ前述五十五名ノ邦人追出シニ成功シテ自信ヲ得タルモノカ現地「ソ」官憲ハ又モヤ十二月二日ニ至リ「カタングリー」鑛場ノ邦人労働者六十七名ノ即時引揚ケヲ要求シ出シ會社ヲ啞然タラシメタ

若シ右實現ノ曉ニハ同鑛場ハ遂ニ一時閉鎖ノ已ムナキニ至ルコトトテ同月四日在「オハ」領事ハ同地外交代表ニ對シスル無暴要求ノ即時撤回方嚴重申入ルト共ニ在「ソ」大使館ニ對シ中央當局ノ注意喚起方電請シタ

要スルニ「ソ」側最近ノ對石油利權態度ハ石油利權ノ實體タル採油其物ヲ有スル不當手段ヲ以テ組織的ニ妨碍抑制シテ居ルコトカ明カニ觀取セラルル。例ヘハ努力ニ大制限ヲ加ヘテ「オハ」及「カタングリー」舊鑛場ノ採油作業ヲ一層縮少セシメ或ハ新優良採掘鑛區タル「エハビ」第二區及「カタングリー」第一區ノ油井掘鑿ヲ理由ナク禁止シテ採油ヲ不能ナラシメ或ハ昨年試掘ニ成功シタ「エハビ」第一試掘鑛區ノ採掘鑛區ヘノ編入ヲ妨碍シテ採油準備サヘ不能ナラシメテ居ルノハ其ノ一例テアル

斯ウナツテハ日「ソ」基本條約及利權契約ニ依リ明白ニ約定サレタ石油利權自體ノ否定ニモ等シク我方トシテハ嚴重ニ「ソ」聯ノ反省ヲ求メ此國家的權益ノ擁護ニ努メテ居ル。

編 注

本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公表集」第十七輯より抜粋。

213

昭和14年2月16日

有田外務大臣より
在ソ連邦東郷大使宛(電報)

有田外相より在本邦ソ連代理大使に對し漁業交渉および利權問題の解決を希望する日本政府意向を本國に伝達方依頼について

本省 2月16日發

第六九號

十五日本大臣「スメターニン」代理大使ヲ招致シ十四日ノ衆議院對「ソ」決議ノ次第ヲ述ベ最近日「ソ」間ノ懸案中人及船ノ釋放等二三解決セルモノアルカ兩國關係ニ重大影響ヲ及ホス漁業交渉及北樺太利權問題ハ依然未解決ノ儘ナレハ是レカ解決ニ付政府ノ深甚ナル考慮ヲ促シ度シ即チ近來益々激化シツツアル利權業者ニ對スル「ソ」側ノ壓迫事實ニ付テハ茲ニ一々列舉セサルモ右ハ團契交渉及坂井組合利權取消等ニテ明白ニ付「ソ」政府カ日「ソ」基本條約議定書ノ趣旨ヲ尊重セン事ヲ要望ス又漁業交渉ハ去一月以來停頓狀態ニ在ルヲ以テ此際無用ノ抽象的主張及議論ヲ避ケ度ク除外漁區ニ對スル代漁區提供案及安定漁區維持ニ關スル我方主張ハ極メテ公正、妥當且實際のモノナルニ付「ソ」

政府ニ於テモ此見地ヨリ漁業問題ヲ再吟味シ莫斯科ニ於ケル交渉ヲ進捗スル様セラレ度シ更ニ日滿「ソ」間ノ懸案中北鐵代償金問題ニ付テハ最近「ソ」側力滿側ノ提議ヲ拒絕シタル爲メ目下「デッドロック」ニ陥リ居ル由ナレハ之レヲ打開スル爲メ日本政府トシテ何等斡旋スル用意アリ右日本政府ノ意向ヲ速カニ「ソ」政府ヘ傳達アリ度シト述ヘタル處「スメターニン」ハ之レニ對シ縷々意見ヲ述ヘントシタルヲ以テ本大臣ハ本日ノ會談ノ趣旨ハ日本政府ノ意向ヲ「ソ」政府ニ傳達シ又抽象的議論ヲ止メ實際的ニ解決センカ爲メ「サジェスト」スルモノナリトテ論議ヲ避ケ會談ヲ打切りタリ

~~~~~

在滿大使ヘ轉電セリ

214

昭和14年4月3日

# 日ソ漁業条約第四次暫定取極めの署名に関する情報部発表

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粋

第四次暫定取極めまでの交渉経過

日蘇暫定漁業協定ノ署名ニ關スル外務省情報部発表

(四月三日)

過般來東郷駐蘇大使「リトヴィノフ」外務人民委員間ニ交渉中テアツタ日蘇暫定協定ハ四月二日妥結ヲ見同夜十一時五十九分東郷大使「リ」委員間ニ署名ヲ了シタ我方ノ署名ハ「アド・レフェレンダム」(帝國政府ノ承認ヲ條件トシテ)テアル。

編注 本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十八輯より抜粋。

## (付記)

第四次暫定取極迄ノ交渉経過

一日「ソ」漁業條約改訂交渉ハ昭和十一年十一月酒匂代理大使「カズロフスキイ」極東部長間ニ妥結ヲ見タル處「ソ」側ハ調印間際ニ至リ日獨防共協定ニ藉口シ國內手續未了ヲ理由トシテ右調印ヲ肯セサリシ爲爾來昭和十一年末及同十二年末ニ夫々期間一年ノ暫定取極ヲ繰返スノ

已ム無キニ至レリ

二、然ル處我方トシテハ前記酒匂「カズロフスキイ」案ヲ調印スルコトヲ以テ最モ妥當トスル建前ヲ堅持セルヲ以テ昭和十三年秋ニ於テモ右案ニ署名日ノ變更ヨリ生スル若干ノ修正ヲ加ヘ之カ調印方「ソ」側ニ提議セル處同年ニ於テハ「ソ」側ハ從來ト態度ヲ異ニシ我方ニ滿洲駐兵、宗谷海峡航行妨碍ノ「ポーツマス」條約違反アリトナセルノミナラス北鐵代償金最終割賦金支拂停止問題ニ付少クトモ日本政府カ右支拂上ノ保障義務ヲ履行セサル限り長期ノ新漁業條約締結ノ交渉ニ入ル能ハストナシ且昭和十三年迄ニ右交渉成立不可能ト認メラルル場合ハ一年ノ暫定取極ヲ締結スル用意アル旨述フルト共ニ右取極ノ條件トシテ(イ)罐詰工場特別契約ノ一年間延長ヲ認ムヘキモ(ロ)日本側ノ安定漁區ヲ競賣ニ附スルコト及(ハ)軍略上又ハ魚族保護ノ見地ヨリ四十漁區ヲ除外スルコト等ヲ主張スル提案ヲナシ來レリ

我方ハ右「ソ」側ノ不當ナル提案ニ對シテハ早速我方ニ「ボ」條約ノ違反無ク又北鐵問題ハ漁業問題ト關係無キコトヲ以テ反駁セルカ暫定取極締結交渉ニ入ルヤ「ソ」

側ノ除外提議漁區ニ付其ノ一部ニ對シテ代漁區ヲ提供スルコトヲ條件トシテ右一部ノ除外ヲ認ムル案ヲ以テ交渉セルモ「ソ」側ハ四十漁區ノ内三漁區ヲ競賣ニ出シ一漁區ニ對シテ代漁區ヲ與ヘ六漁區ニ對シテ代漁區ノ意味ニテ「ソ」側六漁區ヲ競賣ニ出スコトヲ認メタル以外ハ讓步セス年內逐ニ交渉妥結ニ達セサル儘年ヲ越スコトナレリ從ツテ漁業條約ノ有効期間竝ニ安定漁區及特別契約漁區ノ借受期間何レモ茲ニ滿了スルコトナレリ

三、右事態ニ對シ我方ハ昭和十三年末「ソ」側トノ交渉ニ於テ本交渉中ハ「ソ」側ニ於テ現狀ニ變更ヲ加ヘサルヘキコトヲ期待スル旨申入ルルト共ニ昭和十四年一月二日ノ借區料納期ニ當リテハ前記安定漁區及特別契約漁區竝ニ契約期間中ノ普通漁區三百七十餘箇所ノ借區料ヲ當業者ヨリ朝鮮銀行ニ豫託シタル上「ソ」側ニ於テ之ヲ受取ル様交渉セルカ「ソ」側ハ右ノ内契約期間中ノ普通漁區五十二箇所ニ付テノミ借區料ヲ受取ルヘシトナシ其ノ他ノ漁區ハ之ヲ競賣ニ附スヘキ旨主張セリ、茲ニ於テ我方ハ漁業權ノ行使方法ハ兩國政府ノ合意ニ依リ決定セラルヘキモノナルニ依リ取極締結前競賣ヲ一方的ニ施行スルコ

トノ不當ニシテ我方漁業權ノ侵害ナルコトヲ主張セルカ  
「ソ」側モ亦競賣執行カ何等「ポーツマス」條約ノ違反  
トナラサル旨主張セル爲此ノ論爭ハ取極締結交渉ト併行  
シテ三月十五日「ソ」側力遂ニ浦潮ニ於テ競賣ヲ一方の  
ニ斷行セル前後ニ涉リ繼續セラレタリ

四、他方暫定取極締結ニ付テハ昭和十四年一月八日東郷大使  
ヨリ「リトヴィーノフ」外務人民委員ニ對シ「ソ」側カ  
漁業問題ヲ政治問題化シテ國交關係ニ暗影ヲ投スルノ非  
ヲ糾彈スルト共ニ我方關係漁區ノ安定ヲ主張シ「ソ」側  
ノ除外セントスル漁區ニ付テハ代漁區ノ必要ヲ強調シ其  
ノ後ノ交渉ニ於テ更ニ之ヲ具體化シ「ボリシエレック」  
ノ六漁區ヲ除ク他ノ除外漁區ニ對シ代漁區ヲ提供スヘキ  
案ヲ提議シ以テ右除外漁區ニ於テ妥結ヲ計ラントセルカ  
「ソ」側ハ日本人經營セル漁區ヲ永久日本人ニ與フル能  
ハストナシ日本當業者カ競賣ニ參加スル場合日本側ハ三  
十餘漁區ヲ失フニ過サルヘシトテ日本側ノ競賣參加ヲ懲  
通シツツ我方提議ヲ拒否シ來レリ斯クテ交渉ハ激論ヲ闘  
ハスノミニシテ双方ノ主張對立セル儘打開ノ途發見セラ  
レサリシニ鑑ミ我方ハ三月八日以後ノ交渉ニ於テハ實際

的見地ヨリ漁區安定問題ヲ解決スル方法トシテ此等日本  
側漁區ヲ競賣ニ附スル場合(イ)「ソ」側ハ之ヲ奪取スル  
考無キコト(ロ)日本側漁區貸付期間ハ五年トスルコト  
(ハ)借區料ヲ含ム貸付條件ハ從來ト同一トスルコト等ノ  
保障ヲ與ヘ得ルヤ否ヤニ付「ソ」側ノ意向ヲ探リツツ交  
渉ヲ進メタルカ「ソ」側ハ我方質問ニ對シ(イ)ニ付テハ  
競賣ヲ喜劇化スル能ハストテ保障ヲ與フルヲ拒ミタルモ  
(ロ)及(ハ)ニ付テハ大體之ヲ肯定シ尙三月十五日我方ノ  
抗議ニ不拘斷行セル競賣ニ於テハ我方安定漁區中ノ四箇  
所及除外漁區ノ代漁區タルヘキヲ約シタル「ソ」側ノ六  
箇所ヲ自方ノ漁區ト共ニ競落セル以外ハ我方漁區ニ手ヲ  
附クルコトヲ差控ヘタリ而シテ其ノ後ノ交渉ニ於テ「ソ」  
側ハ漸次其ノ態度ヲ明ニシ前記「ソ」側ノ競落セル安定  
漁區四箇所及「ソ」側漁區六箇所ノ放棄ノ意向ヲ示シ且  
三月二十八日ニハ除外漁區ニ付「ボリシエレック」ノ六  
漁區ノ代リトシテ南「ボリシエレック」ノ「ソ」側三漁  
區ヲ競賣ニ出スコト、留換算率ハ從來通りトシ但シ之ニ  
金約款ヲ附スルコト及「ゴスバンク」經由ノ送金方法ヲ  
認ムルコトヲ提議シ更ニ漁區競賣ニ關シテハ(イ)競賣ニ

於テ日本側ノ取得スル漁區ノ貸付期間ハ五年トシ右貸付ニ付從來ト同様ノ契約締結セラルヘキコト(ロ)此等漁區ノ借區著タル日本人ノ漁業ニ關スル諸問題ハ一九三八年ト同様ニ調整セラルルコト(ハ)借區料ハ平均一割以上引上ケサルコト等ノ趣旨ヲ案文ヲ以テ提議スルト共ニ競賣自體ニ付テハ之ヲ「フイクシヨン」トスルコト能ハサルモ「ソ」側ニ於テ日本側漁區ヲ競落セサルヘキ旨言明セリ茲ニ於テ交渉進捗シ我方ハ競賣ニ参加スルモ我方ノ企圖スル漁區ノ取得ニ支障無キコトヲ明ニスルヲ得タルト共ニ他方三十七漁區ヲ昭和十四年度競賣ヨリ除外スルモ代漁區トシテ「ボリシエレツク」ノ「ソ」側三漁區ヲ競賣ニ依リ及曩ニ「ソ」側ノ競落セル六漁區ヲ讓渡ノ方法ニ依リ竝ニ「ソ」側一漁區ヲ無競賣ニテ日本側ニ提供セシメ且曩ニ「ソ」側ノ競落セル日本側四漁區モ返還セシムルコトトナリ尙又借區料ハ各漁區ニ付一割増ヲ超エサルコトトシテ「ソ」側ノ同意ヲ取付クルヲ得タリ尤モ「ソ」側ハ協定案文ノ審議ニ入ルニ先立チ漁業條約ノ效力延長ニ何等言及セサル案ヲ提示シ條約自體ノ存續ヲ否定セントスル態度ヲ示シタルニ付我方ハ強ク之ニ反

對シツツ協定ノ細目ニ付西參事官及「ツアラプキン」極東部長間ニ交渉セシムルコトトセル處右交渉ニ於テ「ソ」側モ漁業條約及附屬文書ノ一九三九年末迄ノ延長ニ關スル日本側議定書案ニ大體同意シ來レルモ一月一日ニ至ル條約ノ效力ノ遡及ヲ認メス尙議定書(甲)第八條(除外漁區關係)及最終議定書第一部(乙)第一項乃至第五項(國營漁區關係)ノ適用ヲ認メサル規定ノ挿入方主張シ來レリ仍テ種々交渉ヲ重ネタルモ「ソ」側ハ國營企業ニ付一九三九年ニ於テ五百萬布度迄漁獲力供與セラルヘキコトヲ別ニ規定方主張セル外ハ條約ノ延長ニ關スル議定書案中ニ議定書(甲)第八條不適用ニ關スル文句ヲ存置セントシ且我方ノ主張スル「條約ノ效力ノ存續」ナル字句挿入ニ反對シテ四月二日午後二至ルモ双方ノ意見纏ラス此ノ最後ノ二點ノ爲交渉一應物別レトナリタリ然ルニ同日夕刻ニ至リ「ソ」側モ我方主張通ノ字句ヲ挿入スルコト及除外漁區ニ付別ニ規定スルコトニ同意セル爲サシモニ難澁ヲ極メタル交渉モ茲ニ成立ヲ見タリ斯クテ直チニ調印ノ運トナリタルカ我方トシテハ樞密院ニ對スル手續ノ關係上東郷大使ニ於テ「政府ノ承諾ヲ條件トシテ」署名スル

コトニ襲ニ「ソ」側ノ同意ヲ取付ケ置キタルヲ以テ右ニ依リ署名スルコトトシ同日深更「リトヴィノフ」外務人民委員トノ間ニ第四回暫定取極ノ署名ヲ了シタリ

~~~~~

215

昭和14年4月24日

有田外務大臣より
在ソ連邦西臨時代理大使宛(電報)

ソ連官憲による利権業者への圧迫に關し在本邦ソ連代理大使に対し総括的抗議を嚴重申入れについて

本省 4月24日午後10時20分發

第二〇七號

往電第一九四號及第二〇一號ニ關シ

二十四日澤田次官「スメターニン」代理大使ヲ招致シ總括的抗議ヲ嚴重申入レタル處「スメターニン」ハ利権業者ニ對シ「ソ」政府力壓迫ヲ加フルカ如キ事無シ利権業者コソ或ハ「ソ」聯勞働者ノ雇入ヲ拒ミ或ハ品質粗惡ナル食料品ヲ輸入スル等從來屢々利契ニ違反シ來レリ又石油利権企業カ昨年蒙レル由ナル約四百萬圓ノ欠損ハ機械、器具其他設備品及食料品ノ價格暴騰ノ結果ニ依ルナルヘシ日本政府ノ

申出ハ要望ナラハ拜聽スヘキモ抗議ナルニ於テハ受理又ハ莫斯科へ傳達スル能ハスト逃ケヲ張リタルヲ以テ次官ヨリ「ソ」側ノ不當措置ニ付テハ我方ニ確信アレハコソ抗議スル次第二シテ細カキ事ハ係官ヲシテ説明セシムルモ可ナルカ最近漁業條約モ暫定取極ノ調印ヲ見タレハ此機會ニ北樺太利権問題ヲ解決シ以テ兩國間ノ摩擦面ヲ多少ニテモ滑カナラシメントノ見地ヨリ本日申入ルモノナレハ「ソ」政府ニ於テモ充分考慮アリ度シト強く要求シ置ケリ

~~~~~

216

昭和14年4月27日

在ソ連邦西臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

**利権事業への圧迫停止および同企業に対する便宜供与等に関しリトビノフに即時回答方要求について**

モスクワ 4月27日午後發  
本省 4月28日前着

第四八四號(至急)

二十七日「リトヴィノフ」ヲ往訪訓令ニ依ルトテ石油(團契交渉ヲモ含ム)石炭兩利権問題ニ關シ御來示ニ從ヒ詳細

ナル書物ヲ手交シ適當説明ヲ加ヘタル上先方ノ回答ヲ求メタル處「リ」ハ利權問題ハ他官廳ニ於テ取扱ヒ居リ自分ハ詳細ヲ承知セサルニ依リ取調ノ上回答スヘシ貴方抗議ノ點モ日本側記載ノ事項ヲ根據トスルモノナルニ依リ一應取調ノ上ナラテハ受付クル能ハス尙最近ノ同盟通信ニ依レハ日本政府ハ「スメターニン」代理大使ニ對シ抗議セル趣ナルカ日本側抗議ハ當地日本大使ヨリ外務部ニ提出セラルヘキモノニシテ此ノ點蘇側ノ注意ニ拘ラス日本側ハ頻繁ニ東京ニテ抗議シ居レリ自分ハ「ス」ニ對シ日本政府ノ抗議ヲ蘇政府ニ電報スルコトヲ禁シ居レリ右政府ニ報告アリタシ貴下カ當地ニテ抗議セルハ結構ナリト述ヘタルニ依リ本官ヨリ國際法上ヨリ言ヘハ東京及當地ノ何レニ於テ抗議スルモ差支ナシ實際上我方ハ多ク當地ニ於テ抗議シ居ルモ急ヲ要スル場合其ノ他便宜上東京ニテ抗議スルコトアリト述ヘタルニ「リ」ハ政府ノ抗議ハ同政府ノ代表者駐在地ニ於テ提出スルカ本則ナリ

蘇政府<sup>(2)</sup>ノ抗議ハ常ニ東京ニテ行ヒ居レリト述ヘ本官ヨリ蘇政府モ當地ニテ我方ニ抗議シタル例鮮カラス要ハ便宜ノ問題ニ過キスト應酬シタル上本論ニ入り貴下カ今次申入ヲ研

究セラルルハ結構ナリ右申入中ニ蘇側壓迫ノ事例ヲ詳述シアルハ蘇側壓迫如何ニ甚タシキカヲ特ニ貴方ニ明白ナラシムル趣旨ニ出ツ後日回答ヲ期待スルモ最早航海期モ切迫シ居ルニ付至急措置方要望セサルヲ得ス近年利權關係ノ諸紛議ハ一昨年以來執リ來レル蘇側壓迫政策ノ結果ナルコト自分ノ過去二箇年ノ經驗ニ基キ確信スル所ナリ今日即時回答ヲ求メタキ點ハ蘇政府カ右壓迫ヲ直ニ停止シ至急議定書ノ保障スル利權企業ニ對スル一切ノ適當ナル便宜供與及收益の經營ニ關スル規定ヲ實行スル旨言及セラレタキコトナリト述ヘタルニ「リ」ハ壓迫ノ事實モ議定書ノ規定モ取調ヲ要シ即答出來スト答ヘタルニ依リ右議定書モ規定ヲモ承知セスト言フハ有リ得ヘカラサルコトナリト重ネテ即答ヲ迫リタルモ「リ」ハ蘇側ハ種々ノ國際條約ヲ結ビ居リ一々記憶セスト述ヘ即答セス

次<sup>(3)</sup>テ本官ヨリ團契交渉ハ組合ノ頑強ナル爲久シキニ亘リテ妥結セサルコト本日申入ノ通りナルカ特ニ組合ハ賃銀ノ三割五分増ト言フカ如キ尨大ナル要求ヲ固執シ居ルモ會社ハ既ニ指摘セル通り昨年度四百萬圓ノ損害ヲ被リ此ノ上一分モ讓歩シ難キ筋合ナルカ商議妥結ノ爲昨日ヨリ最後の交渉

第五四九號

ヲ行フコトトシ一割増ヲ提議セリ本來ナラハ右要求ハ既ニ明白ナル損害ナルヲ以テ蘇側ニ賠償ヲ求ムヘキ筋合ナルカ此ノ上更ニ値上スルコトハ蘇政府ノ補償ナキ限り絶對ニ承知出來サルモノナルニ依リ蘇政府ニ於テ明日回答ノ筈ナル(組合ノ申出ニ依リ交渉一日延期セラル)組合ニ對シ會社提案ヲ其儘受諾スル様至急説得アリタシ(リ)ヨリ組合ハ會社ノ經濟狀態ヲ承知シ居レリヤト訊ネタルニ依リ會社代表ノ説明ニ依リ大體ヲ承知シ居ル筈ナリト答ヘ置ケリ)尙石炭企業復活ニ對シ蘇側力急ニ壓迫ヲ開始シタルヲ以テ航海期以前ニ諸問題ノ解決方配慮ヲ求ムト述ヘタルニ「リ」ハ右二問題トモ貴方申入調査ノ上回答セシムト答ヘタリ

~~~~~

217 昭和14年5月15日 在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

モロトフ新外務人民委員に對シ利權問題への 善処方要請について

モスクワ 5月15日前發
本省 5月15日後着

貴電⁽¹⁾第二四二號ニ關シ(北樺太利權壓迫問題ニ關シ蘇側へ申入ノ件)

外務委員「モロトフ」ヲ十四日訪問セリ同人新任後一般ニ儀禮上ノ訪問ハ省略スルトノコトニテ初對面ナリシニ依リ一應ノ挨拶ヲ交シタル後用談ニ入り

本使ヨリ日蘇兩國ハ國境ヲ接シ居ル關係等ヨリ種々ノ案件發生ス現ニ一昨年及昨年紛爭事件アリタルカ昨年八月以後ハ大ナル事件ナク經過シ居ルハ同慶ニ堪ヘス日本ハ不脅威、不侵略ノ方針ヲ持スルモノナルニ付蘇側モ同様ノ精神ナルニ於テハ兩國間大ナル事件ナクシテ濟ムコトト思考スス次ニハ蘇聯領域ニ於テ我方ノ有スル經濟上ノ利益ナルカ之ハ兩國間ノ條約ニ根據ヲ有スル故政府モ國民モ之ニ對シ重大ナル關心ヲ有ス其ノ一ハ露領水域ニ於ケル我方ノ漁業權ナルカ之ニ關シテハ昨年十一月以來約五箇月ヲ閱シテ去ル四月二日妥結ヲ見タルコトハ誠ニ結構ナリ我國輿論ハ漁業權カ最近一年ト言フ暫定協定ニ依リテ律セラレ長期ノ條約締結セラレサルコトニ付テハ之ヲ不滿ト爲シ居レルモ兎ニ角本年モ條約ノ下ニ漁業ヲ經營シ得ル事態ニ在ルハ交渉ノ任ニ當リシ本使ノ等シク本懷トスル所ナリ

第二⁽²⁾ハ北樺太ニ於ケル石油、石炭ノ兩利權ナルカ之ニ付テハ北京ニ於ケル兩國間ニ交渉成立シタルコト貴下モ御承知ノ通りナルカ本使モ當時東京ニ於テ直接交渉事務ニ關係シ居リタルヲ以テ良ク承知シ居ルカ實ハ右交渉ノ際蘇政府ハ右兩利權ノミナラス天然資源ニ關スル日本ノ需要ヲ考慮シ蘇聯内ニ於ケル天然資源ノ開發ヲ日本人ニ許與スルノ意嚮ヲ表明シ右ハ北京條約中ニ明記セラレアリ殊ニ北樺太ニ於ケル石油、石炭利權ニ付テハ蘇政府ハ右企業カ其ノ收益的經營ヲ不可能ナラシムル如何ナル制限ヲモ加ヘサルコト同時ニ一切ノ保護及便益ヲ與フルコトヲ約シ居ル處最近二、三年此ノ方貴方官憲ハ兩企業ニ對シ不當ナル制限壓迫ヲ加ヘ爲ニ兩企業ハ收益的經營ヲ爲スコト能ハサルノミナラス却テ損失ヲ招キ居レリ右ニ付テハ本使旅行中四月二十七日當館參事官ヨリ當時ノ人民委員ニ覺書ヲ手交シ説明シタルコトナレハ御承知ノコトト思考ス帝國政府トシテハ漁業條約カ暫定トハ言ヘ締約セラレタル此ノ際利權關係案件ヲモ解決シ摩擦面ヲ少クシ兩國關係ヲ改善シタシトノ考ナレハ蘇政府ニ於テモ之ヲ了解シ利權事業カ圓滿ニ遂行シ得ル様取計ハレタシ利權關係ハ他ノ官廳ニ於テモ管掌シ居ルコト

ナルカ貴下ハ外務委員タル外人民委員會議々長ナレハ此ノ點尙更好都合ナリ貴下ノ盡力ヲ期待スルモノナリ殊ニ只今時節ノ關係上物資及勞働者ノ送込ヲ爲ス時期ナレハ速ニ之ヲ運ヒ得ル様御盡力ヲ得ル必要アリ尙莫斯科ニ於テ目下石油企業代表者ト組合側トノ間ニ團體契約ノ締結ニ付交渉行ハレ居ルカ之モ速ニ妥結ニ達スル様御盡力ヲ仰度シ本件ニ付テモ前記覺書ニ述ヘラレアル通り利權者側ハ非常ニ難キヲ忍ビ及フ限りノ讓歩ヲ爲シタルコトナレハ組合側ヲシテ我方ノ提案ノ下ニ話ヲ纏ムル様御取計アリタシト述ヘタルニ

「モ」ハ貴使ノ述ヘラレタル内政治關係ニ付テハ蘇政府カ平和愛好政策ヲ採リ居ルコトハ良ク御承知ノコトト思考ス又經濟關係ニ付テハ蘇政府殊ニ外務部トシテ條約上生スルコトハ之ヲ保證スルコトニ努ムヘシ然シ利權者モ條約上ノ權利ヲ享有スルト共ニ其ノ爲スヘキコトハ爲ササルヘカラス外務部トシテハ當然爲スヘキ措置ハ講スヘシ又人民委員會議ハ當該人民委員會ニ必要ノ指令ヲ與フヘシ交渉ハ兩方カ満足スル結果ニ到達スルヲ要ス四月廿七日ノ覺書ニ付テハ研究ノ上措置スヘキコトハ指令スヘシト述ヘタリ

依テ本使ハ條約上ヨリ生スル事項ハ保證スト言ハレタル點ニ付テハ満足ノ意ヲ表ス條約ニハ收益の經營ト充分ノ保護便宜ヲ約サレアル譯ナリ覺書ノ各事項ニ付研究サルルトノコトナルカ既二十日以上モ經過シ居ル外船舶ノ出帆等ハ急ヲ要スル事情アルヲ以テ成ルヘク送^(速)ニ必要ナル措置ヲ執ラレタシ

双方ノ満足スル様ニトハ本使モ希望スル所ナルカ茲ニ石油利權ノミニ付見ルモ試掘完了シ探掘區域ニ編入シテ可ナル地區ヲ現地官憲カ非常識ナル理由ヲ以テ之カ編入ヲ拒ミ其ノ他蘇聯法規ニモ何等根據ナキ制限ヲ附シ採油ヲ減少セシムルノミナラス他方組合側ハ勞働賃金ニ付尨大ナル要求ヲ爲シ或ハ又勞働者供給ニ付支障ヲ生セシメ居ルカ如キハ甚タ遺憾ナリ石油企業トシテハ充分ニ石油ヲ採取シ得ル場合初メテ賃金ニ付テモ考慮ヲ加ヘ得ヘキ次第ニテ根本問題トシテハ利權企業カ充分圓滿ニ經營シ得ル事重要ナレハ右ニ付御盡力ヲ仰クコトハ双方ノ利益ナルニ付此ノ點御了解ノ上措置ヲ執ラレタシト述ヘタルニ「モ」ハ收益ハ利權者ノコトナリ蘇政府トシテハ條約上必要ナル事ハ措置ヲ講スヘク覺書ニ付テハ出來ル丈ケ速ニ研究ヲ爲スヘシ實ハ利權者

カ不正行爲ヲ爲シタルコトアリトモ聞及ヒ居レルカ利權者ハ利契ヲ嚴守スヘキナリ貴使ヨリモ此ノ點當業者ニ注意セラレタシト述ヘタルニ依リ本使ハ會社側ニ不當ナル事明確トナリタル場合ニハ會社ニ注意スヘキハ當然ナルカ本日本使ノ述ヘタル所ハ極メテ條約上當然ノ事ナルニ依リ貴方ニ於テ利權カ圓滿ニ遂行セラレ得ル様審議ノ上關係方面ヘ必要ナル指令ヲ與ヘラレン事ヲ重ネテ要望スト述ヘタルニ「モ」ハ御希望ニ付テハ曩ニ述ヘタル通り日本利權者カ契約ヲ嚴守スル考ナラハ仕事モ圓滿ニ進行スヘシ之以上ハ夫々ノ機關ニ於テ具體的ニ審議スル必要アリ本日ハ全般的ニ述ヘタル次第ナルカ必要アラハ更ニ會談スヘシト述ヘタリ以上會談一時間ニシテ辭去セリ

~~~~~

218

昭和14年5月16日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

利權問題をめぐるモロトフとの応酬を踏まえ今後は契約上の権利は強く主張しつつも事業者側による義務の嚴重履行が必要との見解について

モスクワ 5月16日後発  
本省 5月17日前着

## 第五六六號

往電<sup>(1)</sup>第五四九號ニ關シ

本使旅行歸任後當地利權代表等ヨリ聽取セル所ニ依レハ組合側ハ賃銀値上ニ依リ會社ノ蒙ル損失ハ日本政府ニ於テ補償シ吳ルヘシト考ヘ來リタルモノノ如ク搗テ加ヘテ最近組合側ハ石油代表ニ對シ會社側カ労働者ニ對スル供給品及供給方法殊ニ被服ニ付其ノ品質ノ頗ル劣等ナルニ付大イニ不滿ノ意ヲ表シ斯ル狀態ヲ事前ニ承知シタランニハ賃銀値上ハ四割ヨリ斷シテ讓步セサリシナルヘシト述ヘニ割五分ヨリハ絶對ニ讓步出來スト強硬態度ヲ持シ居ル趣ニテ他方四月末西ヨリ「リトビノフ」ニ對シ爲シタル申入ニ付宮川ヲシテ極東部長代理ニ爲サシメタル督促ニ對シ先方ハ日本側申出ハ全部貴方ノ材料及意見ヲ基礎トシタルモノニシテ充分檢討ノ上ナラテハ回答出來スト述ヘタルハ御承知ノ通リナリ(往電第五三三號)

就テハ貴電第二四二號御訓令執行ニ際シテハ「モロトフ」ノ本件事實ヲ承知シ居ラサル模様ナリシニ顧ミ大局の見地

ヨリ說キ殊ニ前記ノ事情ヨリシテ北京條約附屬議定書ノ條項ヲ楯トシ先方ノ猛省ヲ促シタル次第ナルカ「モロトフ」ハ具體的討議ニ入ルヲ避ケ乍ラ利權事業ハ條約上ノ權利ヲ享有スルト共ニ其ノ爲スヘキコトハ爲ササルヘカラスト述ヘ先方ニモ言分アルコトヲ示セル次第ニシテ供給物資ノミニ付テ見ルモ團契成立ノ場合ニモ團契第六十條ニ於テ「充分良質ノ食料品及一般需要品ヲ順調ニ供給スルコト」ト記載シアル以上相當紛糾ヲ見ル惧アリト認メラル最近蘇側ハ屢事態變更ニ依リ從來ノ好意的慣行モ變更セサルヘカラストノ言辭ヲ弄シ居ル次第ニシテ日蘇國交關係カ一般的對立ヲ持續シ居ル限リ蘇側ノ好意ニ賴ルコトハ不可能ナリト覺悟セサルヘカラサル次第ニシテ利契上ノ權利ハ飽迄主張スルト同時ニ企業者側ニ於テモ義務ハ嚴重ニ履行スルヲ要スル儀ト認メラルルニ付此ノ點會社側ニ對シ篤ト説示セラルルト共ニ此等事項ニ付根本的檢討ヲ加ヘシムル様御指導方可然ト思考ス



219

昭和14年6月10日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

団体契約改訂交渉決裂の場合日ソ国交にも影響あることを示唆の上組合指導方外務人民委員代理に要請について

員代理に要請について

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粋

「帝國軍艦ノ北樺太東西海面派遣」

モスクワ 6月10日前発

本省 6月10日夜着

第六六二號

貴電第二八一號ニ關シ(北樺太石油團體契約改訂交渉打開ニ關スル件)

「モロトフ」ニ面會ヲ申込ミ置キタル處會談用向ニ付問合アリタルニ依リ北樺太利權關係ナル旨答ヘタルニ外務人民委員代理「ロゾフスキー」ト會見アリタシトノコトニテ九日午後四時ヨリ六時過迄會談セリ

先ツ本使ヨリ本件ニ付曩ニ「モロトフ」ト會談ノ要領ヲ述ヘタル上季節ノ關係上最モ急速解決ヲ要スルハ労働者雇込ノ問題ナルカ蘇側ハ蘇人労働力ヲ提供セサルノミナラス日本人労働者ノ輸送ニ付許可ヲ與ヘス當業者ハ既ニ送込船ヲ

準備シ居リ困リ居ル譯ナリ日蘇基本條約議定書ニモ蘇政府ハ利權業者ニ對シ便益ヲ與フルコトヲ約束シ居ル次第ナレハ速ニ輸送許可アリタシ蘇側トシテハ團契未成立ノ爲本件許可出來スト言フヤモ知レサルカ團契ニ付テハ交渉行ハレ居ル處右團契ハ週及シテ效力ヲ發生スルコトニ話合アルヲ以テ團契ノ成立ヲ待ツ必要無シト述ヘタルニ

「ロ」ハ(右輸送許可ヲ申請シ居ル日本人労働者ノ數ヲ尋ネタルニ依リ蘇側當該官憲ヘハ當業者ヨリ申入アルコトナルカ正確ナル數字ハ後刻通知スヘシト述ヘ歸還後右ハ八百六十一名ナリト通知シ置ケリ)利權問題ニ關スル四月二十七日附日本側覺書ハ石炭、石油ニ分レ其ノ中ニハ法律上ノ問題ノミナラス地質學ニ關スル問題迄モ含マレ且多岐多樣ニシテ充分材料ヲ集メ慎重研究スル必要アリ何レ材料全部出揃ノ上確タル御返事致ス考ナリ貴方ノミノ材料ヲ基礎トスルコト能ハサルハ貴使ノ了解サルルコトト思考ス團契ニ付テハ交渉遷延シ居ルコトナレハ妥結ヲ見レハ結構ナリ但シ組合ハ公共團體ノコトニモアリ外務部トシテ之ニ干渉出來スト述ヘタルニ依リ本使ハ蘇側ニ於テ慎重研究サルルコトハ結構ナルモ労働者雇込問題ハ北樺太ニ於ケル季節ノ關係

上急速ヲ要スル次第ナレハ此ノ點充分了解アリタシ尙利權問題ハ収益的經營ヲ保障及保護(脱)便益供與ニ關スル北京條約附屬議定書ノ條項ヲ遵守スル必要アリ勞働者ノ輸送遲ルレハ經營ハ妨碍セラレ便益供與ノ規定ニモ違反スルモノナリ

勞働者<sup>(3)</sup>ノ必要ナルコトハ材料ヲ集メル迄モナク明瞭ナリ依テ此ノ際直ニ取急キ措置サレタシト述ヘタルニ「ロ」ハ覺書所載ノ諸問題ノ範圍廣汎ニシテ取調ヲ要スルカ取調ハ仕事ノ進捗ヲ妨碍セス勞働力ノ輸送セラレサルコトカ収益的經營及便益供與ノ規定違反トナルトノ貴見ニハ同意出來ス何レ慎重研究ノ上各問題ニ付御返事スル積リナレハ本件ニ付テモ其ノ時ニ回答スヘシト述ヘ急速回答ノ意嚮ヲ示ササリシニ依リ本使ハ勞働力無ケレハ仕事出來サルコト明白ニシテ勞働力ノ輸送不許可ハ仕事ノ進捗ヲ妨碍スルコト亦明瞭ナリ從テ結果ハ北京條約ノ違反トナルモノナリ凡ソ急ヲ要スル問題ヨリ着々處理シ行クコト最良ノ方法ニシテ本件至急許可ノ要望ハ充分根據アル次第ナリト述ヘタルニ「ロ」ハ問題ハ爾ク簡單ニアラス問題ハ充分研究シテ明瞭ナル回答ヲ爲ス必要アリ蘇側トシテハ條約、契約ノ範圍内ニ於テ

行動セントスルモノニシテ利權者モ亦同様ナラサルヘカラスト述ヘタルニ依リ

本使<sup>(4)</sup>ハ當業者ニ於テハ適時ニ申入レヲ爲シタル次第ナレハ本件至急許可アル様取計ハレタシ次ニ團契ニ付テハ干涉出來ストノ御意見ナルカ我方トシテモ官權ヲ以テ會社ノ事業ニ干與スルコト出來サルハ無論ニシテ最良ノ方法ハ當業者間ニ話ノ纏マルコトナリ蓋シ利權ハ兩國間ノ條約ニ胚胎スル爲我政府ハ國民共ニ關心ヲ有ス然ル處在當地利權代表ニ於テモ始終努力セル結果多クノ點ニ於テ妥結ニ達シタルカ未タ纏マラス點若干有リ是等ニ付テハ代表トシテ是以上讓歩スルコト能ハサル次第ニテ行結リトナレリ而シテ會社ノ仕事ハ夏カ主ニシテ此ノ際餘リ時間ヲ空費スルコト出來サル事情ニ在ルニ依リ此ノ際兩國政府ニ於テ何トカ斡旋ノ上妥結ニ導クコト出來レハ最モ良カルヘシト考フルカ之ニハ貴方モ御異存無カルヘシト思考スト述ヘタルニ「ロ」ハ勞働者輸送問題ニ付テハ其ノ重要性ヲ認ムル次第ニシテ何レ研究ノ上他ノ問題ニ對スル回答ト共ニ御答ヘスヘシ

團契<sup>(5)</sup>ニ付テハ自分ハ貴使ノ様ニ良ク承知セス行詰リノ狀態ト言ハレタルカ如何ナル問題ニ付斯ル事態生シタルヤ蘇政

府トシテ斡旋スルコト可能ナリヤ否ヤ本件ハ司法上ノ關係ナレハ法律上又國際法上條約ヨリ見テ蘇政府カ組合ニ壓力ヲ加ヘ又ハ日本政府カ利權者ニ壓力ヲ加ヘ得ルヤ否ヤ等ノ疑問モアルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ北京條約ニ依レハ蘇政府ハ事業カ圓滿ニ運フ様保護便益ヲ與フルコトトナリ居ル次第ナレハ圓滿ニ運ハヌ場合ハ障碍ヲ除ク義務アリ即チ必要ノ場合蘇政府ノ權限内ニ在ルコトニ付テハ壓力ヲ加フルコトモアリ得ヘシ貴下カ勞働力ノ輸送ニ付覺書記載ノ他ノ問題ト同時ニ回答スヘシト言ハレタルコトニ付テハ多大ノ失望ヲ感セサルヲ得ス懸案ハ凡テ一ツ々々解決スルコトカ最良ノ方法ニテ他ノ問題ニ付回答カ明日ニモ與ヘラルルナラハ格別然ラサレハ勞働力ノ問題ハ急ヲ要スルニ付急速解決方取計ハレタシ

團契<sup>(6)</sup>ニ付當方<sup>(貴方)</sup>ハ司法上ノ問題ナリト言ハルルカ話カ纏マラサル場合利權カ條約ニ胚胎スルモノナルコト便益供與ノ規定アルコト等ヨリシテ政府間ニ於テ話ノ纏マル様措置スルコト當然ナリト述ヘタルニ「ロ」ハ如何ナル問題ニ付行詰リトナレルヤト重ネテ質問シタルニ付本使ハ以上本使ノ述ヘタル所ニ主義上ノ反對ナケレハ御話スヘキカ未決問題中

(一)ハ勞働賃銀ノ問題(二)ハ夫以外ノ各種ノ問題ト言ヒ得ヘシ  
(一)ニ付テハ會社ハ非常ナル困難ヲ排シテ一割丈ケノ値上ニ同意セリ夫以上ハ會社ノ經營上値上ニ同意スルコト能ハストノ主張ニテ双方意見ノ對立ヲ見居ル次第ナリ(二)ニ付テハ施設ノ改善等其ノ他ノ問題ナリ本使トシテハ交渉ノ成立ヲ希望シ考慮シタル結果ナルカ貴方ニ於テ賃銀以外ノ問題ニ付組合側ヨシテ會社側ノ意見ヲ全部承諾セシムルニ於テハ會社ニ對シ一割ノ代リニ一割五分ノ値上ニ同意セシメ圓滿妥結ニ達セシメントノ考ナリ

<sup>(7)</sup>前ニモ申シタル通り利權カ條約ニ胚胎スル結果政府國民トモ重大關心ヲ有シ居ル爲本件交渉ノ不調ハ國民ニ衝動ヲ與ヘ問題紛糾スルニ於テハ兩國ノ國交ニモ影響スルヤモ測ラレサルニ付本件ヲ圓滿解決シ度シトノ考ヨリ只今ノ提案ヲ爲シタル次第ナリト述ヘタルニ「ロ」ハ勞働力輸送問題ハ重大ナルニ付充分研究スヘキカ回答ノ時期ニ付テハ何トモ申サレス組合對利權者ノ關係ニ關スル貴方ノ解釋ニハ同意出來ス團契交渉成立ニ付テハ關心ヲ有スルモ蘇政府トシテ組合ニ對シ壓力ヲ加ヘ得ルヤ否ヤ言明出來ス尙組合利權者間ノ紛争カ國交ニ影響アリトノ貴見ハ首肯スル能ハス五

「パーセント」多イ少イノ問題ヨリ日蘇兩國ノ如キ大國ノ關係ニ變化起ルヘシトハ思ヘス兩國ノ關係ハ歴史の利害關係ニ基礎ヲ置クモノナリト述ヘタルニ依リ

本使<sup>(8)</sup>ハ勞働力ノ問題カ重要性ヲ有スルコトヲ諒解セラレタルハ結構ナルカ本件ノ急速解決ヲ要スル點モ諒解アランコトヲ希望ス左スレハ回答モ至急與ヘラルコトトナルヘシ團契カ成立セサル場合會社トシテ圓滿ナル事業ノ遂行不能トナレハ日本政府及國民ニ對シ決シテ良キ感情ハ與ヘス感情良カラサレハ夫丈ケ國交ニモ影響スヘシ故ニ交渉纏マラサル場合ハ兩國政府トシテ曩ニモ度々申シタル如ク條約關係ヨリ交渉ノ纏マル様仕向クルコト當然ナリ此ノ際締結方法トシテハ本使ノ本日申シタル以外ニ方法ナシト思考ス就テハ其ノ意味ニテ組合ヲ指導セラレンコトヲ期待スト述ヘタルニ「ロ」ハ何レ組合側ニ交渉ノ經過ヲ照會スヘシ尙法律上組合ニ對シ壓力ヲ加ヘ得ル根據薄弱ナルカ本日本使ノ話ハ外務人民委員ニ取次クヘシト述ヘタリ

## （付記）

帝國軍艦ノ北樺太東西海面派遣

昭和十四年中「ソ」官憲ノ我石油、石炭利權會社ニ對スル最モ甚シキ不法壓迫ノ一ツニ裁判ニ依ル巨額ノ賠償支拂要求事件アリ

（中略）

現地各「ソ」聯勞働者組合ハ殆ト時ヲ同ウシテ石油及石炭兩利權會社ニ對シ所要物資不配給乃至不足ヲ口實トシテ前者ニ對シテハ二十六萬留餘、後者ニ對シテハ三十八萬留餘ト云フ法外ナル賠償支拂要求訴訟ヲ提起シタル處、「ソ」聯裁判所亦組合側ノ要求ヲ鵜呑トナシ不公正且亂暴極マル裁判ヲ以テ兩利權會社ニ對シ右賠償額全部ノ支拂ヒヲ命シタリ

斯ノ如キ不法行爲ヲ此ノ儘默視スルニ於テハ今後モ續々此ノ手ヲ用ヒラレ我利權企業ハ經濟の二破滅スルコト明カナルニ付亞港及「オハ」領事館ハ勿論在「ソ」大使館ヲシテ「ソ」側ノ斯ル不法措置是正方嚴重交渉セシメタルモ「ソ」側ハ何等反省ノ模様ナキノミナラス却テ前記石炭會社ニ對スル不法裁判ノ執行（石炭會社ノ分ハ控訴裁判ヲ終了セルモ石油會社ハ第一審終了セルノミ）ヲ強行セントセリ茲ニ於テ更ニ在「ソ」大使ヲシテ最モ強硬ナル抗議ヲナサシムルト共ニ海軍省ト協議ノ上不取敢斯ル強壓手段ヲ中止セシ

第八一〇號

メ旁々我北樺太利權擁護ノ目的ヲ以テ六月末ヨリ九月末ニ至ル期間北樺太東西兩海面ニ相當數ノ帝國軍艦ヲ出動滯留セシメ「ソ」側ノ態度ヲ監視セシメルコトセリ

右軍艦派遣ニ對シ現地「ソ」官憲及一般住民ハ相當狼狽且神經過敏トナリ或ハ海岸ニ監視所ヲ設ケ或ハ沖合ニ碇泊セル我軍艦上空ヲ多數飛行機ヲ以テ示威的飛行ヲナシ或ハ軍艦附近ニ監視艇ヲ游航セシムル等警戒乃至嫌カラセの行爲ヲ執リタルカ我利權企業ニ對シテハ別ニ報復の壓迫ヲ加フルカ如キコトナカリシノミナラス前記石炭會社ニ對スル判決ノ執行ヲ停止シ石油會社ニ對スル控訴裁判ヲ無期延期シ其他邦人關係ノ裁判ニモ好影響ヲ與ヘタリ

~~~~~

220 昭和14年7月16日 在ソ連邦東郷大使より 有田外務大臣宛(電報)

外務人民委員代理に對し利權問題に関するソ連側回答督促について

モスクワ 7月16日前發
本省 7月16日夜着

⁽¹⁾十五日約束通り「ロゾフスキー」ヲ往訪北樺太利權問題ニ付テハ此ノ前ヨリ「モロトフ」及貴官ニ再三申入レ蘇政府ノ契約上ノ義務ヲ指摘スルト共ニ本件急速解決ヲ要スル事情ニ付テハ篤ト説明ヲ加ヘタル次第ナルモ今猶回答ニ接セス斯クテ會社事業ハ重大ナル障碍ヲ受ケ居ル次第ニシテ重ネテ日本政府ノ嚴重ナル訓令ニ接セリ即チ

「北樺太利權諸問題ニ關シ我方ハ既ニ四月二十七日書面ヲ以テ申入レ更ニ五月十四日、六月十日口頭ヲ以テ申入レタルカ蘇側ハ之ニ對シ調査中ナリト答フルノミニテ今猶回答セサルハ甚タシキ怠慢ト斷スル外ナシ蘇政府ニ於テ右回答ノ意志ナキ儀ナリヤ確答ヲ求ム

三、本年度ニ於ケル石油、石炭兩利權企業ニ要スル労働者搬入及物資輸入問題竝ニ石油企業ノ支所寄港問題ニ付我方ヨリ再三申入レタルニ拘ラス蘇側ハ依然トシテ明確ナル利契上ノ義務ヲ履行セス

⁽²⁾企業ノ經營ヲ不可能ナラシメツツアルハ北京條約ノ明白ナル違反ナリ依テ日本政府ハ右ニ關シ生シタル損害賠償ヲ正式ニ蘇政府ニ要求スルモノナリ尙同時ニ事業季節短期ナルニ顧ミ利權契約上延テハ條約上當然蘇側ノ義務ヲ

ル邦人労働者ノ入蘇ヲ即時許可シ又蘇聯労働者ヲ八月一日迄ニ提供セラルヘキコトヲ要求ス尙右ニ付至急明確ナル回答ヲ求ム

三、團體契約問題ニ付テハ會社ハ速ニ之カ圓滿妥結ヲ圖ル爲多大ノ讓歩ヲ爲スコトトナリ昨日當業者代表ヨリ組合ニ提議セリ右案ハ日本側ノ絶對的最後案ナルヲ以テ之以上何等讓歩ノ餘地ナシ蘇政府ニ於テ右案ニ依リ至急團契ヲ成立セシムル様配慮アリタシ尙物資輸入労働者搬入及支所寄港ノ諸問題解決セサルニ於テハ假令團契成立スルトモ會社事業ノ經營不可能ナレハ右會社ノ讓歩ハ之等諸問題解決ヲ前提條件トスルコトナル譯合ナルニ依リ此ノ點承知置キアリタシ(此ノ點「ロ」ハ會社提案ノ内容如何ト問ヘルニ依リ本使ヨリ御來示ノ趣旨ノ概要ヲ説明セリ)

四、⁽³⁾石炭企業關係裁判問題ニ付テハ六月二十日附書面ヲ以テ又石油企業關係問題ニ付テハ前會談ノ際本使ヨリ詳細申入レ置キタルニ依リ御承知ノ筈ナリ日本政府ハ右兩裁判ヲ以テ我利權ヲ斷壓スル不法手段ニシテ判決ノ強行ハ我方條約上ノ權益タル利權ヲ奪取セントスルモノト認メ右

判決ハ絶對ニ承認スルヲ得ストスルモノナリ從テ蘇政府ニ對シ適當ナル方法ニ依リ右兩判決ノ是正ヲ求ムルト共ニ目下石油企業ニ對シ現地蘇官憲ノ執リツツアル強制執行ノ即時停止ヲ要求スルモノナリ

尙事態切迫シ居ル譯ナルヲ以テ以上四問題ニ對シ成ルヘク速ニ遅クモ十八日迄ニ蘇政府ノ確答ヲ求ム若シ蘇側ニ於テ前記第二項我方要求ヲ無視シ至急解決ヲ計ラス又裁判問題ニ對シ蘇側執達吏ノ言フ如ク十九日迄ニ會社方當然賠償金ヲ納付セサル場合會社財産ヲ差押フルニ於テハ日本政府ハ條約ニ基ク權益擁護ノ爲其ノ適當ト信スル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘク其ノ場合一切ノ責任ハ蘇側ニ在ルコトヲ茲ニ明確ニ申入ルル儀ナリ

ト述タルニ「ロ」ハ用意セル書キ物ニ依リ
一、團契ハ基本問題ニシテ之カ解決ナキニ於テハ他ノ諸問題ノ解決遅ルル譯ナリ貴使ニ再三説明セル通り蘇聯ニ於テハ國家權力機關ト組合トノ間ニ特殊關係アリ組合ハ憲法ニ依リ其ノ權利ヲ保障セラレ居リ組合ノ國家權力機關ヘノ服從豫見セラレ居ラス從テ外務部ハ組合ヲ押付クルコト出來ス蘇側ハ日本側ト同様當事者間ニ至急團契締結セ

ラルルコトヲ希望スルモ組合カ組合員ノ利益ヲ侵害スト解スルカ如キ團契ノ締結ヲ組合ニ強制スル能ハサルナリ燃料人民委員部ヨリノ通報ニ依レハ同部ハ日本當業者ニ對シ團契交渉ノ遅延スルニ於テハ蘇聯勞働者募集ニ支障ヲ來スヘキコトヲ通告セル由ナルカ右ハ當然ニシテ蘇聯勞働者ハ如何ナル勞働條件ニ依リ傭入セラルルヤヲ知ラスシテ遠隔ノ「サハレン」ヘ赴クコトナカルヘシ燃料人民委員部カ必要數ノ蘇聯勞働者ノ募集出來サルトキハ利契ニ依リ日本勞働者ノ搬入ヲ許可スルコト能ハス日本側ハ再三各種利權問題ヲ持出サルルカ自國當業者カ交渉ヲ遷延シ居ルコトヲ等閑ニ附シ居レリ

自分ハ組合要求ノ内容ニ立入ルヲ欲セサルモ自分ハ組合ノ要求ハ控目ニ過クト思考スルモノナルカ當業者ニ於テスル要求ヲ八箇月ノ日子ヲ要シ尙且容認セサルニ驚クモノナリ貴使ノ唯今ノ御話ニ依レハ會社ハ昨日最後案ヲ組合ニ提示セル由ナルカ之ニ對シ組合カ如何ナル回答ヲナスヤハ自分ハ承知セス若シ組合カ會社ノ右案ヲ採擇セサルトキ會社側ハ其ノ責蘇聯ニ在リト云フヘケンモ夫レハ非理論的且無根據ナリ會社側カ蘇聯ハ他ノ國ト異リ勞働

者關係事項ハ凡テ組合ノ手ヲ經テ解決セラルヘキコトヲ知り居リタリトセハ團契問題ノ如キハ既ニ客年末解決セル筈ナリ貴使ヨリ會社側ニ對シ組合ハ憲法上ノ權利ヲ有シ此ノ權利ヨリ引クモノニアラサルコトヲ御傳ヘアリタシ繰返シテ申スヘキカ團契問題ノ解決セサレハ他ノ諸問題ノ解決ハ困難ナリ

三、裁判問題ニ關スル貴使ノ抗議ハ法律上ノ根據ナシ利契ニハ利權者カ契約義務ニ違反シ差支ナシトノ規定ナク勞働者ハ配給ヲ受クル權利ヲ有ス大使館ハ本件ニ付司法的關係ト國際的關係トヲ混淆シ居ラルルカ蘇聯ニ於テ外國人タルト否トヲ問ハス蘇聯法規ヲ遵守スヘキナリ

貴使ニ於テ會社側ニ對シ法規ヲ遵守シ契約義務ヲ履行スル様忠告サルルニ於テハ本件裁判問題モ發生セス又會社勞働者間ノ紛議ナカルヘシ尙貴使ハ日本政府ニ於テ適當ト信スル措置ヲ執ル云々ト言ハレタルカ自分ハ斯ル威嚇ヲ拒否ススル申入レハ決シテ日本ニ對シ良キ結果ヲ爲スモノニアラス又蘇聯裁判ニ對スル貴使ノ抗議ヲ拒否ス裁判所ハ會社カ勞働者ニ對シ負ヘル義務ヲ履行セサリシニ依リ干涉セルモノナリ蘇側ハ紛議ヲ欲セス又其ノ締結セ

ル契約ヲ違反スル意思ナキト共ニ會社ノ契約上ノ權利ヲ侵犯セントスルモノニアラサルカ利權者ハ蘇聯領土内ニ於テ事業ヲ經營シ居ルコトヲ忘ルヘカラス蘇政府日本ヲモ含メ隣國ニ對シ平和政策ヲ執リ居レリ

ト答ヘタルニ依リ本使ハ

貴方ハ相手方ノ正當ナル理論ニ耳ヲ藉スノ誠意ナキハ本使ノ不幸トスル所ナリ貴下カスル態度ヲ持スル限り之以上議論ヲ重ヌルモ無益ナルヤモ知レサルカ二三ノ點ニ於テ貴方ノ誤謬ヲ正ス必要アリ

一、⁽⁷⁾貴下ハ組合ハ憲法上權利ヲ保證セラレ居ルト言ハルルモ問題ハ組合ノ憲法上ノ地位ニアラスシテ蘇政府カ北京條約ニ依リ日本政府ニ如何ナル義務ヲ負ヒ居ルヤノ點ニ在リ一國政府ハ國內法上ノ關係ヨリシテ國際義務ヲ免ルルモノニアラス之國際法ノ原則タリ蘇政府ハ北樺太利權事業ニ對シ收益の經營ヲ可能ナラシメ又一切ノ適當ナル保護及便宜ヲ供與スヘキ義務ヲ有シ「モロトフ」ハ條約上ノ義務ハ充分ニ履行スト言ハレタリ從テ團契締結ニ對シテハ蘇政府ハ其ノ成行ニ付配慮スル要アルコト明カナリ尙團契成立セサル以上他ノ諸問題ノ解決困難ト言ハルル

モ支所寄港問題ハ團契ト直接ノ關係ナク又勞働者搬入問題ハ賃金カ十二月一日ニ週及シ實施セラルル以上勞働者募集ニ付支障ナク結局蘇側ハ一方ニ於テ團契ノ成立ヲ困難ナラシメ他方其ノ不成立ヲ名トシテ勞働者搬入及物質輸入ヲ許可セス依テ以テ會社ノ事業ヲ不可能ナラシムル底意ニ出ツルモノト認ムルノ外ナシ貴下ハ日本利權者カ團契成立ヲ遷延シ居ルヤニ言ハルルモ夫レハ實情ヲ知ラサルモノ甚タシキモノナリ

組合カ今次交渉ニ於テ從來ニナキ苛酷ナル要求ヲ爲セルニ拘ラス會社側ハ出來得ル限りノ讓歩ヲ爲セルモノニテ團契遷延ノ責任ハ組合ニ在リ尙又貴下ハ組合ノ要求ハ控目ナリト言ハルルモ之即チ貴下ハ團契成立ヲ容易ナラシムルヨリモ寧ロ困難ナラシメントスル底意ナルモノト言フヘキナリ兎ニ角昨日ノ會社提議ハ絕對的最後案ナルヲ以テ左様了解セラレ然ルヘキナリ

二、貴下ハ裁判問題ニ對スル本使ノ抗議ハ法律上ノ根據ヲ有セスト言ハレタルカ夫レコソ無根據ナル言ナリ國際法ハ一國政府ニ對シ相手國政府カ不法且不當ナル行爲ニ依リ自國民ノ權利ヲ毀損スル場合之ヲ擁護スルコトヲ認メ居

レリ會社側ハ豫メ必要ナル物質ノ輸入許可方申請セルニ拘ラス蘇側地方官憲ハ之ヲ許可セス即チ地方官憲ハ會社ノ「ノルマ」配給ヲ阻害セルモノナル處裁判所ハ會社ニ賠償ノ責任ヲ課セントシ而モ法廷ニ於テハ前回述ヘタル通り會社側ノ主張ニ耳ヲ藉ササリシモノナリ斯ル裁判ハ他國^(二)其ノ例ナカルヘシ

即チ本件裁判事件ハ其ノ内容及手續ニ於テモ普通ノ裁判事件ニアラスシテ蘇側ニ於テハ北樺太利權斷壓ノ政策ヲ實行セントシ本件裁判ヲ利用セントシ居ルモノト考フルノ外ナシ從テ日本政府ニ於テハ斯ル不都合ナル裁判ノ結果ヲ認ムル譯ニハ行カサルコトヲ明確ニシ居ル譯ナリ尙貴下ハ本使ノ「適當ト信スル措置ヲ取ルノ已ムナキニ至ルヘシ」云々ノ申入レハ良キ結果ヲ約セスト言ハレタルカ日本政府ハ條約ニ基ク權益カ相手國ノ不法且不當ナル行動ニ依リ侵害セラルル場合而モ百方條理ヲ盡シテ交渉スルモ相手國力之ニ耳ヲ藉ササル以上適當ト信スル措置ヲ取ルノ已ムナキニ至ルハ當然且至當ナリ蘇政府ハ隣國ノ平和且良好關係ヲ希望ストノ貴下ノ言明ハ同感ナリ本使ハ前回會談ノ際漁業及利權事業ニ對スル蘇側態度ハ昨

年ハ一昨年ニ比シ本年ハ昨年ニ比シ惡化シ居ル事實ヲ指摘シ蘇政府ニ於テ眞ニ日本トノ良好關係ヲ維持セントスルニ於テハ大體一昨年程度ノ取扱ニ落付ケルコトカ最モ適當ナルコトヲ述ヘタル次第ナリ蘇政府ニ於テ對日良好關係ノ維持ヲ念トスル以上前記利權諸問題ニ付テハ更ニ檢討ヲ加ヘラレ我方希望乃至要求ヲ應諾セラルルコト當然ノ義ナリト思考ス

單ニ平和良好關係ヲ欲スト言フノミニテ之ヲ立證スルコト肝要ナリ本日本使ノ述タル日本政府ノ訓令ニ付テハ外務人民委員及其ノ他關係方面ト篤ト打合ヲナサルコト必要ナルヘク又其ノ必要アル程ノ重大事項ナルカ故ニ充分審議ヲ遂ケラレ十八日近^(定カ)ニ尙十八日ハ蘇側休日ナルニ依リ貴方都合ニ依リテハ十七日迄ニ回答アリタシ

ト應酬シタル後往電第七九五號裁判問題ニ關スル「タス」發表ニ關シ同發表文中ニ

甚タシキ誤謬アリ蘇聯新聞ハ他國ノ新聞ト異リ政府支持ノ意嚮ヲ反映スルヤモ知レサルニ依リ其ノ誤謬ノ點ヲ明カニスヘシトテ

一蘇側ハ石炭企業者カ一九三七年秋ヨリ勝手ニ事業ノ縮少

ヲナシ蘇側労働者ヲシテ自發的ニ事業ヲ去ルノ已ム了キ^(チカ)
ニ到ラシムル様組織的ニ労働者ノ經濟狀態ヲ惡化セシメ
タリト稱スルモ事實ハ然ラス企業者ハ蘇側カ事業用度品
酒保物資ノ適時輸入ヲ許サス労働者ノ適時要求數提供ヲ
行ハス

且邦人幹部労働者等ヲ逮捕シ投獄スル等ノ不法壓迫ヲ加
ヘタル爲一九三七年秋ヨリ事業ヲ縮少スルノ已ムナキニ
至レルモノニシテ労働者ヲシテ自發的ニ退去セシムル様
組織的ニ經濟狀態ヲ惡化セリト爲スハ當ラス即チ一九三
七年九月一日現在ノ労働者一四〇一名中ニハ事業縮少ノ
爲解雇サレタル者一二四七名即チ九月中六九二名、十
月中二五二名、十一月十一日迄二三〇三名⁽¹¹⁾ニシテ解雇
ニ付テハ八月中ニ豫告サレタルモノニシテ是等ノ者ハ物
品ノ配給ヲ受クル權利ヲ有セサリシノミナラス是等解雇
労働者ニ對スル物資ニ付テ蘇側ハ輸入ヲ許可セサリシモ
ノナルニ付會社トシテ何等責任ヲ負フヘキ筋合ニアラス
加之企業ニ殘留セル縮少當時ノ労働者ハ蘇人三二名、日
本人三〇名計六二名ニシテ右以外ノ者ハ大部分居所不明
ニシテ是等ノ者ハ法律上モ實際上モ組合ハ損害賠償ニ付

之ヲ代表スル資格ヲ有セス

蘇側⁽¹²⁾ハ企業者カ労働者ノ賃金ヲ低下シ配給物資ノ「ノル
マ」ヲ大削減乃至全然給與セスト稱シ居ルモ企業者側ハ
一九三七年秋事業縮少後ノ人員ヲ蘇人一〇〇名邦人六〇
名ト算定シ此ノ分ニ對スル物資ヲ利契ニ基キ團契「ノル
マ」通り輸入許可ヲ申請セルニ拘ラス外國貿易人民委員
部ハ理由ナク之ヲ制限シ又鑛山署長ハ物資ノ配給値段ヲ
極度ニ値下セルニ付之カ會社申請値段許可方再審議交渉
中ナリシ爲一時一部物資ニ付配給ヲ保留シタルモ其ノ後
蘇側ハ再審方ヲ拒否セル爲企業者ハ蘇側ノ査定價格通り
ニテ配給不足物品ニ付配給ヲ行フ用意アル旨「ルドノム」
ニ通知セルモ「ルドコム」ハ之ニ同意セサリシモノナリ
⁽¹³⁾ト述ヘ右ニ依リ會社カ「ノルマ」配給出來サリシコトニ付
テハ現地蘇官憲カ責任ヲ負フヘキモノナルカ之ヲ別トスル
モ賠償額算出ノ基礎如何ニ杜撰ナルヤ明白ナル處斯卡ル杜
撰裁判ヲ其ノ儘ニ爲シ置クコトハ蘇聯裁判ノ名譽ノ爲ニモ
面白カラサルヘキニ付會社側ノ訴願ハ之ヲ良ク審査スルコ
ト適當ナリ日本政府ノ訓令ハ蘇政府ノ確答ヲ求メ居ルヲ以
テ本日ノ本使申入ヲ篤ト考慮セラレタシト云ヒタルニ對シ

「ロ」ハ

貴使ハ再三北京條約中「收益的經營ノ保障並ニ適當ナル保護及便益云々」ノ規定ヲ引用セラルルカ右規定中「適當」ナル語ハ「蘇聯法律ノ範圍内ニ於ケル適當」ナルノ意見ニ解スヘク又「モロトフ」カ條約義務ヲ履行スト言ヒタルハ事實ナルモ相手國カ蘇聯法規乃至契約上ノ義務ヲ遵守スルニ於テハ何等紛議發生セサルヘシ今回會社カ組合ノ諸建設要求ヲ容認スルニ至レルハ組合ノ要求正當ナルヲ示スモノナリ

又蘇側裁判振ニ關シ玆ニ論議スルヲ欲セス且之ヲ差控フヘキモ蘇政府ハ裁判ニ依リ會社事業ヲ壓迫スル意嚮ヲ有セス貴使ノ説明ニ依レハ會社側ノ爲スコト總テ正當ナルカ如シ何レニスルモ當地檢事局ハ會社側訴願電報ニ接シタルヲ以テ法規ニ基キ公正ニ本件裁判ヲ審査スヘシ尙貴使ハ平和良好關係ノ維持ニ付之カ實行ヲ求メラレタルカ之ハ相互ニ實行スヘキモノナリ自分ハ前記利權問題カ日蘇兩國關係ニ惡影響ヲ齎スヘシトハ思ハス又貴使ハ蘇聯ノ對日態度惡化セリト言ハレタルカ夫レハ日本當業者ノ行動ヲ考慮ニ入レサル言ナリ蘇政府ハ會社側ヲ満足セシムル爲蘇聯法規ヲ侵犯

スルモノニアラス

尙貴使ハ「タス」浦潮通信ヲ否認セラレタルカ右正當ナルヤ否ヤ外務部ノ關ハル所ニアラス更ニ貴使ハ日本政府ニ於テ適當ナル措置ヲ執ル云々ト言ハレタルカ夫レハ日本側關係事項ニシテ又十八日迄二回答云々ハ受諾出來ス蘇政府ハ前記諸問題ノ如キ些細ナル問題ニ依リ兩國關係惡(化)スルヲ欲セス日本政府ニ取りテモ斯ル諸問題ニ依リ國交惡化ハ益ナカルヘシ

ト答ヘタルニ依リ本使ハ只今貴下ノ説明中ニハ何等新シキコトナキモ論據ニ甚タシキ誤謬アル點ノミニ付説述センニ貴下ノ「適當」ナル語ノ解釋ハ甚タ不當ナリ本使ハ北京條約ノ締結ニ關係シ良ク之ヲ承知シ居ル處貴下ハ良ク同條約ヲ研究サルル要アリ若シ貴下ノ如ク右語ヲ解釋スヘキモノトセハ「蘇聯法律ノ範圍内ニ於テ」ト記載スルコト條約ノ擁護上必要ナリ尙當時ヨリ蘇側力不當ナル壓迫ヲ爲ササルヤノ懸念アリタルニ依リ右條項ハ日本側ヨリ提議シ蘇側ハ之ニ同意セルモノニシテ蘇聯國內法ノ範圍内ニ於テノ意義ヲ有セサルコトハ明白ナリ

次ニ貴下ハ裁判ニ付テハ論議スルヲ欲セスト言ハレタルモ

裁判カ不當ナル場合外交交渉ニ依リ之ヲ論議スルモ差支ナシ蘇側ノ一方ニ於テ或約束ヲ會社側ニ求メ他方ニ於テ會社カ約束ヲ履行ノ手段ヲ取ラントスレハ之ヲ許可セス而モ裁判所ハ之ニ對シ賠償ヲ要求ス之ヲ全體的ニ見レハ蘇政府ハ我利權企業ヲ壓迫セントスル政策ヲ遂行スル爲スル態度ニ出テ居ルモノト言フノ外ナシ貴下ハ會社側ノ訴願電報ニ接セリト言ハレタルカ兎ニ角之ヲ受理シ十九日ノ判決強行ヲ拒否スルコト適當ナリ尙前記利權問題ニ依リ兩國國交惡化セストノ貴下ノ言明ハ餘リニ樂觀的ナリ日本政府及國民ハ條約ニ根據ヲ有スル北樺太利權ニ重大關心ヲ有ス從テ利權問題ニ關シ紛議發生セル時ハ日本國民ハ當然蘇側ノ態度ヲ非難スヘク延イテ國交惡化スルコトハ當然ナリ

¹⁰⁷⁾斯ク本使ノ條理ヲ盡シタル正當ナル理論ニ蘇側カ耳ヲ傾ケス飽迄不當ナル態度ヲ持續スル場合ニハ日本政府トシテハ適當ナル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘキハ當然ニシテ茲ニ豫メ警告スル譯ナリ尙又平和關係維持ニ付テハ唯之ヲ口ニスルノミニテハ不充分ニシテ之カ實行ヲ求ムルハ當然且議論ノ餘地ナシ本日述ヘタル日本政府ノ訓令ハ蘇政府ノ回答ヲ求ムルモノナレハ本日會談ノ詳細ヲ貴下ハ政府ニ報告

セラレタク十八日迄蘇政府ノ回答方要求スルモノナリト説示セル處「ロ」ハ之以上論議ヲ重ナルモ無益ナレハ本日ノ會談ハ之ニテ打切りタシ貴使本日ノ申入ヲ政府ニ報告スヘキハ勿論ナリト答ヘ本使ヨリ期日迄ニ回答(ヲ)待ツ旨ヲ述ヘ會談四時間ニシテ辭去セリ

221

昭和14年7月16日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連側回答督促の申入れを書簡にて外務部宛
送付について

モスクワ 7月16日前発

本 省 7月16日夜着

第八一號

貴電第三八三號ニ關シ(北樺太利權問題)

往電第八一〇號冒頭「北樺太利權問題ニ付テハ」以下「茲ニ明確ニ申入ルル儀ナリ」迄ヲ日本文ノ儘簡單ナル「カバリーリング、ノート」ヲ附シ十六日午前中ニ送付スルコトトスヘシ

222

昭和14年7月16日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連側の強硬な態度に鑑み労働団体契約成立
を利権問題解決の基礎として促進方意見具申

モスクワ 7月16日前発

本省 7月16日夜着

第八一二號

⁽¹⁾十五日日本使「ロゾフスキー」會談ノ詳細ハ別電第八一〇號ノ通りナル處先方ハ詳細ノ回答案ヲ準備シ居リ充分ニ協議ヲ纏メ居タルモノノ如ク其ノ態度頗ル強硬ニシテ當初ハ我方要求ノ殆ト全部ニ亘リ之ヲ拒否スル旨述ヘ尙期限ヲ附シテ回答ヲ求メラルル如キハ承服ノ限リニアラサル旨ヲ述ヘタルモ本使ヨリ百方説示ノ結果漸ク「ロ」ハ政府ニ報告スヘキ旨言明セルニ至レル次第ナリ從テ當方ヨリハ更ニ右期限内ニ回答方督促スヘキモ十八日中ニ返答シ來ルヤ殆ト期待シ難シト認ムル處右會談中「ロ」ハ石炭關係裁判事件ニ付テハ先方ヨリ會社側ノ訴願電報當地檢事局ニ到着シ居レリト述ヘ又石油關係ニ於テモ團契成立ハ一切ノ問題解決ノ基礎ナリト述ヘタル次第アルニ依リ

⁽²⁾往電第八〇四號蘇側ノ遣口ヨリスレハ十八日迄回答ヲ回避

スルト共ニ訴願受理等ノ理由ヲ附シ十九日強制執行ヲ延期スルトカ又ハ團契ニ關シ組合ヲシテ會社代表トノ間ニ話合ヲ進ムルノ方法ニ出ツルヤモ知レス殊ニ團契ノ成立カ諸問題解決ノ中心タルコトハ往電第七八六號ヲ以テ稟申ノ通りナルカ右本日「ロ」ノ所言ヨリスルモノ一層明瞭トナリ來ル儀ニ付此ノ際急速ニ團契ノ成立ヲ計ルコト必要ニシテ高毛禮ヲシテ取急キ組合側ト交渉ヲ進メシムルコト適當ナリ尙高毛禮ハ貴電第三八〇號末段ノ電報ヲ接到シ居ラサル處右様ノ事情ナルニ付至急右電報方會社ニ御指示相成様致度シ

~~~~~

223

昭和14年7月17日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

利権問題に関する日本側書簡が威嚇的かつ最後  
通牒的であるとしてソ連側受領拒否について

モスクワ 7月17日後発

本省 7月18日後着

第八一五號

<sup>(1)</sup>十七日求ニヨリ午後四時本使「ロゾフスキー」ヲ往訪セル

ニ「ロ」ハ外務部ノ名ニ依リ御傳ヘ致度シトテ用意ノ書物ニ依リ十六日附貴使書翰ハ威赫ヲ含ミ且最後通牒的性質ヲ有スルニ付之ヲ受理スル能ハス同書翰ハ之ヲ審議セス日本大使館ヘ返送シ置ケリト述ヘタルニ依リ本使ハ凡ソ我方ヨリノ書翰ニ對シ貴方カ如何様ノ返事ヲサルルトモ夫レハ貴方ノ勝手ナルモ書翰自體ヲ受理スル能ハストノ理由ハ成立セス殊ニ右書翰ハ本使カ前會談ニ於テ説明セル日本側主張ヲ其ノ儘記述シアルニ過キス從テ貴方措置ハ全々理由ナシ兎ニ角日本政府ハ十八日迄ニ蘇側回答ヲ求ムルコトナルカ蘇政府ハ右回答ヲ如何ニセントスル考ナリヤ右ニ付明確ナル返答ヲ求ム尙茲ニ附言スヘキカ蘇政府カ日本政府ノ條理ヲ盡セル申入ニモ拘ラス之ヲ無視スルニ於テハ日本政府ハ北京條約ニ依リ自國權益擁護ノ爲其ノ適當ト信スル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘキハ當然ノ儀ナルニ依リ之ヲ威赫ト認ムルハ蘇側ノ心得違ナリ兎ニ角日本政府ノ申入ニ對シ蘇政府ノ回答ヲ承知シタシト述ヘタル處「ロ」ハ本件ニ付議論スルモ無益ナリ外務部ハ威赫的且最後通牒的性質ヲ有スル貴使書翰ハ審議出來ス之ヲ返還セリ之ニテ會談ヲ打切リタシト答ヘタリ

依テ本使ハ蘇側ノ所謂威嚇云々ノ心得違ニ付テハ既ニ述ヘタル通りナルカ蘇側回答ニ期限ヲ附シタルハ既ニ再三述ヘタル通り利權企業カ季節的性質ヲ有シ急速解決ヲ要スルニ拘ラス蘇側カ利契上ノ義務ヲ履行セサル結果ニ依ルモノナルカ蘇政府ハ自己ノ怠慢ヲ不問ニ附シ乍ラ日本政府ニ對スル回答ヲ忌避スル意嚮ナルヤ否ヤ茲ニ確答ヲ求ムト追究セルニ「ロ」ハ同シコトヲ繰返スモ双方ニ益ナカルヘシトテ前言ヲ繰返スノミナリシニ依リ本使ハ前記書翰中ニハ前會談ニ於テ本使ノ爲セル申入ヲ其ノ儘記述シアリ而モ貴下ハ右本使申入ヲ政府ニ報告方約サレタリ右報告ノ結果如何又蘇政府ハ日本政府ニ回答セサル意嚮ナルヤ明答ヲ求ムト言ヒタルニ「ロ」ハ貴使書翰ヲ返還セリ是レ即チ蘇側回答ナリト答ヘタルニ依リ本使ハ右ハ回答トナラス貴方態度ハ蘇政府ニ於テ日本政府カ條理ヲ盡シ委曲説明ノ上回答ヲ求メタルニ對シ回答ヲ與フルノ意思ナキモノト了解シ差支ナキヤ果シテ然リトセハ蘇政府ノ態度ハ不都合至極ニシテ蘇政府ハ北京條約ニ依リ其ノ負ヘル義務ニ違反シ好ンテ事態ヲ紛糾セシメントスル意嚮ヲ有スト斷定スルノ外ナシ

從テ今後紛糾スヘキ事態ノ責任ハ總テ蘇政府ニ於テ之ヲ負

フヘキモノナル旨斯ニ明カニシ置クモノナリト述ヘタルニ「ロ」ハ威嚇の申入ヲ爲ス日本側カ事態ヲ紛糾セシムルナリ外務部ハ威嚇の書翰ヲ受理スル能ハス之ヲ返却セルニ依リ右ニ依リ日本側ハ必要ノ結論ヲ下サルヘキナリ之以上同シコトヲ繰返スモ無益ナリ且自分ハ之ヨリ閣議ニ赴ク要アルニ付本日ノ會談ハ之ニテ打切りタシト答ヘタルニ依リ本使ハ貴下カ同一言ヲ繰返スニ過キサル以上議論ヲ重ヌル要ナキモ貴下カ前會談ノ際本件本使申入レヲ受理シ乍ラ右申入ト同一内容ヲ有スル書翰ヲ受理出來スト言ハルルハ不可思議ナリ兎ニ角蘇政府ノ不可思議ナル態度ニ付テハ東京ニ報告スヘシト述ヘ辭去セントシタルニ「ロ」ハ貴使カ威嚇的且最後通牒の性質ノ書面ヲ送付越サレサリシニ於テハ實質的の回答ヲ得ラレタルナラント述ヘタルニ依リ本使ハ前記書面ハ本使ノ申入濟ノ所ヲ其ノ儘繰返シタルモノニ過キサルコトハ貴方記錄ニ依テモ明カナルヘキニ拘ラス書翰ニ藉口シ回答ヲ回避スルハ蘇側カ好シテ事態ヲ紛糾セシメントスル意圖ヲ有スト解スルノ他ナシト反覆シ置ケリ

224

昭和14年7月17日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

## 利権問題に関する日本側書簡の再送について

モスクワ 7月17日後発

本 省 7月18日前着

第八一六號

往電第八一一號ニ關シ

十七日午後四時十分蘇側ハ當方書面同封文書ヲ以テ貴文書ハ威嚇ヲ含ミ最後通牒ノ性質ヲ帶フルヲ以テ外事部ハ右文書ヲ受クルコトヲ可能ナリト思考セス審査スルコトナクシテ返還スル旨申越セリ

依テ我方トシテハ右ハ本使口答ヲ以テ申入レタル所ヲ本國政府ノ訓令ニ依リ繰返セルモノナレハ返還ノ理由ナキ旨ヲ記シタル簡單ナル「カバールینگノート」ヲ附シ直ニ郵便ヲ以テ外務部宛再送附スヘキモ先方ハ重ネテ返還シ來ルヘシト思考セラルルニ付テハ斯ル場合ノ措置方ハ例モアルヘキニ依リ至急御回示相成度シ

225

昭和14年7月17日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### ソ連側の強硬姿勢等を考慮し利権問題について

#### では慎重対策すべき旨意見具申

モスクワ 7月17日後発

本省 7月18日後着

#### 第八一七號(極祕)

往電第八一五號及第八一六號ニ關シ

貴電第三八三號ノ措置ヲ執ルコトハ惡トキ感ヲ與ヘサルヤ  
ノ懸念ヲ有シタルモ本使申入ノ調子ハ御訓令ノ趣旨ヨリ些  
カ緩和シ居ル次第ニモアリ兎モ角往電第八一一號ノ通り御  
訓令ニ從ヒ文書ヲ送付シ置キタル次第ナルカ一方先方カ本  
件回答ヲ與フルヲ欲シ居ラサルコトハ往電第八〇八號所載  
ノ通りナルニ依リ先方ハ右文書ノ送付ヲ利用シ威嚇的且ツ  
最後通牒的性質ヲ帶フトノ理由ノ下ニ回答ヲ拒否シ來レル  
モノト認メラル

斯ル事態ノ下ニ於テ政府ニ於カレテ眞ニ斷乎タル覺悟ナキ  
限り單ナル威嚇ヲ以テ先方ヲシテ我方要求ヲ應諾セシメ得  
ト考フルコトノ危險ナルハ往電第七八六號及第七九一號ノ

(編注)

三、ニ依リ御了承ノ儀ト存スル處北滿方面ノ情勢益々紛糾ノ  
模様ニモ有之旁今後ノ對策ニ付テハ最モ慎重ナル御考慮ヲ

仰度キ次第ナリ

而シテ團契ニ關シテハ高毛禮發電報ニ依リ御承知ノ通り組  
合側ハ幾分讓歩シ居ル次第ニ付極力高毛禮ヲシテ折衝ヲ繼  
續セシムルコト適當ナルヘク亞港石炭財産差押問題ニ關シ  
テハ十九日ノ經過ヲ見送ルコト可然シト思考ス

編注 本書第146文書。

226

昭和14年7月20日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 利権問題に関する日本側書簡再々送の見合わ

#### せについて

モスクワ 7月20日後発

本省 7月21日前着

#### 第八三三號(極祕)

貴電第三九三號ニ關シ(外務部ニ依ル大使館文書返送問題  
ニ關スル件)

往電第八一六號ヲ以テ申進ノ通り更ニ外務部ニ返送セルニ對シ先方ハ十八日何等書翰ヲ附スルコトナク返送シ來レリ然ル處右御來示ノ趣旨ヲ文書ヲ以テ通告スルモ先方之ヲ受付ケサルヘキコトハ推測ニ難カラス尙口頭申入ヲ爲シタルコトハ事實ニシテ先方モ之ヲ爭ハサルニ蘇側ニ依ル本件文書拒否ノ結果ハ右口頭申入ハ完全ニ遂行セラレタリトスル我方立場ヲ弱ムル嫌モアリ旁此ノ際前顯貴電ニ依ル文書發送ハ見合ハセ此ノ儘別段ノ處置ヲ執ラサルコト然ルヘシト思考セルニ付右ニ御了承請フ

~~~~~

227

昭和14年7月25日 在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

四月二十七日付日本側覺書中の經濟的および技術的問題に対するソ連側回答の手交について

モスクワ 7月25日前發
本省 7月25日夜着

第八四七號
⁽¹⁾二十四日求ニ依リ「ロゾフスキー」ヲ往訪セルニ「ロ」ハ外務人民委員ニ於テ四月二十七日西代理大使カ「リトヴィ

ノフ」ニ手交セラレタル覺書中ノ經濟的及技術的問題ヲ慎重審査セルニ依リ茲ニ蘇側回答ヲ御傳ヘスヘシ先ツ蘇側回答ノ主義的綱領ニ付申上クレハ北樺太利權ニ於ケル紛議ハ利權者ノ不法且不當行爲ノ結果發生スルモノニシテ利權者ハ蘇聯領ニ於テ事業ヲ營ム者ナルコトヲ忘レ且蘇側ト異ル自己ノ秩序ヲ設定セントス日本政府及利權者カ北樺太ノ滿洲國ニアラス蘇聯領ノ一部ナルコトヲ承知スルニ於テハ一切ノ紛議發生セサルヘク又日本側ニ於テ蘇側力恰モ北樺太利權ヲ奪取セントシ居ルカ如キ風説ヲ放チ居ルハ蘇側ニ對スル惡口モ甚タシ利權者ハ利契及蘇聯法規ヲ遵守スヘキナリト言フニ在リト述ヘ用意セル極メテ長文ノ回答文(別電第八四八號)^(省略)ヲ手交セルニ依リ本使ハ之ヲ前文ノ所迄翻譯セシメタル時「ロ」ハ蘇側回答文ハ技術的ニ亘ル長文ノモノニテ此ノ席ニテ翻譯セシメラルルハ長時間ヲ要スルモノナレハ御持歸ノ上御閱讀相成リ後日論議スルコトト致シテハ如何ト述ヘタリ

⁽²⁾仍テ本使ハ貴下ニ於テ時間ノ都合惡シトノコトナレハ右回答文ハ一應持歸ノ上讀ムコトトシテ可ナルヘキモ只今貴下カ述ヘラレタル内ニハ本使ノ承服出來サル點アリ貴下ハ北

樺太利權ノ紛議カ日本利權者ノ不法且不當行爲ノ結果發生スト述ヘラレタルモ本使カ本日迄貴下ニ申入レタル各種利權問題ハ何レモ蘇聯諸機關ノ不當又ハ不法ナル行動ノ結果發生シタルモノニテ之ニ付テハ本月十五日委細説明ヲ加ヘ置ケリ利權者カ利契ヲ遵守スヘキハ當然ナルカ蘇政府ニ於テハ利契ノ基礎タル北京條約ノ規定ハ義務トシテ之カ遵守ヲ要スルニ拘ラス此ノ點ニ付何等考慮ヲ拂ヒ居ラサルコトハ茲ニ明確ニ指摘シ置ク要アリ即チ蘇政府ニ於テ條約ニ違反スルカ如キ法律ノ發布又ハ行動ヲ差控フヘキハ勿論ノ儀ナルノミナラス之ニ反スル結果トナル行動ヲ蘇聯諸機關ヲシテ差控ヘシムヘキ義務アリ日本政府ハ自國民ノ不法行爲ヲ援助スル意思毫モナシ日本政府ハ蘇聯トノ關係ニ於テ條約上竝ニ長期ニ亘リ「エスタブリッシュ」サレタル所ニ從ヒ正當ナル權利ノ實施ヲ求ムルハ當然ニシテ又其ノ結果相手國ヨリ不法ノ壓迫ヲ受クル場合右權利ヲ擁護スル爲必要ナル方法ヲ執ルハ是亦當然ナリ

⁽³⁾ 日本政府ハ常ニ蘇政府ト「コレクト」ナル關係ノ持續ヲ念トスルモノニシテ日本政府カ自國民ノ不法行爲ヲ援助セントスル云々ノ蘇側抗議ハ之ヲ受理スル能ハス尙十五日日本使

ノ口頭申入及十六日附書翰ノ趣旨ハ今猶之ヲ堅持スルモノナル旨申上クルノ外ナシト駁セルニ「ロ」ハ貴使ハ日本政府カ自國民ノ不法行爲ヲ援助スルコトナシ又蘇政府ハ條約ニ違反スト言ハレタルカ其ノ然ラサル實例ヲ舉クヘシトテ、一九三六年蘇聯貿易人民委員部ハ松井造船所ニ對シ船舶三隻(價格約二百五十萬圓)ヲ注文シ之カ手附金トシテ百六十四萬圓ヲ支拂ヒ置キタルニ一九三八年ニ至リ日本陸軍省ハ右造船所ニ對シ蘇側ヘノ船舶引渡ヲ禁シ而モ同造船所ハ右手附金ヲ返却セス仍テ在京蘇通商代表部ハ右ニ付日本商工省ノ注意ヲ喚起スルト共ニ同手附金ノ返還ニ關スル訴訟ヲ提起セルモ日本裁判所ハ本件裁判ヲ客年十二月ヨリ本年四月次テ七月、更ニ十二月ト言フカ如ク再三延期シ今猶之ヲ返還スルニ到ラス

⁽⁴⁾ 右實例ニ依リ日本側コソ條約義務ヲ履行セス且自國民ノ不法行爲ヲ援助スルモノナルコト明白ナリ蘇政府ハ日本ヲ含ム隣接國トノ良好關係ヲ希望スルモ之カ爲ニハ日本國民ハ

蘇側法規ヲ遵守シ且北樺太ノ支配者カ蘇聯ナルコトヲ記憶スルヲ要ス尙貴使書翰ニ對シテ蘇側ハ既ニ回答ヲ爲セル次第モアリ茲ニ論議スルモ無益ナリ何レニスルモ貴使カ本日ノ蘇側回答ヲ御研究セラレタル後更メテ會談スルコトト致度シト答ヘタリ

右ニ對シ本使ハ十六日附書翰ニハ十五日ノ本使口頭申入カ其ノ儘記載セラレアリ日本政府カ右通告ヲ持續スルハ當然ナリ北樺太カ蘇聯ノ領土ナルハ勿論ナルモ唯蘇政府カ其ノ主權ヲ制限シテ條約ヲ締結セル以上其ノ制限セラレタル範圍内ニ於テハ假令自國領土内タリトモ勝手ニ振舞フコト出來ス日本政府ハ飽迄蘇政府ニ對シ北京條約ノ規定スル義務ノ履行ヲ求ムルモノナリ尙貴下ハ二箇ノ事例ヲ引用セラレタルカ(一)ニ付テハ本使ハ全ク承知セス東京ニ照會シ差支ナキカ萬一右ノ如キ事實アリトスルモ之ヲ以テ條約上ノ義務違反ト解スルハ當ラス

又此ノ種ノ事例ヲ以テ日本政府カ自國民ノ不法行爲ヲ援助スルモノナリト推斷スルハ非理論的ナリ(二)ニ付テハ蘇滿兩政府間ニ債務金額ニ付意見一致シ居ラス從テ先ツ之ヲ一致セシムル要アリ之カ問題ノ根本ニシテ日本政府ノ保障ハ右

意見一致後ニ生スル問題ナリ次ニ貴下ハ蘇政府ハ日本トノ良好關係ヲ欲スト再三申サレタルカ果シテ然リトセハ蘇政府ハ根本的ニ其ノ考ヲ改ムヘキナリ即チ蘇政府ニ於テ自己ノ負ヘル條約上ノ義務ハ忠實ニ之ヲ履行スルノ誠心ヲ有スルコト先ツ必要ニシテ次ニ目下日本政府カ條約ニ違反セリト思惟スルニ於テハ充分ノ理由ヲ以テ之ヲ明確ニシ以テ正シキ點ニ落着ケサルヘカラサルニ拘ラス北樺太等ニ於テ支配者ナリト稱シ勝手ニ振舞ハントスルカ如キハ良好關係ヲ維持セントスルノ途ニアラス日蘇兩國關係ハ諸種ノ懸案山積シ良好ナル國交狀態ニ在ラサルハ本使ノ遺憾トスル所ニシテ成ルヘク速ニ諸懸案ヲ解決シ兩國關係ヲ「コレクト」ノ狀態ニ置クコトハ本使ノ希望スル所ナリ

蘇政府ニシテ兩國ノ良好關係ヲ考慮サルルニ於テハ速ニ懸案ノ解決ヲ計ルヘキナリ此ノ點蘇政府ニ報告セラレタシト述ヘタルニ「ロ」ハ貴使ノ述ヘラレタル所ハ既ニ御話シタルコトニモアリ又貴使カ本日蘇側回答ヲ御研究セラレサル以前ニ之以上論議ヲ重ヌルモ無意味ト思考スルカ唯日蘇關係ニ付一言セハ良好關係ノ維持如何ハ一二日本側ニ懸リ居リ自分カ引用セル前記二個ノ實例ノ外同様に實例猶數十ア

リ日本側カ之等問題ノ解決ヲ計ラルルニ於テハ兩國關係ノ改善ニ資スヘシ尙貴使ハ北樺太ノ支配者カ蘇聯ナリトノ余ノ言明ニ驚カレタルヤモ知レサルカ是コソ余ノ意外トスル所ナリト答ヘタルニ依リ本使ハ蘇政府力其ノ主權ニ基キ北樺太ヲ統治スルハ當然ナルヘキモ主權ヲ制限シテ條約ヲ締結セル以上其ノ制限セラレタル範圍内ニ於テハ假令自國內タリトモ勝手ニ振舞フコト出來サルコト即チ要點ナリ尙又兩國ノ良好關係ヲ持續スル爲ニハ先ツ蘇側ニ於テ懸案ノ解決ヲ計ラントスル意圖ヲ有スルコト必要ニテ此ノ點ハ充分蘇側ニ於テ考慮アリテ然ルヘシト述ヘ會談二時間ニシテ辭去セリ



228 昭和14年7月28日 在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

利権問題に関する今後の交渉において団体契約成立せずして事態緩和は不可能との見通しについて

モスクワ 7月28日前発
本省 7月28日前着

第八六八號(大至急、極秘)
貴電第四〇七號ニ關シ

本月十五日及十六日ノ申入ニ對シテハ本月二十四日會見ノ際日本政府ノ主張竝ニ要求ハ右申入ニ依リ之ヲ確示スルモノナリ(回答期限ノ點ニ付テハ既ニ經過後ナレハ問題トセサルコトハ明カナリ)ト認メタル次第ナルカ先方ハ右ニ關シテハ既ニ回答ヲ爲セル次第第二モアリ茲ニ論議スルモ無益ナリト述ヘタルコトハ往電第八四七號ニ依リ御承知ノ通りナリ從テ先方ハ申入三、四ニ對シテ當方ヨリ口頭又ハ書面ヲ以テ回答ヲ要求スルモ先方ハ正面ヨリハ回答ヲ拒否又ハ回避スヘキハ明瞭ナリ尙團契ニ付テハ前顯貴電第四〇七號ト行違ニ往電第八六一號ヲ以テ詳細ノ事情稟申シタル通リ到底貴電ノ如キ取扱ヲ許ササル狀態ニ在ルノミナラス先ツ⁽²⁾團契ヲ成立セシメテ爾餘ノ問題ノ解決ヲ計ルコト寧口合理的ニシテ且現在ノ事態ニ副フモノナル次第ナルニ依リ貴方ニ於テモ種々ノ事情アルコトト思考スルモ全般ノ事態ヨリ考察セラレ前記往電第八六一號ノ趣旨ニ依リ本件終結方御取計相成ル外途ナシト存ス右ハ在當地關係方面ノ一致セル意見ナリ

裁判問題ニ付テハ御來示ノ如キ趣旨ハ度々先方ニ申入レタルモ結局最後通牒の通告トナレル次第ハ御承知ノ通りニシテ團契成立等ニ依リ事態緩和シタル場合ハ更ニ話合ヲ爲スコト不可能ニアラサルヘキモ今日ノ如キ事態ニ於テハ到底先方ハ御來示ノ如キ趣旨ノ話合ニ應セサルヘキハ推察ニ難カラス



229

昭和14年8月22日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

利権問題に関するソ連側回答に對し外務人民 委員代理による補足的申入れについて

モスクワ 8月22日前發

本省 8月22日夜着

第九六九號

(1) 二十一日午後三時約束通り「ロゾフスキー」ヲ往訪セル處先ツ「ロ」ハ前回會談ノ際ハ時間ノ都合ニ依リ詳細御答ヘ出來サリシニ依リ補足的ニ申スヘシト前言シ準備セル書物ニ依リ

(一) 外務部ハ七月二十四日附回答中ニ於テ石油會社ニ依ル(イ)

防火規則(ロ)炭鑛法(ハ)技術安全規則(ニ)賃借料支拂規定(石炭會社モ同様)(ホ)住宅提供規則ノ違反竝ニ石油會社ハ一昨年及昨年ニ於テ蘇聯労働者ヲ解雇シ蘇聯人及蘇政府ニ多大ノ損害ヲ與ヘタルコト、松尾造船所ノ不法行為及北鐵代金ノ不支拂等日本側ノ不法行為ヲ指摘セルモ右ニ付貴使ハ何等回答セラレスシテ日本利権者ハ權利ヲ有スルモ義務ヲ有セストノ建前ノ下ニ種々論議セラレタル以上自分トシテハ貴使ニ對シ利權廢棄ヲ規定スル利契第四十條アルコトヲ指摘スルノ要アリト認ム貴使ハ前回會談ノ際モ前記日本側不法行為ノ問題ヲ默過セラレタルカ是等問題ノ解決ナキ限り日本利權ノ正常ナル活動ハ困難ニテ利權者ノ利契及法規遵守カ利權ノ正常ナル活動ノ條件ナリ(二)貴使ハ北京條約附屬議定書(乙)中日本側利權ノミヲ定ムル第七及八項ヲ引用セラレタルモ同第九項ヲ不問ニ附シ居ラル同項ニハ「細目ハ利契ニ於テ協定セラルヘシ」トアルニ依リ利權者ノ一切ノ權利ハ利契ニ依リ規定セラレ居ルモノニテ北京條約ニ記載セラレ居ル利權者ノ權利ハ法的基礎ヲ有セス單ニ利契ニ依リテノミ律セラルヘキモノナリ從テ同條約ヲ引用スル要ナカルヘシ

(三)⁽²⁾ 貴使ハ燃料部ノ當業者代表宛回答中ニ引用セラレタルカ
同代表ハ既ニ文書ヲ以テ燃料部ニ更ニ申入レ居ル次第モ
アリ自分ハ茲ニ貴使ト本件ニ付論議スル要ナルヘク殊
ニ本件ハ技術的二巨ルモノナレハ當事者間ニ於テ交渉セ
シムルヘキナリ何レ其ノ内燃料部ヨリ當業者代表ニ回答
アルヘシ

之ヲ要スルニ蘇側カ日本利權者ニ要求スルモノハ其ノ利
契及法規遵守ニアリト言フヘシ日本側ハ蘇側カ右要求ヲ
撤回スル様再三申出ラルルモ蘇側ハ之ヲ撤回スルコト能
ハス日本側カ右蘇側要求ヲ容ルルニ於テハ利權及他ノ問
題ニ付テ何等紛議發生セサルヘシト述ヘタルニ依リ

本使ハ前回二時間ニ亘リ我方見解ヲ詳述セルニ依リ貴下ハ
充分研究ノ上合理的ナル回答ヲ爲サルモノト期待シ居タ
ルニ何等首肯シ得ヘキモノナキノミナラス今日新ナル陳述
ニ依リ貴下カ一昨日以上ノ誤謬ヲ犯シ居ラルルハ本使ノ甚
シク不滿トスル所ナリトテ

(一) 貴下ハ七月二十七日附蘇側回答ニ對シ日本側ヨリ何等申
入無シト言ハレタルカ本件ニ付テハ本使カ一昨日明確ニ
シ置ケル如ク右蘇側回答ハ當時直ニ東京ニ報告シ置ケル

ニ依リ東京ニ於テハ目下研究中ナルヲ以テ近ク回報アル
コトト思考スルモ更ニ本日此ノ點ニ付貴下ヨリ申入アリ
シコトハ東京ヘ電報スルコトトスヘク從テ本日ハ此ノ問
題ニ付御話スルヲ差控フヘシ

(3) 日本政府ニ於テ利權者カ權利ヲ有スルモ義務ヲ有セスト
言フカ如キ口吻ヲ洩シタリト述ヘラレタルカ是レ貴方ノ
誤解ナリ本使ハ利權者カ義務ヲ有セスト述ヘタルコトナ
ク日本政府モ利權者ニ於テ其ノ負ヘル義務ハ履行スル必
要アルヲ認メ居ルコトハ茲ニ明言シ得ヘシ唯日本政府ハ
蘇政府カ利權者ニ對シ義務履行ヲ要求シ乍ラ利權者ノ權
利行使ヲ妨害シ居ルハ甚タ公正ヲ缺ク遣方ナルコトヲ指
摘シ居ルノミナリ蘇側カ右ノ如ク利權者ニ對シ其ノ有ス
ル權利ヲ剝奪セストスルカ如キ態度ヲ執リ乍ラ利契ノ廢
棄ヲ規定スル條文ヲ引用セラルルハ甚タ亂暴ナル態度ナ
リ斯ノ如キ蘇側態度ニ對シ當業者カ納得出來サルハ勿論
右利權發生ノ經緯ニ鑑ミ日本政府及國民モ甚タシキ不滿
ヲ發生セシムルモノナルコトヲ茲ニ明言シ蘇側ノ反省ヲ
促スモノナリ

(二) 貴下カ北京條約議定書乙ニ付述ヘラレタルコトハ之亦何

等根據ナシ同條約ハ日蘇兩國政府間ニ締結セラレタルモノニテ北樺太ニ於ケル利權ノ根本ヲ定メ居ルモノナリ同附屬議定書乙第四項ノ所謂細目ハ右議定書乙所載諸項規定ノ趣旨ニ依リ取極メラルト爲スヘキモノニシテ利權契約成立後ハ前記第一乃至第八項規定力消滅セリト言フカ如キ理論ハ成立セス

尙若シ利契ノ運用ニシテ假令同附屬議定書乙第七項及第八項ニ抵觸スルカ如キ結果ヲ見ル場合ハ日本政府ハ利契自體ノ修正ヲ要求スル權利ヲ有シ居レルナリ利契ノ締結ニ依リ前記附屬議定書乙カ法律上ノ根據ヲ有セスト言フカ如キ愚劣ナル議論ヲ爲サルルカ如キハ由々シキ結果ヲ生スル次第ナルニ依リ斯ル見解ハ速ニ是正シ「モロトフ」及貴下モ言明セラレタルカ如ク條約義務尊重ノ態度ニテ進ムコトカ蘇政府ノ爲ナルコトヲ茲ニ言明シ置クヘシ

(三)具體の問題ニ對スル貴下説明ハ其ノ意ヲ得ス燃料部回答ハ本年度會社事業計畫中ノ或種問題ヲ許可セサリシニ依リ問題トナレルモノナリ其ノ内「エハビ」鑛區分割問題竝ニ「エハビ」及「カタングリ」鑛區ノ掘鑿問題ハ前記蘇側回答中ニモ記載サレ居ル次第第二モアリ彼我交渉問題

ト爲スハ何等差支無シ右兩問題竝ニ勞働者及物資輸送問題ニ付當業者代表ヨリ燃料部ニ更ニ申出テタルハ事實ナルモ同代表カ事情ヲ説明スル爲燃料部係官ニ屢面會ヲ求メタルモ今日迄面會出來サル實情ナルニ依リ特ニ本使ヨリ貴下ニ右事情ヲ詳述シテ燃料部ニ對シ我方主張貫徹力斡旋ヲ求メ居ル次第ナリ

(5)日本政府力當業者ノ利益ヲ擁護スルハ殊ニ北樺太利權カ北京條約ニ胚胎スルノ事實ニ顧ミ當然ノ儀ナリ蘇政府ハ北京條約ニ依リ日本政府ニ義務ヲ負ヒ居ル次第ナルヲ以テ虛心坦懷ニ其ノ義務ヲ認メ會社事業力圓滿ニ遂行スル様取計フヘキナリ尙本使カ「エハビ」鑛區分割問題竝ニ「エハビ」「カタングリ」掘鑿問題ニ付述ヘタル點ハ七月二十四日附蘇側回答中ニ記載シアル蘇側論據カ何等理由ナキコトヲ指摘シタルモノナルニ依リ右篤ト考慮セラレタシ次ニ送油管及軌道ノ敷設ノ權利ヲ利契ニ依リ會社カ有シ居ルコトハ明カナルヲ以テ之カ許可方要望ス尙右諸問題ヨリ急速解決ヲ要スル勞働者及物資輸送問題ニ付更ニ説明ヲ加フル要アリ即チ石油會社ニ於テハ久シキ以前ヨリ本年度事業計畫遂行ノ爲必要ナル蘇聯及日本勞働者

竝ニ管理部員ニ付合計三千六名ノ許可方申込ミ居リ是等人員ハ會社事業遂行上必要ナル最小限ノモノナルニ蘇側ハ右ニ對シ僅ニ日本勞働者三百名及同社員三十名ノ入國ヲ許可セリ

⁽⁶⁾而モ一昨日貴下ハ右ノ人員ヲ以テ著シキ多數ト稱ヘ尙之ヲ以テ蘇側力條約義務ニ違反スルノ意思ナキコトヲ實證スルモノナル旨言明セラレタルカ會社申入ノ十分ノ一位ニ相當スル僅カ三百名ノ輸送許可ヲ以テ蘇政府カ本件ニ付誠意ヲ有スルモノナルコトヲ如何ニシテ立證シ得ルヤ現地ノ狀況ニ付見ルニ荷役ニ付五百六十名團契其ノ他ニ依リ義務及現地官憲要求遂行ノ爲四百名ヲ必要トスル次第ナルヲ以テ以上ニ述ヘタル勞働者ノ輸送ヲ許可スルハ蘇聯カ利權者ニ對シ要求スル義務履行ノ點ヨリハ勿論北京條約ノ規定ニ徴スルモ當然ナリ殊ニ團契成立遲レタルカ故ニ例外的ニ日本勞働者ノ輸送ヲ許可ストノ蘇側議論ノ根據ナキコトハ前回申述ヘタル通りニテ茲ニ繰返ス必要ヲ認メス依テ一昨日申入レタル通り會社カ最小限度ニ事業ヲ繼續シ又團契其ノ他ノ義務履行ノ爲必要ナル(イ)日本勞働者五百六十一名同管理部員六十五名ノ輸送ヲ至急

許可シ(ロ)蘇聯勞働者ハ蘇側募集シ得ル限度ニ於テ引受可能ナルヲ以テ九月一日迄ニ之ヲ提供セラレタシ

(ハ)事業用品ハ殘餘七十「パーセント」ヲ直ニ許可セラレタシ尙石炭會社ニ付テハ蘇聯勞働者ニテ可ナルヲ以テ前回申述ヘタル通り提供セラレタク若シ蘇聯勞働者提供出來サレハ同數ノ日本勞働者ノ輸送ヲ許可セラレタシ以上ハ曩ニ述ヘタル通り會社ノ最小限度ノ要求ナルヲ以テ若シ蘇側力之ヲ許可セサルニ於テハ蘇側ニ於テハ何等カノ意圖ヲ以テ會社ノ義務履行ヲ不可能ナラシメントスルモノト斷スルノ外ナシ會社ハ其ノ產品ニ對シ「ローヤリテ」ヲモ支拂ヒ居ル儀ナルニ依リ蘇側ニ於テハ經濟的見地ヨリ會社事業力圓滿ニ進行スル様取計フコトカ蘇側利益ニモ合致スル所以ナルニ依リ急速解決ヲ要スル前記勞働者及物資輸送問題ニ付燃料部ト直ニ協議シ會社要求全部ニ應諾サレンコトヲ要求スルモノナリト述ヘタル處「ロ」ハ只今貴使ノ述ヘラレタル中ニハ既ニ論議濟ノモノアルニ依リ新シキ問題ニ付テノミ御答ヘスヘシトテ(一)貴使ハ日本政府ハ七月二十四日附蘇側回答ニ對シ研究中ナリト言ハレ本日貴使ハ右回答中ノ問題ニ付部分的ニ觸レラレタ

ルモ蘇側ハ日本側ヨリ右回答全部ニ付申出アル迄ハ之ヲ論議スルヲ得ス(二)北京條約附屬議定書乙第九條ニハ細目ハ利契ニ依リ協定セラルヘキコトナリ居リ利契ノ締結ヲ見タル以上利契ニ依リ律セラルヘキハ當然ナリ

(三)貴使ハ「モロトフ」ノ條約義務ヲ尊重スヘキ旨ノ言明ニ觸レラレタルカ蘇側ハ今日迄右義務ヲ履行シ今後モ履行スヘキニ依リ日本側モ自己ノ義務ヲ履行サレンコトヲ希望ス左スレハ日蘇間ニ何等紛議發生セサルヘシ貴使ハ北京條約ヲ廣義ニ解セラレタルカ自分ハ同意出來ス貴使ハ屢利契ヲ引用セラルルモ利契中ノ或種規定ヲ考慮シ居ラレサルカ如シ即チ利契第四十二條ニ依レハ利權問題ニ關シ紛議發生ノ場合ハ最高裁判所ニ依リ解決セラルヘキコトナリ居ルニ依リ當業者カ燃料部回答ニ同意出來サルニ於テハ最高裁判所ニ提訴スヘキヲ以テナリ若シ貴使カ右規定ヲ容認サレサルニ於テハ日本側ハ權利ノミヲ主張スルモノナルコトヲ立證スルモノト言フヘシ貴使ハ利權者カ權利ノミヲ有シ義務ヲ有セストハ言ハレサルモ然ルカ如ク常ニ利權者ヲ擁護セラレタリ日蘇兩國間正常關係維持ハ自分ノ希望スル所ナルカ其ノ爲ニハ双方カ其ノ義務ヲ嚴守スルノ必要ナルコトハ

「モロトフ」及自分カ述ヘタル通りナリ又貴使ハ再三蘇側ノ利權壓迫云々ヲ持出サレタルカ蘇側ハ利權者ニ對シ契約及法規ノ嚴守ヲ求ムルノミニテ之ヲ壓迫ト解スルハ當ラズ(三)具體的諸問題ニ付テハ御互ニ前言ヲ繰返スモ益ナケレハ利權者ヲシテ燃料部ニ申出テシメラレタク若シ利權者カ燃料部回答ニ不滿ナルニ於テハ利契ノ規定ニ從ヒ最高裁判所ニ提訴セシメラレタク本件ニ付之以上論議ヲ重ヌルモ無益ナレハ之ニテ會談ハ打切りタシト答ヘタリ

(9)依テ本使ハ(一)蘇側回答ニ付テハ東京ヨリノ回訓アリ次第論議スヘキカ今回本使カ右回答ノ問題ニ部分的ニ觸レタルハ燃料部ニ於テ右問題ヲ持出シタルト是等問題カ急速解決ヲ要スル爲ニ外ナラス(二)北京條約附屬議定書乙ハ其ノ趣旨ニ依リ締結セラレタル利契ノ存在ヲ排除スルモノニアラサルモ同議定書ハ利契ノ上ニ依然トシテ現存スルモノナルコトハ明白ナル事實ナリ貴下カ日本側ハ蘇聯ト同様其ノ義務ヲ履行スヘキナリト言ハレタルカ日本側ハ其ノ義務ヲ履行スルニ吝ナラサルト共ニ蘇側ニ對シ同様義務履行ヲ求メ居ル次第ナリ尙貴下ハ本使カ北京條約ヲ廣義ニ解スト言ハレタルモ其ノ意味明カナラサルニ依リ右ニ關シ茲ニ言及スル必

要ナシ(三)貴下ノ利契第四十二條引用ニ對シテハ右條項ハ日本政府カ自國利權者ヲ擁護スヘキ當然ノ權利ヲ排除スヘキモノニアラスト言ヘハ足ルヘシ尙貴下ノ所謂兩國關係ヲ正常ナル狀態ニ置クコトハ本使カ以前ヨリ屢述ヘタル如ク本使ノ深く希望スル所ニシテ之カ爲ニハ漁業問題、利權問題、國境問題及其ノ他一切ノ懸案ヲ解決スルコトノ必要ナルコトモ亦述ヘタル通りナリ

蘇政府カ眞實右本使希望ヲ分ツニ於テハ右各種懸案ヲ双方ノ善意ヲ以テ解決スルコト必要ナルヲ以テ單ニ抽象論ヲ爲スコトナク具體的ニ話ヲ進ムヘキナリ殊ニ前記勞働者及物資輸送ノ問題ハ至急解決ヲ要シ之カ解決セサル限り會社ハ最小限度ニ其ノ事業ヲ繼續スルコト不可能ナルノミナラス蘇側カ會社ニ對シ頻リニ要求スル義務ノ履行ヲモ不可能ナラシムルコトハ既ニ繰返シ述ヘタル通りナリ蘇側ニ於テ一方會社ニ對シ義務ノ履行ヲ求メ乍ラ他方義務ノ履行ヲ不可能ナラシムルカ如キ措置ヲ執ルハ斷シテ納得出來サル儀ナルニ依リ一昨日及本日本使カ繰返シ述ヘタル勞働者及物資ノ輸送問題ニ付直ニ燃料部ト協議シ急速許可スル様措置方強く要望スルモノナリト述ヘ尙引續キ懸案解決ニ付話合ヒ

タルニ付先ツ懸案解決ニハ本日申入ノ物資及人員搬入ヲ許可シ蘇側ニ於テ誠意ヲ示ス必要アリト述ヘ本件ヲ打切りタリ本件會談約四時間

~~~~~

230 昭和14年8月29日 在ソ連邦東郷大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

全面的反駁はソ連側態度の硬化を招くため事  
業者側による契約およびソ連法規遵守表明も  
必要である旨意見具申

モスクワ 8月29日後発  
本省 8月30日前着

第一〇二五號(極祕)

貴電第四八一號ニ關シ(北樺太利權壓迫問題ニ關スル件)

貴電第四八二號ヲ檢討スルニ同電冒頭一、二ハ我方從來ノ主張ヨリスレハ當然ノ儀ナルモ「一切ノ適當ナル保護及便益ヲ與フヘシ」等ノ規定ハ蘇側力之ヲ極メテ狹義ニ解釋スル場合結局水掛論ニ終ルヘク且蘇側ニ於テハ從來ヨリ北京條約議定書所載ノ事項ハ利契ノ成立ト同時ニ利契及國內法規ニ移讓セラレタリトノ主張ヲ爲シ來レル次第ニ又往電

第六〇九號所載ノ外「ツアラプキン」ハ本月二十五日七田ニ對シ利權ノ内容ニ關スル折衝ハ之ヲ會社ト當該官憲ニ一任スルコトニ一昨年當時ノ日本大使ハ承諾ヲ與ヘラレタリト述ヘ居ル關係モアリ此ノ種申入ヲ爲スモ先方カ直ニ之ニ聽從スヘシトハ思ハレス往電第八〇四號ニ申進ノ通り水掛論ニ終ルヘキハ必定ナリ現行利契力大體會社側ニ不利ナル點多キハ別問題トシ利契嚴守ノ建前ヨリスレハ會社側ノ態度ヲ是正セシムルヲ要スヘシト認メラルル點多々アル現状ニ於テ全面的ニ先方ノ申分ヲ反駁スルノミニテハ日本政府ハ徒ニ利權者側ノ不法行爲ヲ擁護シ居ルトノ先方側主張ニ材料ヲ與フルノミニテ一層其ノ態度ヲ硬化セシムル危險ナナル次第ニシテ斯クノ如キハ國境問題其ノ他ニモ<sup>(2)</sup>惡影響ヲ及ホシ國交關係ノ全般ニ及ホス影響亦鮮カラスト認メラレ日蘇國交ノ現状ヨリシテ殊ニ考慮ノ必要アルヘシ又七月廿四日蘇側回答ハ蘇側ニ利權壓迫ノ意思無ク會社側ニ於テ其ノ義務ヲ遂行スル場合ニノミ事業ノ圓滑ナル遂行ヲ爲シ得ヘシト申出テ居ル關係モアリ右議論ニ依リ進ムトキハ先方ヨリ妥協ノ途ヲ全ク閉塞スルコトトナルヘキニ付會社側ニ於テ事業ノ繼續遂行ヲ企圖スルニ於テハ我方トシ

テモ飽迄會社ヲシテ利契及蘇聯法規ヲ遵守セシムルノ趣旨ヲ蘇側ニ表明スルト共ニ具體的ノ不法壓迫ニ付テ先方ノ注意ヲ喚起シ之ヲ矯正セシムルノ立場ヲ取ラルル事適當ナリト思考セラル本件電報ハ平文トナリ居リ其ノ儘傳達スヘキ御趣旨ト考フルモ右ノ諸點ニ就テハ影響甚大ナルモノアリト認メラルルニ付特ニ御再考相仰度ク別電第一〇二六號具體的疑義ニ對スル回答ト共ニ至急何分ノ儀御回電相成度シ

~~~~~

231

昭和14年9月5日

在ソ連邦東郷大使より
阿部外務大臣宛(電報)

七月二十四日付ソ連側回答に対する反駁文の

手交について

モスクワ 9月5日前發

本省 9月5日夜着

第一〇七九號

貴電⁽¹⁾第四八一號ニ關シ(北樺太利權壓迫問題ニ關スル件)

四日七田ヲシテ御來示ニ依リ作成セル我方反駁文及同譯文
攜帶「ツアラプキン」ヲ往訪セシメタル處七田ヨリ七月二
十四日附外務部回答ニ對スル日本政府ノ反駁中主義の問題

ニ關スル分ノミヲ朗讀シ具體的問題ニ付テハ書物ニ就キ
知セラレタシトテ携帶ノ書物ヲ手交シ更ニ冒頭貴電後段ノ
趣旨ヲ申入レタルニ「ツア」ハ本件ハ上司ニ報告シ書物ニ
就キ詳細研究ノ上更ニ蘇側ノ態度ヲ申出ツルコトモアルヘ
シト思考スルカ御申入ヲ聽取シタル自分トシテ一言シ置ク
必要アリ即チ(一)日本政府力利權者ヲシテ利契及法規ヲ遵守
セシメラルル意嚮ヲ表明セラレタルニ對シテハ満足ヲ表ス
(二)然レトモ日本側カ蘇政府ノ北京條約違反ヲ云々セラルル
ハ了解シ得ス同條約議定書(乙)第七及第八項ヲ引用セラルル
モ右ハ第九項ニ依リ利契成立セル以上利契ノ規定ニ吸收セ
ラレ最早日本側ヨリ議定書ヲ引用セラルル餘地ナシトナス
蘇側見解ハ從來述ヘタル通りナリ(三)從テ利權企業ニ關スル
限リ利契及蘇側法規ニ基キ當事者間ニ解決スヘク意見對立
ノ場合ハ利契ニ從ヒ蘇聯最高裁判所ニ提訴スルコトナリ
外交々涉ノ餘地ナキ次第ナリ(四)人員送込ノ問題ハ利契者ノ
申請ニ依リ當該官廳ニテ適當處理シ居ルコトト思考スルモ
御希望ノ次第ハ關係官廳ニ傳達スヘシト答ヘタルニ依リ
七田ハ(一)利契成立ト共ニ議定書規定ノ適用停止セラルヘシ
トノ貴見ハ不當ナリ利契ハ條約ノ範圍内ニ於テ締結セラル

ヘキモノニシテ條約ハ之ニ依リ消滅スル理由ナシ寧口條約
ハ利契ノ上ニ立チ利契及國內法ノ規定カ之ニ牴觸スル場合
ハ其ノ是正ヲ要求シ得ルノミナラス右規定不充ナル場合
ニモ條約ニ依リテ處理スル外ナシトノ日本側見解ハ之亦數
次表明セラレタル所ナリ(二)從テ今日ノ如ク當事者間ノ交渉
ニ任セ置クトキハ利權企業ノ存立ヲ危殆ニ陷ルル惧アル事
態ニ於テ日本政府力之ヲ取上ケ外交交渉ニ移スハ條約上當
然ノ權利ニシテ又自國臣民ノ權益ヲ擁護スル上ヨリ緊要ノ
事ナリト反駁セル處「ツア」ハ日本政府ノ態度ハ利權者ノ
利契及法規不遵守ヲ獎勵スル嫌アルノミナラス條約論二名
ヲ藉リテ外交交渉ニ依リ利契法規及蘇聯機關ノ適法措置ノ
實施ヲ排除セントセラルルハ蘇聯國權侵害トモ言フヘシト
述ヘタリ依テ七田ハ一國力條約ヲ締結セル以上其ノ範圍ニ
於テ國權發動ニ制限ヲ受クヘキハ當然ナリ又日本政府力利
權者ヲシテ條約ニ違反セサル法規及蘇聯官憲ノ措置ヲ遵守
セシムヘキ意嚮ナルコトハ前述ノ通りナリ本日ハ之以上議
論スルヲ差控フヘキ處只今手交セル書物記載ノ日本政府見
解ハ其ノ趣旨ニ於テ變更ナキモ更ニ東京ヨリ詳細文書ヲ以
テ送付越ス筈ナルニ付右接到後追加的ニ申出ツルコトアル

ヘシト附言シ置キタル趣ナリ



232
昭和14年12月31日

日ソ漁業条約第五次暫定取極め締結に関する

情報部発表

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

第五次暫定取極めまでの交渉経過

日「ソ」間長期漁業條約締結ニ關シ外務省情報部發表

(十二月三十一日)

先般來政府ハ日「ソ」間長期漁業條約締結ノ爲東京及「モスコ」ニ於テ折衝シテ居タカ、「ソ」聯邦側ノ回答遲延シ到底本年中ニ交渉ヲ纏メ得ナイコトカ明カトナツタノテ、不取敢明年限りノ暫行協定ヲ取結フコトトシ交渉ヲ進メタ結果、昨三十日ノ東郷大使、「モロトフ」外務人民委員間會談ニ於テ政府ノ承認ヲ條件トシテ、暫行協定二本三十一日署名スルコトニ話力纏ツタ。

協定ノ内容ハ大體昭和十四年ノ通りテアルカ、「ソ」聯邦側

ハ昭和十五年中ニ長期本條約ヲ締結シテ本暫行協定ニ代ラシムル趣旨ノ規定ヲ設クルコトニモ同意シタ。從テ長期漁業條約交渉ハ今後繼續シテ行ハレル次第テアル。尙昨年來漁業條約締結交渉ト關聯シテ問題トナツテキタ北鐵代償金最終割賦金六百萬圓弱ノ支拂方ニ關シテハ、政府ハ今次交渉ト併行シテ之カ解決ノ爲積極的ニ滿洲國「ソ」聯邦間ニ斡旋ヲ行ヒ種々折衝ノ結果右割賦金ニ利子及金約款増金ヲ附シタルモノヨリ滿洲國側カ北鐵讓渡協定ニ基キ有スル明確ナル對「ソ」債權額百三十萬圓弱ヲ控除シテ滿洲國側ノ支拂ヲ了スルコトトシタ。右支拂金ニ付テハ「ソ」聯邦側ハ其ノ三分ノ二ヲ下ラサル金額迄日滿兩國ヨリ物資ヲ購入スルコトトシテ茲ニ本問題ノ解決ヲ見ルニ至ツタ。

編注 本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十八輯より抜粋。

(付記)

第五回暫定取極迄ノ交渉経過

昭和十四年四月二日締結セラレタル第四回暫定取極ノ結

果トシテ引續キ同月四日浦潮ニ於テ施行セラレタル漁區競賣ニ於テ我方ハ舊安定漁區ヲ五年ノ期間ヲ以テ競落セラルカ前記取極ニ依レハ漁業條約ハ昭和十四年末迄其ノ效力ヲ延長セラレタルニ過キス罐詰工場特別契約亦同様ナルヲ以テ右期間満了後ノ措置ニ付「ソ」側トノ交渉ヲ必要トセリ

然ル處緊張ヲ續ケタル日「ソ」關係ハ昭和十四年九月「ノモンハン」停戰協定成立後諸懸案ヲ解決シテ國交ヲ調整セントスル氣運ニ向ヒ來レルニ鑑ミ我方ハ獨リ漁業問題ノミナラス其他ノ諸懸案ニ付テモ同時ニ交渉方「ソ」側ニ提議スルコトトナレリ即チ同年十一月十五日野村外務大臣ハ駐日「スメターニン」「ソ」聯大使ヲ招致シ從來ノ諸懸案解決ノ趣旨ニ於テ滿「ソ」及滿蒙國境劃定及紛爭處理委員會設置問題、北鐵代償金最終割賦金支拂問題及通商條約締結問題等ニ關シ申入ヲ行フト共ニ長期漁業條約問題ニ付テモ交渉ヲ開始シ度キ旨申入レ之カ爲昭和十一年十一月一日一應妥結ヲ見タル協定案ヲ骨子トシテ現行漁業條約ノ效力ヲ八年間延長スルト共ニ右協定案中ニ第四回暫定取極後ニ生シタル漁區保有狀態ノ變化等

ニ相應スル修正ヲ加フル趣旨ノ案ヲ提示セリ尙右北鐵代償金最終割賦金問題ニ付テハ漁業問題トハ之ヲ關聯セシムルコトナク單ニ之カ解決ニ付日本側ニ於テ滿「ソ」兩國間ニ積極的斡旋ヲ爲スノ用意アル旨ヲモ申入レタリ

我方ハ其後東京及莫斯科ニ於テ「ソ」側ノ回答督促中ノ處漸ク爾後一ヶ月ヲ經タル十二月十五日ニ至リ「モロトフ」外務人民委員ハ在「ソ」東郷大使ニ對シ北鐵代償金最終割賦金約六百萬圓ノ現實ノ支拂ヲ受クルコトヲ先決條件トシテ長期漁業條約ノ商議ニ應スヘキ旨回答シ來レリ
ニ、元來北鐵代償金問題ハ漁業問題トハ何等關係無キ問題ナルモ右金額ノ支拂停止ハ從來漁業問題ノミナラス各種日「ソ」間懸案解決ノ支障トナリ居リタルニ鑑ミ且又前記ノ如キ「ソ」側ノ遷延の態度ニ依リ昭和十四年中ニ長期漁業條約ノ交渉ヲ妥結ニ導クコト能ハサルニ至レルニ鑑ミ我方ハ十二月二十三日東郷大使ヲシテ(一)北鐵代償金ニ付テハ(イ)北鐵讓渡協定附屬ノ北鐵債權債務表ニ依リ明瞭ナル滿側ノ對「ソ」債權タル百十萬餘圓竝ニ(ロ)「ソ」聯邦政府力責任ヲ負フヘキ舊北鐵債務中滿洲國政府ノ代位辨濟セル債務約十七萬圓及(ハ)舊北鐵ノ經營ニ

係ル「ジャライノール」炭坑未納ノ鑛稅約六千圓ヲ控除シテ滿側ヨリ之ヲ支拂ハシメ之カ協定ハ東京ニ於テ日本外務大臣及滿「ソ」兩大使館ニ於テ行ヒ爾餘ノ滿側ノ對「ソ」債權ニ付テハ哈爾賓ニ於テ「ソ」滿兩國官憲間ニ協議セシムルコトトスヘキ旨申入ルルト共ニ(一)即時長期漁業條約締結交渉ニ入ルコトヲ提議セシメ(二)之ト同時ニ年末ニ於テ現行漁業條約ノ有效期間滿了スルニ鑑ミ差當リ一年間ノ暫定取極ヲ締結スヘキ旨竝ニ實際ノ漁業經營ニ支障無キ様罐詰工場附屬漁區ニ關スル特別漁區ニ關スル特別契約ノ一年延長、留換算率ノ維持國營漁區ノ漁獲標準高規定及除外漁區ニ付テノ規定ニ關シ前回暫定取極ノ場合ト略同様ノ要望ヲ提議セシメタリ之ニ對シ「モロトフ」外務人民委員ハ北鐵代償金問題ニ關スル我方解決案ニハ直チニ同意ヲ表明セス長期漁業條約交渉ハ日本側ノ北鐵代償金支拂ノ保障義務履行ノ場合ニノミ可能ナリトナシ唯此際暫定取極ノ締結ニハ同意セルヲ以テ東郷大使ハ漁業條約ヲ一年間延長セル從來ノ議定書ノ内容ニ加フルニ右議定書ハ昭和十五年中ニ締結セラルヘキ新條約ニ依リ代ラルヘキ旨ノ規定ヲ以テセル我方議定書

案ヲ提示セリ

右ニ對シ「ソ」側ハ同月二十七日ニ至リ漁業暫定取極ニ付テハ我方案ヲ受諾スヘキ意向ヲ示シ來レルモ右調印前ニ北鐵代償金問題ヲ片附ケ度シトテ第一ニ前記滿洲國カ最終割賦金ヨリ控除スヘシトナセル(イ)債權債務表二記載ノモノ(ロ)代位辨濟セルモノ(ハ)「ジャライノール」炭坑未納鑛稅ノ合計(約百三十萬圓)ヲ(一)最終割賦金ト(二)右ニ對スル利子及(三)北鐵讓渡協定ニ依ル金約款ノ増金ノ合計(約七百餘萬圓)ヨリ控除シテ殘額ノ支拂ヲ直ニ受ケ度キコト第二ニ滿洲國ノ對「ソ」請求ハ前記(イ)(ロ)(ハ)ヲモ含ミ「ソ」側ノ對滿請求權即チ北鐵讓渡協定成立前ニ解雇セラレタル舊北鐵從業員ノ年金其ノ他ト共ニ再審議スルコトトシ東京ニ於テ日本外務大臣滿「ソ」兩大使間ニ話ヲ進ムルコトヲ提案シ且前記控除金額即時支拂ノ點ヲ極メテ執拗ニ主張シ來レリ右提案ハ從來「ソ」側カ北鐵代償金ノ支拂ヲ先決トシ右支拂ニ付北鐵協定ニ基ク滿洲國ノ對「ソ」債權ヲ相殺スルコトスラ應諾セサリシ從來ノ態度ヲ改メタル點ニ於テ我方案ニ接近シ來レルモノナルモ年末押詰レル際ニ於テ暫定取極問題及北鐵

代償金問題ヲ年内ニ解決スルコトハ至難ノコトニ屬シタリ然レトモ我方ハ之カ打開ノ爲更ニ努力スルコトトシ滿洲國側トモ種々打合セノ上已ムヲ得サル場合ハ右金約款ニ依ル増金及利子ヲモ併セテ支拂フコトトシ但シ「ソ」側ニ對スル支拂金ハ成ルヘク日滿商品購入ニ使用方要望スルコトトシ東郷大使ヲシテ極力交渉ニ當ラシメタル結果同月三十日及翌三十一日深更迄ノ會談ニ於テ交渉ハ遂ニ「ソ」側トノ間ニ妥結ヲ見ルニ至レリ即チ漁業暫定取極ニ付テハ「ソ」側ハ前記我方提示ノ議定書案ヲ其ノ儘採用スルコトニ同意シ且右取極運用上ノ諸問題ニ付テハ曩ニ我方ヨリ申入レ置キタル要望ヲモ採用シ「イ」罐詰工場附屬漁區三十九個所ノ經營ニ關スル特別契約ヲ一年間延長スルコト「ロ」「ソヴィエト」國營企業ニ對シ昭和十五年ニ於テモ從來通五百萬布度ニ相當スル漁獲標準高ヲ許與スルコト「ハ」昭和十五年ニ於テ借區期間滿了セル邦人漁區七個所ヲ競賣ニ附スヘキコト「ニ」邦人ノ借區料支拂ハ昭和十五年ニ於テ從來通百留ニ付三十二圓五十錢換ニテ納入シ得ヘク且之カ支拂ニ付從來ヨリ附セラレタル金約款ハ一九三九年四月一日ヲ起算日トシ紐育ニ於ケル

金ノ價格(弗ニテ表示)ニ基準ヲ置クコト「ホ」客年競賣ヨリ除外セラレタル三十七漁區ニ付テハ本年モ除外セラルコト(但シ之カ代償漁區十個ハ依然我方ニ保有スルコトニ合意成立セリ)

他方北鐵代償金問題ニ關シテハ「一」日本政府ハ最終割賦金、金約款ニ依ル増金及利子合計(約七百餘萬圓)ヨリ滿洲國ノ對「ソ」債權(約百三十萬圓)ヲ差引キタル額五百八十萬九千五百六十五圓八十一錢ヲ昭和十五年一月四日東京ニ於テ滿洲國側ヨリ在本邦「ソ」大使館ヘ支拂フコト及「二」滿側ノ對「ソ」請求即チ前記約百三十萬圓(之ニ對スル利子ヲ含ム)及其ノ他ノモノハ「ソ」側ノ對滿請求即チ舊北鐵従業員ニ對スル未拂年金五十九萬米弗及其ノ他ノモノト共ニ日本外務大臣、駐日滿洲國大使、駐日「ソ」大使及通商代表間ノ審議乃至再審議ニ移サルヘキコト「三」前記「一」ノ支拂金額中三分ノ二ヲ下ラサル額ヲ日滿兩國產品ノ購入ニ充ツヘキコトニ付妥結セリ仍テ東郷大使ハ即日第四回暫定取極ノ例ニ倣ヒ政府ノ承認ヲ條件トシテ「モロトフ」外務人民委員トノ間ニ第五回暫定取極ノ署名ヲ了シタリ

233

昭和15年1月29日

在オハ多賀谷領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

日ソの緊迫關係緩和後における利權事業の状況と今後の見通しについて

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

昭和十五年における北樺太利權概況

オハ 1月29日前発

本省 1月30日後着

第十七號

日蘇緊迫關係ノ緩和ニ從ヒ對人的迫害差控ヘラルルニ至リシ爲最近石油從業員ハ頓ニ落付ヲ見セ徒ニ歸國ヲ焦ルカ如キ傾向止ミタル由ニテ右ハ過去三年間見サル現象ナリ
 他方企業自體ニ對スル諸官憲ノ横暴の壓迫ハ依然トシテ行ハレ居ルモ客年潰滅ノ危機ニ瀕シタル「オハ」工場ノ經營ハ兎モ角持續セラレ現在採油日産二百噸内外ヲ舉ケ本年約四萬五千噸ノ原油(外ニ「カタングリ」貯油一萬二千噸アリ)搬出期待セラルルニ至リ企業ノ現状ハ先ツ小康ヲ呈シ居ルモノト云フヘシ

然レ共假借スル所ナキ法規ノ適用及之ニ伴フ所謂官憲命令ノ亂發ハ會社ヲシテ之カ應接ニ遑ナカラシメ其ノ結果生産作業ノ進捗阻止セラレツツアルハ經營ニ取り頭痛ノ種ナルカ山積セル問題ノ官憲命令中非常識ト思ハルル點多キ火防關係ノモノハ扱テ置キ宿舍、給水、「スチーム」等ノ設備改善方ニ關スルモノハ工場維持ノ爲ヨリスルモ之ヲ等閑ニ附シ得サル由ニテ一通リ之ヲ履行スルニ非サレハ將來モ依然トシテ此ノ方面ヨリノ企業干涉ハ絶ユルコトナカルヘシ企業更生ノ爲利權契約ノ改定ヲ圖ルハ望マシキコトナルモ日獨防共協定以來根強ク培養セラレタル對日反感乃至警戒ハ企業經營ノ容易化ノ(脱?)無條件ニ許ササルヘク且又本島蘇側石油業ノ飛躍的發展ハ我企業ノ共存共榮ヲ益々困難ナラシムル原因トナラサルヲ得サルヘク從テ日蘇國交調整ノ具體化ト共ニ蘇側會社事業ニ付理解の考慮ヲ約スル場合ト雖「オハ」工場ノ合法的經營ニ必要ナル對蘇諸請願ノリヨウヲホウゾクシ得ル程度ニ止リ恐ラク「カタングリ」工場ノ復活ハ困難ヲ伴フヘク試掘鑛區就中「エハビ」ノ開發ニ至リテハ目下ノ所夢想タニ及ハサルモノトセラレ居リ旁蘇側利權政策ニ大轉換ヲ見サル限り資金及物資調達難ノ

内部的の惱モアルコトナレハ企業ノ根本的立直リ容易ナラサルモノアリト認メラル

(付記)

昭和十五年ニ於ケル北樺太利權概況

北樺太ニ於ケル我利權企業ニ對スル「ソ」側ノ壓迫ハ年ヲ追フテ深刻トナリ其遣口ハ事業經營ヲ不可能ナラシムルコトニ依リ利權回收ノ目的ヲ達セントスル魂膽ト解スル外ナキ實情ナリ、先ツ本年ニ於ケル石油利權ニ對スル態度ヲ見ルニ昭和十二年以來毎年紛糾ヲ極メ居タル物資輸入問題カ案外簡單ニ解決セルコト労働團體契約ノ更新問題カ有効期間ヲ一年延長スルコトニヨリ妥結セルコト等ノ事實ヨリ前年ニ比シ多少緩和セラレタルヤニ思ハル點ナキニ非サルモ事業經營ノ原動力タル勞働力ヲ極端ニ制限シテ作業遂行ヲ困難ナラシメ或ハ採油作業ヲ直接間接妨害シ或ハ各種無數ノ不當要求及命令ノ實施ヲ強要シ或ハ幹部従業員ヲ故ナク訴追スル等人的、技術的、經濟的ニ凡ユル方面ヨリ計畫的壓迫ヲ加ヘツツアルハ從來ト變リナシ而シテ會社ハ昭和十二年以來「ソ」側ノ不當壓迫ニ依リ遲延セル採掘及試掘

作業ヲ挽回センカ爲周到ナル事業計畫ヲ立テタルカ「ソ」側ハ不法ニモ該計畫ヲ認可セス默殺的態度ニ出テタル上別項詳報ノ如キ壓迫ヲ加ヘタル爲會社ノ豫定計畫ハ全ク挫折シ從テ昨年閉鎖セル「カタングリ」、「エハビ」兩鑛場ノ復活不可能トナリタルノミナラス「オハ」鑛場ノ現狀維持スラ困難ヲ極メ居ル有様ナリ

次ニ石炭利權ニ付テハ「ソ」側態度何等好轉セサルノミカ寧口惡化ヲ示スモノスラアリ即チ「ソ」側ハ石油利權同様事業計畫ヲ認可セス右ハ勞働力ニ對スル極端ナル制限ト相俟テ昭和十二年以來中止中ナル事業再開ヲ至ク不可能ナラシメ僅カニ保存行爲ヲ爲スニ止メシメタリ從テ兩利權會社ノ成績ハ年々低下シ石油會社ノ本年度採油量(四月ヨリ十二月迄ノ分)ハ四七、四一九噸ニシテ前年同期ニ比シ一六、三八八噸ヲ減少又原油搬出量ハ前年ヨリ更ニ六、一三六噸ヲ減シテ四五、三二一噸ヲ示シ此儘ニテ推移スルニ於テハ原油搬出ハ明十六年ヲ以テ最後トナルニ非スヤト悲觀セラる石炭會社ノ實績ニ至ツテハ採炭量(四月ヨリ十二月迄ノ分)四、一二二噸(前年同期ニ比シ八七噸減)、搬出量一七五噸(前年皆無)ト云フ慘狀ニシテ殆ト問題トナラス仍テ兩

會社共政府ヨリ引續キ絶大ナル財政的援助ヲ受クルニ非レハ經營立チ行カサル實狀ニ在ルヲ以テ商工省ヨリ利權確保資金トシテ石油會社ニ對シ七百六十八萬圓石炭會社ニ對シ百六十一萬餘圓ヲ交付セル次第ナリ

尙政府ニ於テハ各種問題發生ノ都度在「ソ」大使館又ハ現地公館ヲシテ「ソ」側ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ發セシメ極力利權者ノ正當ナル主張貫徹方折衝セシムルト共ニ本省ニ於テモ必要ニ應シ在京「ソ」聯大使館ヲ通シ「ソ」側ノ注意ヲ喚起シ以テ本利權ノ擁護ニ努力シツツアリ他方外交々涉ノ支援トシテ本年モ亦帝國軍艦ヲ北樺太東西海面ニ出動セシメ「ソ」側ニ威壓ヲ與フルト共ニ其動靜ヲ監視セシメタリ以上ノ措置ニヨリ一應「ソ」側ノ強壓ヲ閉塞シ得タルモ全般的壓迫態度ハ依然トシテ何等改善ノ跡ヲ見サル有様ナリ

~~~~~

234

昭和15年10月8日

松岡外務大臣より  
在ソ連邦建川(美次)大使宛

建川大使が赴任に際して携行した漁業條約交

渉に関する訓令

歐一機密第二六〇九號

昭和十五年十月八日

外務大臣 松岡 洋右

特命全權大使 建川 美次殿

日「ソ」漁業條約改訂交渉ニ關スル件

漁業條約改訂交渉ニ關シテハ本年初頭ヨリ「モスコ」ニ於テ既ニ數次ニ涉リ交渉ノ次第アリタル處右經過ヨリ見ルモ「ソ」側ハ「日本漁業今後ノ發展ヲ望ミコススレ之ヲ締出スカ如キ意圖毛頭無シ」ト稱シ乍ラ他面國際關係カ現在「ソ」聯ノ爲ニ有利ニ展開シツツアル狀況ヲ最大限度ニ利用セントスル傾向極メテ顯著ニシテ我方主張ノ據點タル「ポーツマス」條約ニ難癖ヲ付ケツツ本年六月ノ目方提案ヲ以テ討義ノ基礎タラシメンコトヲ依然主張シ來ルヘキコト豫想ニ難カラススル狀勢ニ於テ而モ本年既ニ餘日少キ此ノ際我方トシテ本年初頭在「ソ」帝國大使宛宛訓電濟ノ第一案ニ大差無キ第二案ヲ以テ交渉ヲ進メントスルモ右進展ニ資スルコト薄カルヘキハ略亦豫想シ得ルトコロナリ

然ル處「ソ」側提案ノ内容ニ鑑ミ之ニ追從シ得サルハ勿論ニシテ又前記「ソ」側ノ傾向ニモ鑑ミ「ソ」案中ノ部分的事項ヲ促<sup>(提カ)</sup>ヘテ交渉ヲ進ムルコトモ亦危險多キヲ以テ我方ト

シテハ既に在「ソ」帝國大使ヲシテ去ル九月五日「ソ」側ニ申入レシメタル通前記「ソ」側提議ノ根本ニ對スル反駁ヲ今後モ依然續ケサルヲ得ス

尤モ「ソ」側モ「日本側ニ於テ「ソ」案ヲ受諾シ得ストセハ別ニ具體的對案ヲ提出スルコト然ルヘク是レ當然ノ順序ナリ」ト稱シ居ルニモ鑑ミ我方トシテハ之ヨリ對案ヲ提示シ差支無キ立場ニ在ル次第ナリ

仍テ我方トシテハ「ソ」側案ニ依ルコト絶對不可能ナルコトヲ極力力説スルト共ニ假令「ソ」側力根本の大讓歩ヲナシ來ルトスルモ其ノ審議ニ入ルニ於テハ多大ノ時日ヲ要スヘク旁客年末締結ノ議定書第二條ノ規定ニ依リ本年内ニ新條約成立セラルヘキコトトナリ居ル趣旨ニモ鑑ミ此ノ際ハ日「ソ」双方ノ爲ニ最モ論議ヲ少カラシムヘキ案トシテ左記案ニ依リ交渉ヲ進メ度ニ付貴使ハ右趣旨ヲ体セラレ先以テ「ソ」側案カ我方ニ於テ到底受諾シ得サルモノナルノミナラス徒ニ議論ヲ上下スルハ何等日「ソ」國交ノ改善ニ寄與スル處ナル所以ヲ篤ト説示セラレ其ノ間最モ適當ト認メラルル機會ヲ捉ヘテ我方新案ヲ提示シ以テ「ソ」側ヲ妥結ニ導ク様極力御努力相成度シ

一、現行漁業條約ハ之ヲ修正スルコト無ク昭和十六年一月一日ヨリ起算シ三年間延長ス

二、(イ)日本側漁區貸付ニ付テハ特別契約ヲ明年ヨリ三年間延長シ且客年四月舊安定漁區ノ代漁區トシテ邦人ニ貸付ケラレタル六漁區(三五、三六、三六七、三六八、三六九、及七三七)ノ貸付期間ヲ當時協定ノ趣旨ニ從ヒ昭和十八年十二月末迄ニ修正ス

(ロ)「ソ」側國營企業ニ對シテハ明年ヨリ三年間從來通ノ漁區經營ヲ認ム

三、留換算率ニ關シテハ客年末取極ト同様ノ取極ヲ條約期間中維持ス

四、漁區經營上及條約ノ解釋上生シタル諸案件ニ付テハ年々漁期ニ於テ紛議ヲ惹起シ來レルニ鑑ミ引續キ外交交渉ヲ續クルコトトス

五、除外漁區三十七個所ニ付テハ「ソ」側カ今後モ競賣ヨリ除外方希望スルニ於テハ之ニ同意スル旨聲明ス

~~~~~

昭和16年1月21日

日ソ漁業条約第六次暫定取極め成立に関する情報局発表

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

第六次暫定取極め成立までの交渉経過

日「ソ」漁業暫定取極成立

(二月二十一日情報局発表)

二十日夜半莫斯科ニ於テ建川大使ト「モロトフ」外務人民委員トノ間ニ漁業暫定取極ノ署名ヲ了シタガソノ要旨ハ左ノ通りデアル。

一、現行漁業條約ヲ其ノ儘今年末迄延長スル

二、暫定取極ハ本年中ニ締結セラルベキ新漁業條約ニ依ツテ置換ヘラレル、尙右暫定取極ハ客年末交渉ノ際ニハ「ソ」聯邦側カラ借區料等ノ支拂方法ニ付漁業者ノ負擔ヲ極度ニ加重スル如キ提案ガアツタ爲成立ニ至ラナカツタガ今回ハ「ソ」聯邦ニ於テ右提案ヲ一應撤回スルコトニ同意シ、本年度ハ漁區ノ借區料及抵代税ノ二割ニ相當スル追

加支拂ヲ爲ス事ヲ以テ妥結シタモノデアル。

編注 本文書は、昭和十八年六月、外務省調査局第四課作成

「外交關係公表集(昭和十六年度昭和十七年度)」より抜粋。

(付記)

漁業條約改訂交渉

一、日「ソ」漁業條約改訂交渉ハ昭和十一年十一月酒匂代理大使「カズロフスキ」極東部長間ニ妥結ヲ見タルモ「ソ」側ハ調印間際ニ至リ日獨防共協定ニ藉口シ國內手續未了ヲ理由トシテ右調印ヲ肯セサリシ爲問題解決セス爾來昭和十一年末、同十二年末、同十四年四月及同十四年末夫々期間一年又ハ年末迄ノ暫定取極ヲ締結^{締結}シテ條約ニ基ク我漁業經營ニ支障無カラシメ來レリ

二、然ル處昭和十四年末締結ノ第五回暫定取極ニ於テハ漁業條約ノ效力ヲ一年間延長セシムルト同時ニ當該議定書ハ日「ソ」兩國政府間ニ「目下交渉中ニシテ千九百四十年中ニ締結セラルヘキ新條約ニ依リ代ラルヘキ」旨規定セ

ル關係モアリ昭和十五年ニ入ルヤ我方ハ滿「ソ」滿蒙國境確定及紛争處理委員會設置問題ト共ニ漁業問題ニ付テモ交渉ヲ開始シ度キ旨「ソ」側ニ申入レ次テ二月二十九日在「ソ」東郷大使ヲシテ左記三項ヨリ成ル我方新提案ヲ「モロトフ」外相ニ申入レシメタリ

(イ) 現行漁業條約ヲ無修正ニテ十年間延長ス

(ロ) 現ニ貸付中ノ漁區ハ條約有効期間中日「ソ」双方共從來ト同一條件ヲ以テ各自其儘之ヲ保持ス

(ハ) 漁業經營上及條約ノ解釋上ノ諸案件(從來ノ懸案十五件ヲ列舉ス)ハ兩國專門委員會ヲ作り協議決定ス

然ル處六月二十日ニ至リ「モロトフ」ハ左記趣旨ヨリ成ル對案ヲ提示シ來レリ

甲、漁業條約ノ有効期間ヲ五年トス但シ無修正ノ儘之ヲ延長スルヲ得ス即チ一般情勢ノ變化ニ應シ以下(イ)乃至

(カ)ノ要求ニ從ヒ修正及補足ヲ必要トス

(イ) 日本人ニ對スル漁區ノ貸付ハ總テ競賣制度ニ依リ漁

區ノ安定制度ヲ認メ得ス

(ロ) 罐詰工場及同附屬漁區ノ長期經營ニ關スル特別契約締結ハ認メ得ス右既存工場ハ當該漁區ヲ競賣ニ依リ

借受ケタル場合ニ限り經營權ヲ取得ス右工場ノ特別報償金ハ新ニ調整セラルヘキモノトス

(ハ) 條約施行上除外セラルル灣及入江ヲ若干増加ス

(ニ) 「ソ」聯國營企業「コオペラチーヴ」及地方農漁民ニ對スル條約上ノ拘束規定ヲ撤廢ス

(ホ) 從來ノ漁區貸付期間(一年、三年、五年)ヲ新漁區ニ付一年トシ爾後ノ貸付ヲ四年ニ變更ス

(ヘ) 從來ノ税金ニ關スル條約規定ヲ再審議ス

(ト) 一九三七年以降引續キ二年間經營セラレサリシ漁區ヲ閉鎖シ將來一年間經營セラレサリシ漁區ハ其契約ヲ破棄ス

(チ) 罐詰工場冷凍庫等ノ新設又ハ擴張ヲ許可制トス右設備ハ漁區貸付期間終了後日本ニ搬出スルカ或ハ「ソ」側ニ賣却スヘキモノトス

(リ) 漁獲標準高ノ計算ハ從來ノ如ク製品重量ニ依ラス生魚重量ヲ基礎トス

(ヌ) 「ソ」聯漁區及河口前面三哩乃至十二哩ノ水域ニ於ケル漁業ヲ特別許可制トス

(ル) 漁業取締規定ニ付テノ均等待遇規定ヲ廢シ條約及借

區契約規定外ノ事項ニ付國內法ヲ適用ス

(ウ)船舶漁業ニ關スル規定ヲ廢ス

(ワ)法律及規則ノ豫告規定ヲ廢ス

(カ)新漁區ノ開設及既設漁區ノ存置ニ關スル規定ヲ廢ス

乙、日本側提議ノ兩國専門委員會設置ニ應シ得ス

丙、從來日本人ニ適用シタル一留ニ付三十二錢五厘ノ率

ニ依ル借區料支拂方法ヲ廢シ總テ支拂ヲ「ソ」聯公定

相場ニ依ル尤モ本協定前ニ締結セラレタル契約ニ關ス

ル支拂ハ若干ノ割引ヲナスヘシ

丁、公海ニ於ケル漁獲制限ニ關シ協定方提議ス

以上「ソ」側ノ提案ハ要スル處第一ニ日本側ノ根本要求

タル漁區安定ニ反對シ競賣制度ヲ以テ漁區取得ノ唯一ノ

制度トナシ以テ我方漁區收奪ノ手段タラシメ、第二ニ留

換算率協定廢止及公定相場採用ニ依リ諸支拂金額ヲ倍加

セシメ競賣ニ依ル借區料ノ鈞上、報償金ノ増加、苛酷ナ

ル罰金ノ加重等ト相俟テ我方企業ヲ經濟的ニモ破壊セム

トシ、第三ニハ漁業經營ト不可分ノ關係ニアル罐詰工場

ノ經營ヲ殆ント不可能ナラシメ、第四ニハ國營以下ノ

「ソ」側企業ヲ條約ノ拘束ヨリ完全ニ解放シ且前記競賣ニ

モ無制限參加シテ日本側ノ取得スル能ハサル多數ノ漁區

ヲ自由ニ取得セントスルニ在リ其他從來ヨリノ凡ユル主

張ヲモ提示シ以テ日本側ノ漁業權ヲ單ニ形骸ニノミ留メ

ンコトヲ意圖スルモノト認メラレタリ仍テ我方ハ九月五

日東郷大使ヲシテ「モロトフ」外相ニ對シ斯克ノ如キ案

ハ之ヲ審議ノ基礎トナスコトモ不可能ナルニ付「ソ」側

ニ於テ宜シク之ヲ撤回シ日本案ニ依リ交渉ヲ進ムルカ或

ハ日本案ヲ參酌シタル實際的案ヲ出ス様申入レシメタリ

右ニ對シ「モロトフ」ハ「ポーツマス」條約ニ對シテ又

々難癖ヲ付クルト共ニ「ソ」側トシテハ其主權ノ尊重セ

ラルル限リ日本漁業今後ノ發展ヲ望ミコスレ之ヲ締メ

出ス如キ意圖無シトテ「ソ」案ノ逐條審議ヲ頻リニ勸ム

ル處アリタルカ我方トシテハ飽ク迄「ソ」案ヲ全面的ニ

否定シ「ソ」側ヨリ新提案ヲ要望スルノ態度ヲ固執セリ

然ル處年內餘日モ少クナリ他方本年內ニ新條約カ締結セ

ラルヘキ議定書ノ規定アルニモ鑑ミ我方ハ十二月十三日

建川大使ヲシテ左記趣旨ヲ主要點トスル提案ヲナサシメ

タリ

(イ)現行漁業條約ヲ無修正ニテ三年間延長ス

(ロ) 罐詰工場及同附屬漁區ニ關スル特別契約ヲ三年間延長ス

(ハ) 留換算率ヲ從來通三年間維持ス

(ニ) 「ソ」側國營企業ニ三年間從來通ノ漁區經營ヲ認ム
右三年案ハ日本人ノ借受中ニ屬スル大部分ノ漁區カ尙向フ三年間契約有效ナルヲ以テ、右三年間ハ此等漁區ノ競賣問題ニ觸ルルコトナク取極ヲ爲シ得ルニ依リ双方ノ爲ニ受諾シ易カルヘキコトヲ考慮セルモノナルカ、「モロトフ」ハ右提案ニ對シテモ反對ノ意向ヲ示シ「ソ」側六月案ヲ固執シツツ日本側ノ經濟的利益ハ之ヲ認メムト言フカ如キ態度ニ出テタリ尙「モ」外相ハ同月二十三日「ソ」政府ノ正式回答ヲナスニ當リテモ日本側提案ヲ拒否スルノミナラス昭和三年ノ漁業條約ヲ以テ既ニ效力ヲ喪失シ特別協定ニ依リ各一年ヲ限り五回ニ涉リ更新セラレタルモノニ過キスト爲シ、依然「ソ」側案ノ逐條審議ヲ要望セリ斯クテ年内ニ我方提案ニ依ル協定ノ成立ハ望少クナレルノミナラス暫定取極ノ締結モ亦困難ナルヤニ認メラレタルヲ以テ我方ハ十二月二十六日「ソ」側ノ主張ヲ幾分考慮スル意味ニ於テ日「ソ」双方ノ案ヲ委員會

ヲ設ケテ審議スルコトトシ、他方年内ニ從來通ノ暫定取極ヲ締結スル案ヲ提議セリ之ニ對シ「モロトフ」ハ主義上同意ヲ表シタルカ二十八日ニ至リ暫定取極ノ締結ニ關シ其附帶協定事項ノ一トシテ從來認メタル「アコ」債券ニ依ル借區料支拂ノ便法（金約款附ニテ留ニ付約三十八錢替）ヲ廢シテ「ソ」聯公定相場（一留ニ付約八十錢替）ヲ採用シ他方右ニ依ル日本側ノ負擔増加ヲ多少輕減スル爲借區契約有效中ノ租借料ヲ二六、五%引下クル案ヲ提議シ、且日「ソ」間ニ懸案トナリ居ル松尾造船所ノ對「ソ」支拂ヲ日本側ニ於テ年内ニ解決スヘキコトヲ主張セリ然ルニ借區料支拂問題ハ前記委員會ノ審議事項タルヘキ重要問題ナルノミナラス「ソ」側提議ニ依ル場合合三百萬圓程度ノ借區料引上トモナルヘキニ鑑ミ我方ハ之ヲ拒否スルコトニ決シ唯我方ノ誠意ヲ示ス意味ニ於テ日本側現有漁區ノ借區料ヲ暫定期間中一割（約三十四萬圓）迄引上クルモ差支ナク又松尾造船所問題ハ一月中旬頃迄二前渡金百六十四萬圓餘ノ外三十五萬圓（ソ）聯通商代表部ニテ同意セル金額迄支拂方措置スルコトトシ十二月三十日建川大使ヲシテ「ソ」側ニ交渉セシメタルカ「ソ」

側ハ全然之ニ耳ヲ藉サス自己ノ提案及主張ヲ執リテ譲ラ
 サリシ爲茲ニ二年内暫定取極ノ交渉モ亦不調ニ終リタリ
 尤モ昭和十六年ニ入り「ソ」側ヨリ建川大使ニ會見方申
 出アリ一月十七日ノ同大使「モロトフ」會談ニ於テ先方
 ハ松尾造船所問題ニ付テハ建川大使提議ノ通前渡金ノ外
 三十萬圓ノ支拂ヲ以テ満足スルト共ニ、「アコ」債券ヲ
 以テスル借區料支拂便法ノ廢止ニ關スル「ソ」側提議ヲ
 撤回シ日本側漁區ノ借區料（從テ抵代稅ヲモ含ム）値上ニ
 付テノミ提案シ來レリ茲ニ於テ乎我方モ客年末提議セル
 借區料割増額ヲ幾分引上ケタル金額ヲ以テ妥結方考慮ス
 ルコトトシ建川大使ヲシテ交渉セシメタル處一月二十日
 ノ會談ニ於テ我方提議ノ通日本漁業者ヲシテ本年限り借
 區料及抵代稅ノ二割（約六十八萬圓）ニ相當スル追加支拂
 ヲナサシムルコトニ先方同意セルヲ以テ條約本交渉ハ委
 員會ヲ設ケテ審議スルコトトシ、暫定取極締結ニ付合意
 成立セリ仍テ同日夜半漁業條約ヲ昭和十六年末迄延長ス
 ル議定書ニ署名ヲ了シ右署名ニ關聯シ前記追加支拂ノ外
 總テ前年通罐詰工場及同附屬漁區ノ經營ニ關スル特別契
 約ノ一年延長、「ソ」聯邦國營企業ニ對スル五百萬「プー

ド」ノ漁獲許與、日本側滿期漁區ノ本年度競賣、「アコ」
 債券ヲ以テスル借區料支拂便法ノ維持等ニ付諒解成立ヲ
 見タリ

~~~~~